

／／ 小さな声を大きな声へ ／／

# フリーランス白書2023

慶應SFC清水たくみ研究室との共同研究も

フリーランス・副業人材の仲介事業者の実態調査も

仕事獲得経路

働き方満足度

発注主との関係構築

仲介事業者

ファイナンス

地方創生



# 第1章 はじめに

「小さな声を大きな声へ」。

職種も、働き方も、年収も異なるさまざまなフリーランスの多様性を可視化し、私たちフリーランス当事者が自らのキャリアを切り拓いていく上での参考となるように。そして、フリーランスの課題やニーズについて広く社会に問題提起できるように。そんな想いで、フリーランス協会では2018年から毎年実態調査を行い、フリーランス白書を公開しています。

会員の皆さまが調査に協力してくださったことがきっかけとなって動いた政策やベネフィットプランは枚挙に暇がありません。最近でも、フリーランス新法（特定受託事業者に係る取引の適正化等に関する法律案）や、育児期間中の経済的支援など、これまで皆さまからお預かりした声に基づき問題提起してきたことが、形になりつつあります。これまで調査にご協力くださった会員の皆さまに、心より御礼申し上げます。

今年のフリーランス白書では、通常の「フリーランス実態調査」に加えて、コロナ禍の3年間で利用者が増加したエージェントサービスを始めとする「フリーランス・副業人材の仲介事業者実態調査」も実施しました。「フリーランス実態調査」の中では、毎年確認している年収や仕事獲得経路、満足度などの項目に加えて、取引先との関係構築の在り方（取引先社数や一案件あたりの契約期間、自身の値付けなど）や、資金調達のニーズや課題について調査しました。また、慶應義塾大学SFC清水たくみ研究会との共同研究で、コロナ禍前の2019年に実施した「フリーランスの地方での就労意欲調査」の再調査も行っています。

働き方の選択肢がどんどん増えて広がっていくということは、一人ひとりが、自分で決めることを求められるようになっていくということでもあります。「他のフリーランスはどうしているんだろう?」。そんな疑問の答えが、フリーランス白書の中にあるかもしれません。

本調査結果が、フリーランスが安心して活躍できる社会に向けた環境整備の一助となると同時に、一人ひとりのフリーランスが自身のキャリアアップや生存戦略を考え、自律的に意思決定するための参考となりましたら幸いです。

2023年3月  
プロフェッショナル&パラレルキャリア・フリーランス協会  
代表理事 平田麻莉

第1章	<u>はじめに</u>	P.2
第2章	<u>フリーランス実態調査</u>	P.5
2-1	<u>回答者属性</u>	P.10
2-2	<u>フリーランスの仕事獲得経路と働き方満足度</u>	P.17
2-3	<u>フリーランスと発注主との関係構築</u>	P.25
2-4	<u>フリーランスのファイナンス</u>	P.33
2-5	<u>フリーランスと地方創生</u>	
	※慶應義塾大学SFC清水たくみ研究会との共同研究	P.44
第3章	<u>フリーランス・副業人材の仲介事業者実態調査</u>	P.63
第4章	<u>フリーランス協会の活動について</u>	P.73

※引用・転載にあたってのお願い

本調査結果は、下記条件に基づき、ご自由に引用・転載いただくことができます。

1) 必ず下記のクレジット表記をお願いします。

一般社団法人プロフェッショナル&パラレルキャリア・フリーランス協会「フリーランス白書 2023」

2) お手数ですが当協会事務局へ掲載報告をお願いします。

- ・ウェブサイトの場合：メールにて掲載URLをお知らせください
- ・印刷物の場合：掲載された書籍や記事を郵送でお送りください
- ・テレビ放映の場合：予め放映日をお知らせください

# 第2章 フリーランス実態調査

### ■ 今回調査：

#### ➤ 白書2023ーフリーランス実態調査

調査期間：2022 年9月30日～2022年11月17日

調査方法：オンラインのアンケート調査フォームによる回答収集

告知方法：フリーランス協会メールマガジン・公式SNS

有効回答数：878名 (内 フリーランス・パラレルキャリア活動者 850名)

調査主体：一般社団法人プロフェッショナル&パラレルキャリア・フリーランス協会

### ■ 過去調査：

#### ➤ [白書2018](#)

調査期間：2017年10月2日～11 月13日

有効回答数：1,141名

#### ➤ [白書2019](#)

調査期間：2018年10月24日～12月7日

有効回答数：869名

#### ➤ [白書2020](#)

調査期間：2019 年10月23日～11月24日

有効回答数：601名 (内 フリーランス・パラレルキャリア活動者 568名)

#### ➤ [白書2021](#)

調査期間：2020 年12月23日～2021年1月25日

有効回答数：733名 (内 フリーランス・パラレルキャリア活動者 715名)

#### ➤ [白書2022](#)

調査期間：2021 年11月30日～2021年12月27日

有効回答数：1,254名 (内 フリーランス・パラレルキャリア活動者 1,236名)

※調査方法・調査主体は白書2023と同様

### ▼2-1 回答者属性

- アンケート回答者（副業・すきまワーカーを含む）の**現在の年収は、「200-400万円未満」がもっとも多く約3割で、「200万円未満」「400-600万円未満」が約2割ずつ**であった。(n=237)  
参考) 国税庁『令和3年分 民間給与実態統計調査』正社員（正職員）は508万円、正社員（正職員）以外は198万円
- アンケート回答者数**上位5職種**の現在の年収を分析すると、**エンジニア・技術開発系とコンサルティング系**はいずれも約8割が**400万円以上**であった。一方、**クリエイティブ・Web・フォト系**で年収400万円以上だったのは約5割、**通訳翻訳系と出版・メディア系**ではいずれも約4割にとどまった。業務の単価の差に加えて、後者は副業・すきまワーカーが従事しやすい職種であり、稼働時間が短めの人も多いからだと予想される。
- **フリーランスとして得ている収入の世帯に占める割合**は、男性では「8割以上」が約6割であるのに対し、女性は「4割弱」であった。現状では**家事労働などに時間を取られている女性が短い就業時間で効率よく業務を行い、家計のサポートを行っている**ことが推定される。

### ▼2-2 フリーランスの仕事獲得経路と働き方満足度

- **もっとも収入が得られる仕事獲得の経路**については、**コロナ禍から下落していた「人脈」の割合(33.6% n=286)**は回復しておらず、第2位の「過去・現在の取引先」(33.5% n=285)とほぼ同率であった。一方、**コロナ禍後から上昇傾向にあった「エージェントサービスの利用」はコロナ禍後に上昇した値を維持**している。(12.4% n=105)
- エージェントサービス利用者の**登録しているサービス数は「3サービス」(25.1% n=54)**がもっとも多く、次いで「1サービス」(22.8% n=49)、「2サービス」(19.5% n=42)であった。そのうちの直近1年で稼働したサービス数は、**約半数の人が「1サービス」と回答した**。(45.6% n=98)
- エージェントサービスに求めること上位3つは、**案件紹介(77.8% n=661)**、**条件・価格交渉(63.9% n=543)**、**発注元企業とのトラブル仲介(49.9% n=424)**であった。営業代行の感覚で利用しているフリーランスが多いと推察される。
- **現在の働き方に対する満足度は、9項目中6項目(全般、就業環境、仕事上の人間関係、達成感/充実感、プライベートとの両立、スキル/知識/経験の向上)が6割を超えるが、残り3項目(多様性に富んだ人脈形成、収入、社会的地位)の満足度は約3割にとどまった**。そのうち「収入」「社会的地位」の2項目はコロナ禍以前から低い値であったが、「**多様性に富んだ人脈形成**」は**コロナ禍後急速に減少し、現在も回復していない**。
- コロナ禍前との比較では満足度が下がった項目も多かったものの、**会社員時代との比較では、満足度、スキル/経験、生産性は約7~8割の人が「増えた(上がった)」と回答**。一方、**働く時間は約6割が「減った」と回答した**。人脈や収入が「増えた(上がった)」のは約5割であった。



### ▼2-3 フリーランスと発注主との関係性

- **発注主との連絡に利用するツール**を複数回答で聞いたところ、第1位は「メール」で約9割であった。(88.4% n=751) 第2位の「電話」(46.8% n=398)と第3位の「Zoom」(44.4% n=377)はほぼ同率であった。第4位「Slack」(35.6% n=300)、第5位「chatwork」(31.7% n=267)を含め、**ビデオ通話やチャットツールがフリーランスのビジネスシーンにもしっかりと根付いていることがわかった。**
- **受注案件の平均的な契約期間**は「**スポット(単発)**」が約3割(32.9% n=280)でもっとも多かった。一方で、2番目に多いのは「**複数年**」(16.9% n=144)で、職種等によって発注者との付き合い方は大きく異なるとみられる。
- **同時進行している平均的な案件数**は「**2件**」が約3割(27.4% n=233)でもっとも多く、「3件」が約2割(19.6% n=166)の一方で、「1件のみ」も約2割(23.4% n=199)であった。5分の1のフリーランスが取引先1社依存の状態にある可能性がある。
- **自分が意識している時間単価**は、「7千円以上」が約1割、「4~7千円未満」が約3割、「2~4千円未満」が約4割、「2千円未満」が約2割であった。
- **取引先や知人から何と呼ばれるとじっくりくるのか**を複数回答で聞いたところ、「**フリーランス**」(61.2% n=520)、「**個人事業主**」(52.9% n=450)が半数を超えた。フリーランスと呼ばれたい人は、雇われていない自由な働き方を表す呼称でよばれることを重視し、個人事業主と呼ばれたい人は、事業者としての信頼感を印象付けられることを重視するようだ。

### ▼2-4 フリーランスのファイナンス

- **事業用口座を開設している割合は6割を超え**(66.1% n=562)、**事業用カードを作成している割合は約半数**(46.4% n=394)であった。
- フリーランスとしての働き方を始めてから**資金調達が必要だと感じた経験があると回答した割合は約3割**で、そのうち実際に**資金調達した経験者は約8割**であった。(80.4% n=185) 調達手段は、「**補助金・助成金**」が**最多**だった。(56.8% n=105)
- **資金調達経験者の使用用途**を複数回答で聞いたところ、必要に迫られての「**生活費**」(37.8% n=70)、「**事業運営のつなぎ(生活費を除く)**」(35.7% n=66)のほか、「**事業拡大のための設備投資(車両を除く)**」(34.1% n=63)、「**スキルアップのための自己投資**」(24.9% n=46)といった成長のための投資が上位に挙がっていた。
- **平均的な1回の調達額は「20万円未満」が最多**(24.5% n=45)で、「100~200万円未満」(20.1% n=37)、「50~100万円未満」(16.3% n=30)と続く。年収別に分析すると、**年収(≒事業規模)によって調達額が異なる傾向**があった。
- 年収に関係なく、**資金調達経験者のうち約2割が審査落ちの経験**をしていた。



▼2-5 フリーランスと地方創生 ※慶應義塾大学SFC清水たくみ研究会との共同研究

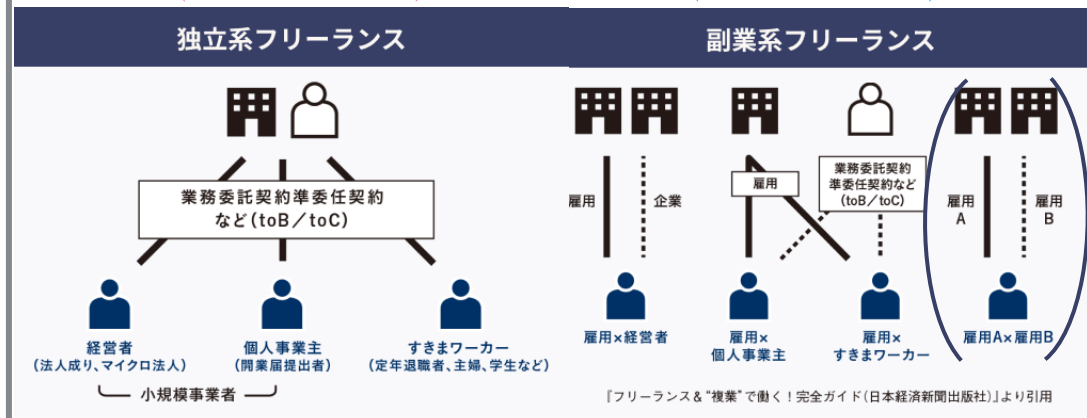
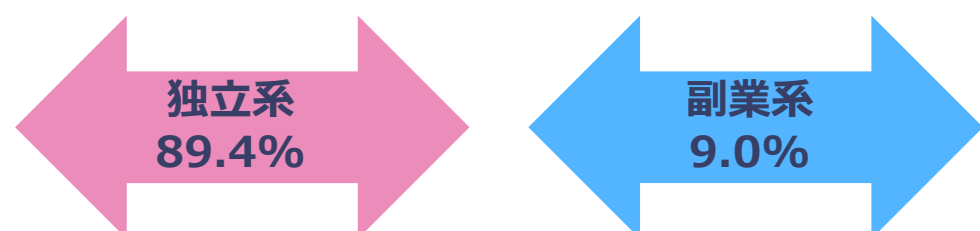
- 新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、フリーランスの業務にも**リモートワークが大きく浸透**してきており、仕事先への出勤頻度も以前と比べて大幅に減少している。今後のリモートワーク継続意向も根強く、フリーランスの働き方に不可逆的変化が生じている。
- リモートワーク普及により、発注企業所在地の制約が緩和され、業務柔軟性が高まることで**ワークライフバランスを保ちながら受注を受けやすい状況**が確立されつつある。リモートワークの負の影響として一般に懸念される企業との関係構築や仕事の負荷増大についても影響は限定的である一方、**新たなつながりの構築**という点に関しては課題を感じるフリーランスも一定数存在。
- 新型コロナ／リモートワーク普及以後、それ以前と比べて**地方創生への関心が高まった**フリーランスは少なくない一方、実際に地方企業等からの依頼や受注増につながったケースはまだ少数。首都圏外組織からの受注につながった際の経路としては、**自身のホームページ／SNS経由**が確実に増加しており、フリーランス側の今後の意向としてもそれらを有効活用して首都圏外組織との協業につなげていきたい意向が強い。また、コロナ以前と比べてフリーランスと首都圏外組織の間でも**チャットツールやビデオ会議ツールの使用**が一般的となり、今後もコミュニケーションの主要手段となることが見込まれる。
- 今後、**首都圏外組織と業務を実施したい**と考えるフリーランスのニーズは極めて大きい（回答者の半数以上）。その意向を持つフリーランスはそうでない者と比べて、相対的に**業務の社会貢献性**をより強く意識する傾向がある。ただし首都圏外組織との仕事においては、**リモートワーク体制・コミュニケーション体制・交通費等を含めた報酬体制**などに対する不安／懸念も一定数存在している。それらを組織的に支援／整備することで、フリーランスと地方創生とのより生産的な関係性構築が期待される。



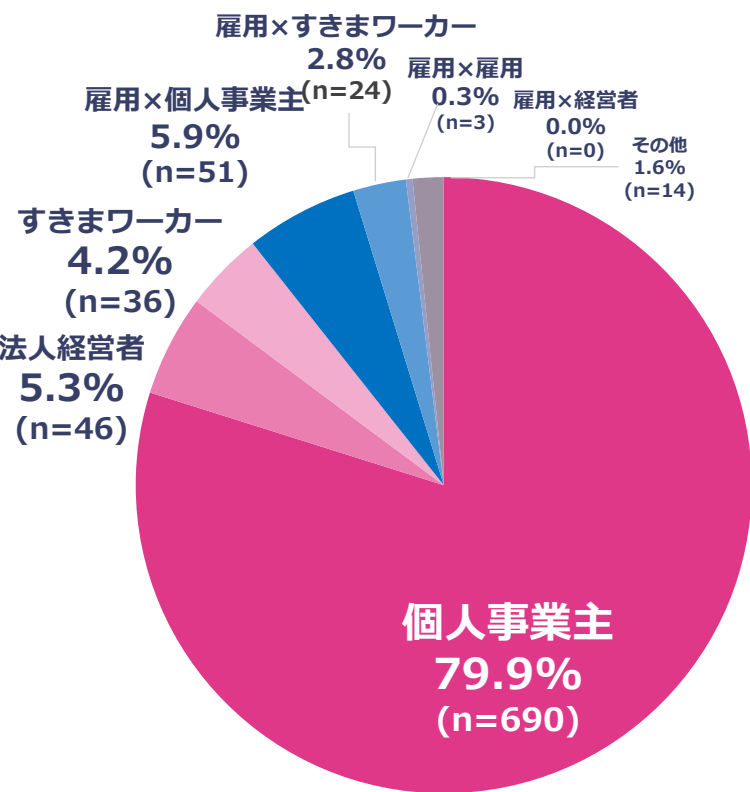
## 2-1. 回答者属性

現在の就業形態

(n=864)



経済法 (独禁法、下請法)、民法 (請負法、準委任)			適用法	労働法 (本業時) + 経済法、民法 (副業時)	労働法
協会けんぽor 健康保険組合	国民健康保険 or扶養	扶養or 国民健康保険	健康保険	健康組合保険	
第2号	第1号 (厚生年金なし)	第1号 or 第3号	年金保険	第2号or第3号 (厚生年金あり)	
×	×	×	雇用保険	○ ※但し、副業としての業務は対象外	
×			労災保険	○ ※但し、副業としての業務は対象外	
× ※但し、特別加入制度あり			労働時間規制	本業では規制あり、副業では規制なし	通算義務あり
規制なし					



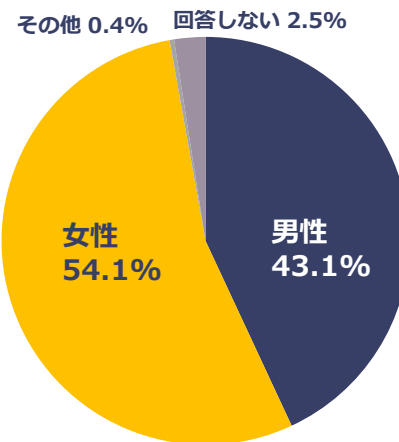
※回答した878名から「フリーランス・パラレルワーカーとして活動していない」と回答した14名を除く

(n=850)

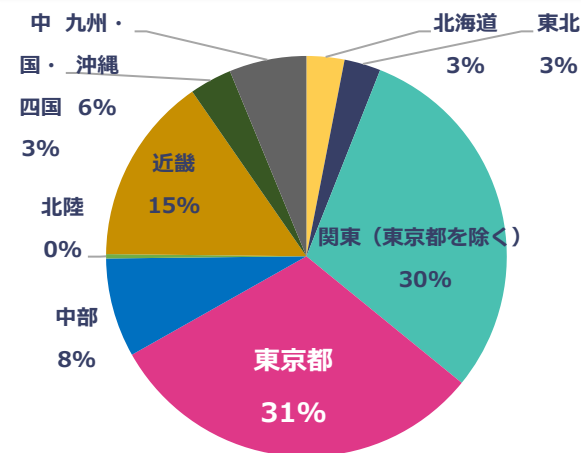
年齢



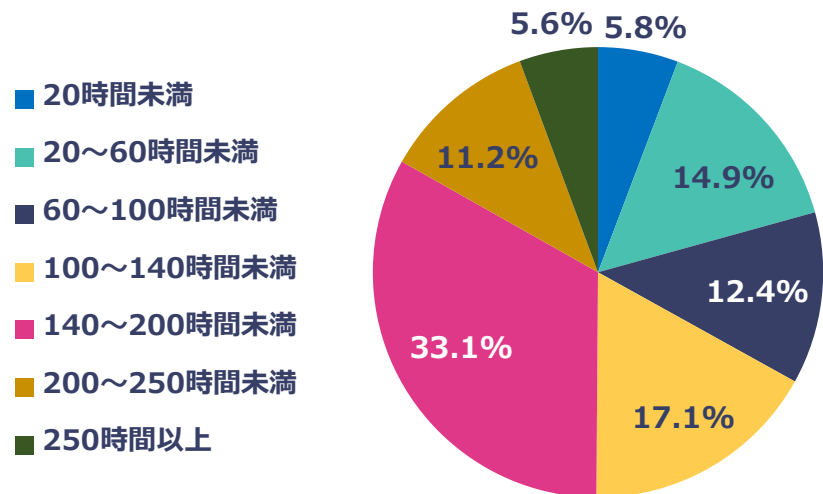
性別



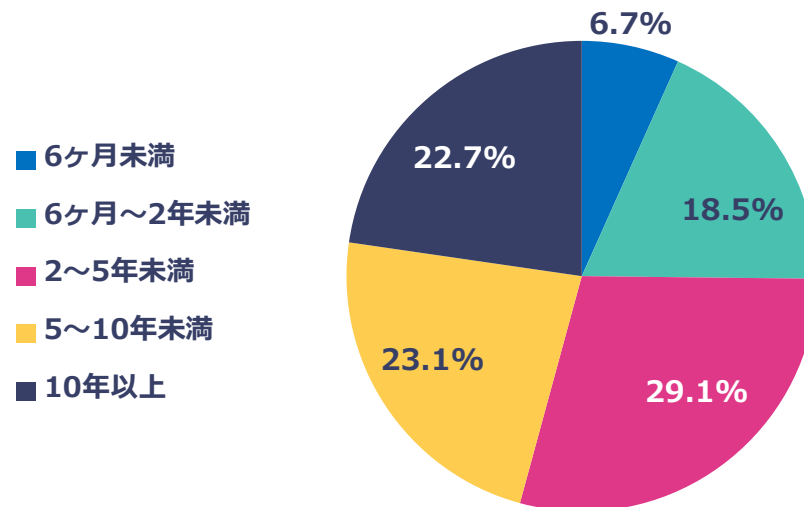
居住地



月間稼働時間



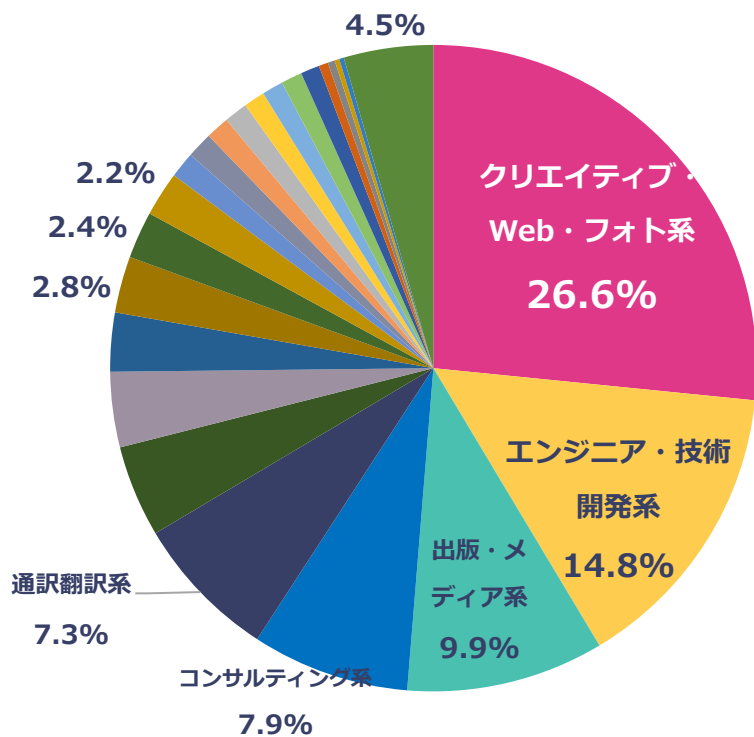
現在の形態での就業期間（フリーランス歴）



※回答した878名から「フリーランス・パラレルワーカーとして活動していない」と回答した14名、「その他」と回答した14名、計28名を除く

主な収入源となる職種

(n=850)

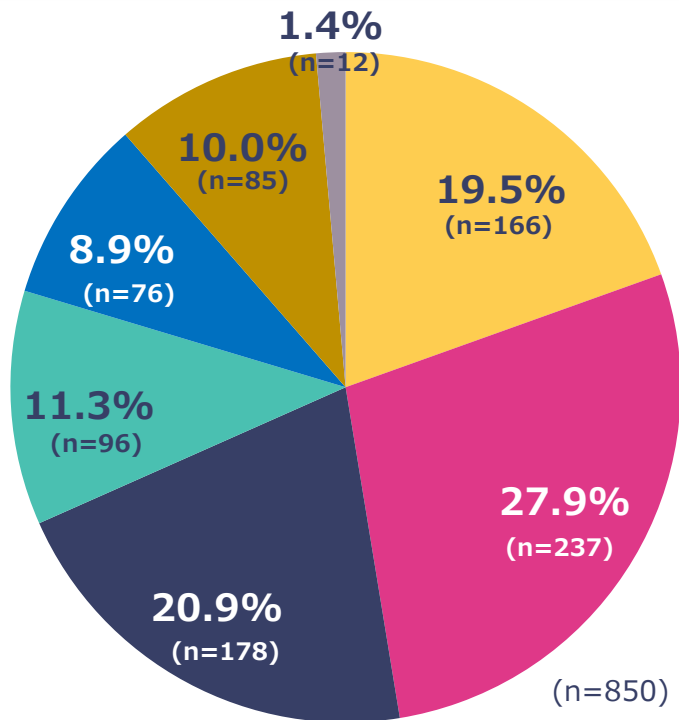


主な収入源となる職種	回答数	割合
1 クリエイティブ・Web・フォト系	226	26.6%
2 エンジニア・技術開発系	126	14.8%
3 出版・メディア系	84	9.9%
4 コンサルティング系	67	7.9%
5 通訳翻訳系	62	7.3%
6 事務・バックオフィス系	39	4.6%
7 企画系	32	3.8%
8 教育系	25	2.9%
9 人事・人材系	24	2.8%
10 営業・販売・小売系	20	2.4%
11 映像制作系	19	2.2%
12 医療福祉系	11	1.3%
13 芸術系	11	1.3%
14 飲食系	10	1.2%
15 士業系	10	1.2%
16 ライフサポート系	9	1.1%
17 スポーツ・健康系	9	1.1%
18 建築・施工系	9	1.1%
19 配達・運送系	8	0.9%
20 金融保険系	4	0.5%
21 美容ファッション系	3	0.4%
22 MC・モデル・タレント系	2	0.2%
23 観光系	2	0.2%
24 その他	38	4.5%
全体	850	100.0%

- クリエイティブ・Web・フォト系
- エンジニア・技術開発系
- 出版・メディア系
- コンサルティング系
- 通訳翻訳系
- 事務・バックオフィス系
- 企画系
- 教育系
- 人事・人材系
- 営業・販売・小売系
- 映像制作系
- 医療福祉系
- 芸術系
- 飲食系
- 士業系
- ライフサポート系
- スポーツ・健康系
- 建築・施工系
- 配達・運送系
- 金融保険系
- 美容ファッション系
- MC・モデル・タレント系
- 観光系
- その他

※「その他」回答抜粋  
Youtuber、舞台技術、データ入力、製図業（建築CAD）、学術研究、国際協力など

回答者自身の現在の年収 (n=850)



- 200万円未満
- 200-400万円未満
- 400-600万円未満
- 600-800万円未満
- 800-1000万円未満
- 1,000万円以上
- わからない・答えたくない

収入全体に占めるフリーランス・複業者としての収入割合 (n=838)

収入全体に占めるフリーランス、パラレルキャリア（複業者）としての収入割合	回答数	割合
1 10割（すべて）	641	76.5%
2 8~9割	51	6.1%
3 6~7割	34	4.1%
4 4~5割	26	3.1%
5 2~3割	40	4.8%
6 1割	32	3.8%
7 まったくない	10	1.2%
8 わからない・答えたくない	4	0.5%
全体	838	100.0%

世帯収入全体に占める回答者の収入割合 (n=838)

世帯収入全体にしめる収入割合	回答数	割合
1 10割（すべて）	310	37.0%
2 8~9割	84	10.0%
3 6~7割	123	14.7%
4 4~5割	118	14.1%
5 2~3割	125	14.9%
6 1割	36	4.3%
7 まったくない	10	1.2%
8 わからない・答えたくない	32	3.8%
全体	838	100.0%

↑ ↓ **主な家計の担い手47.0%**

↑ ↓ **世帯収入の約半分28.8%**

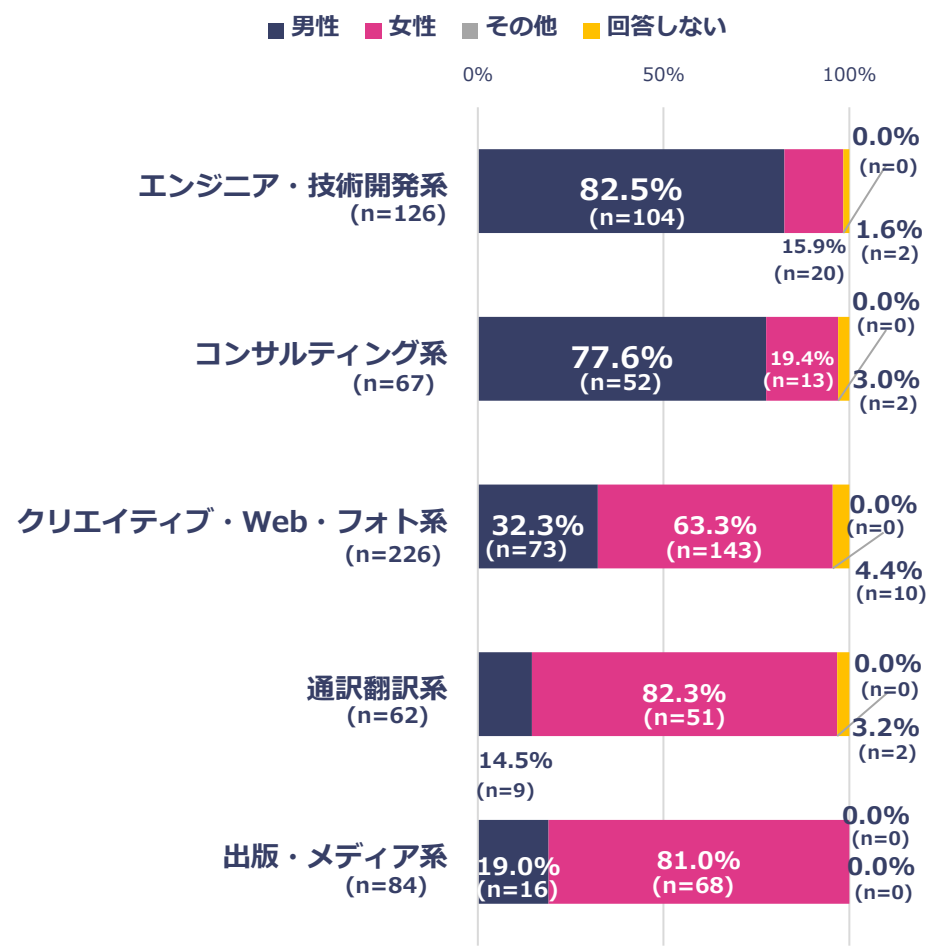
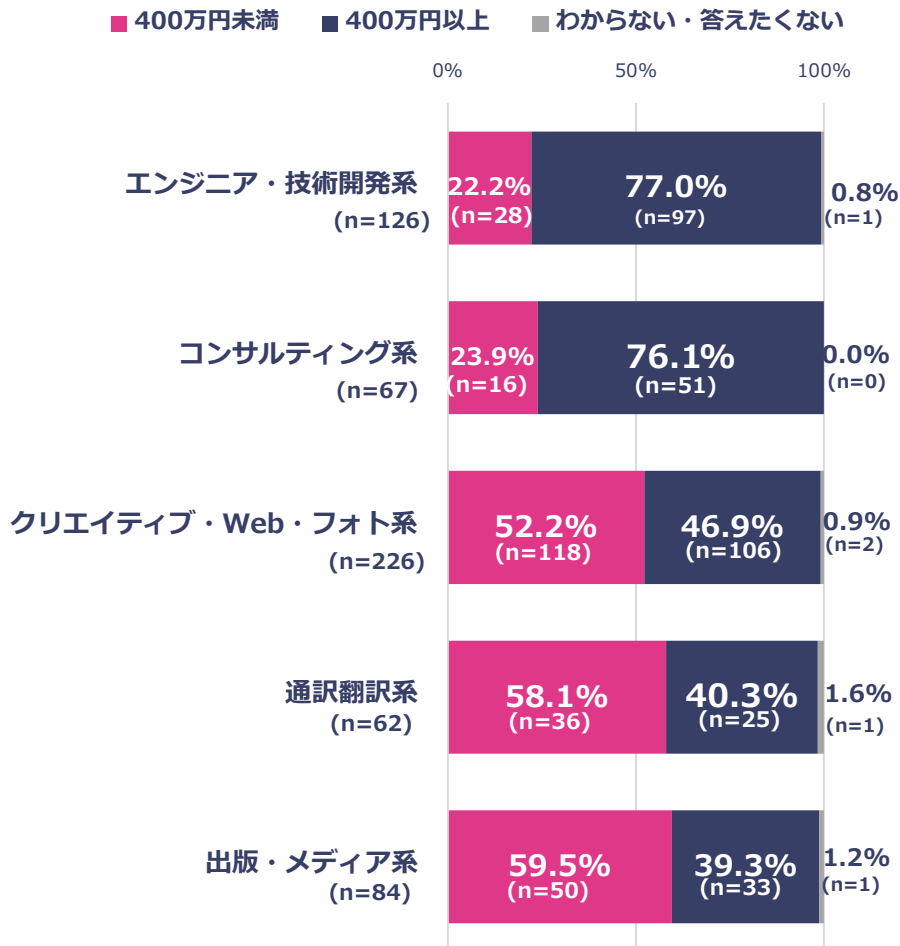
↑ ↓ **家計サポート19.2%**

※現在の収入で「わからない・答えたくない」と回答した12名を除く

# 【職種別】年収と男女比

回答者数上位5職種別 年収 (n=565)

回答者数上位5職種別 男女比 (n=565)



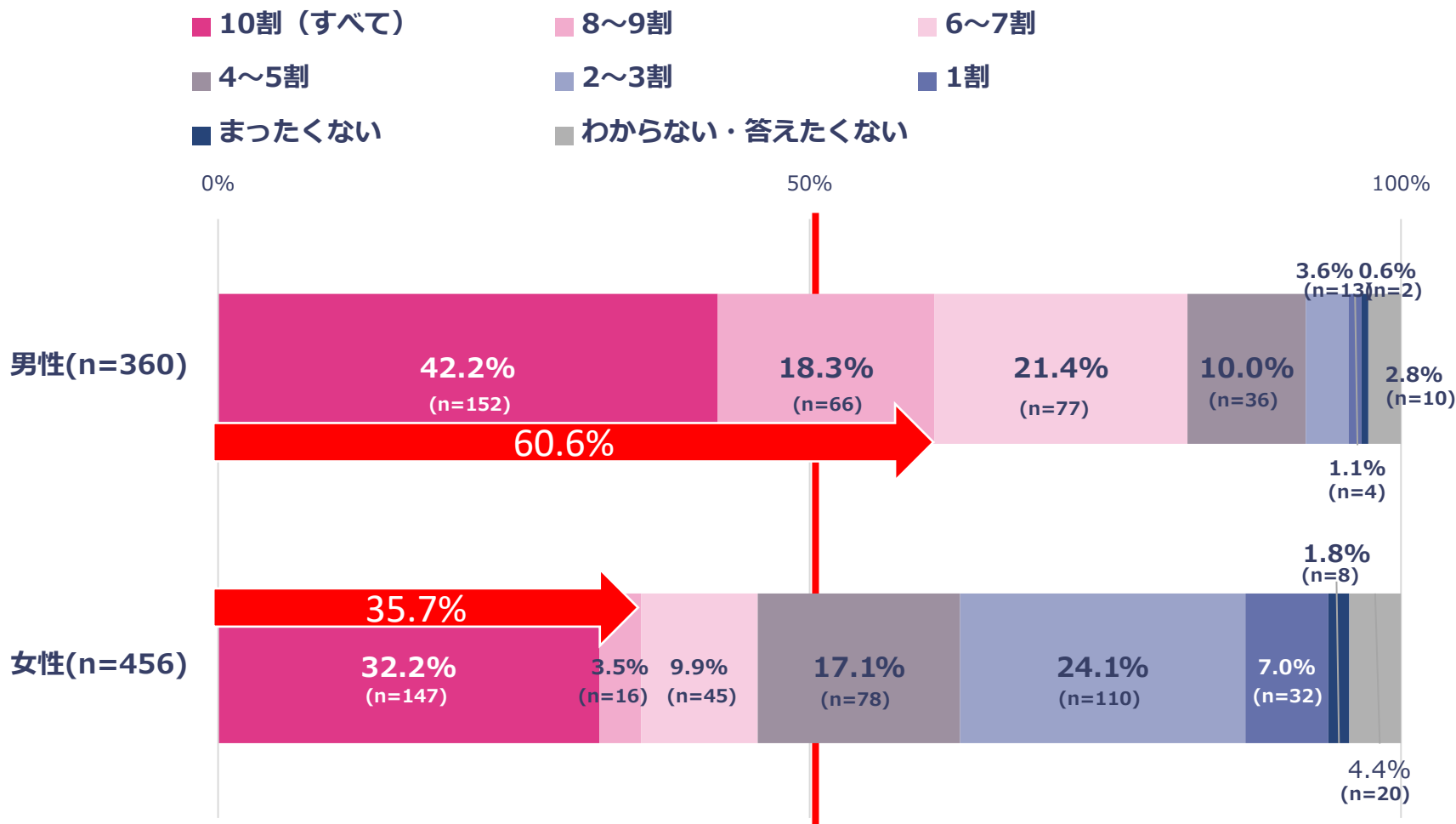
現在の収入と男女比を回答者数上位5職種別に分析したところ、**年収が400万以上の回答割合が高かったのはエンジニア・技術開発系、コンサルティング系で約8割**であった。一方、同5職種の回答者男女比を分析したところ、**エンジニア・技術開発系、コンサルティング系は男性が約8割**となっており、回答者の性別は、職種によって大きな偏りがあることがわかった。



■ 【男女別】 世帯全体に占める回答者の収入割合

【男女別】 世帯収入全体に占める回答者の収入割合

(n=816)

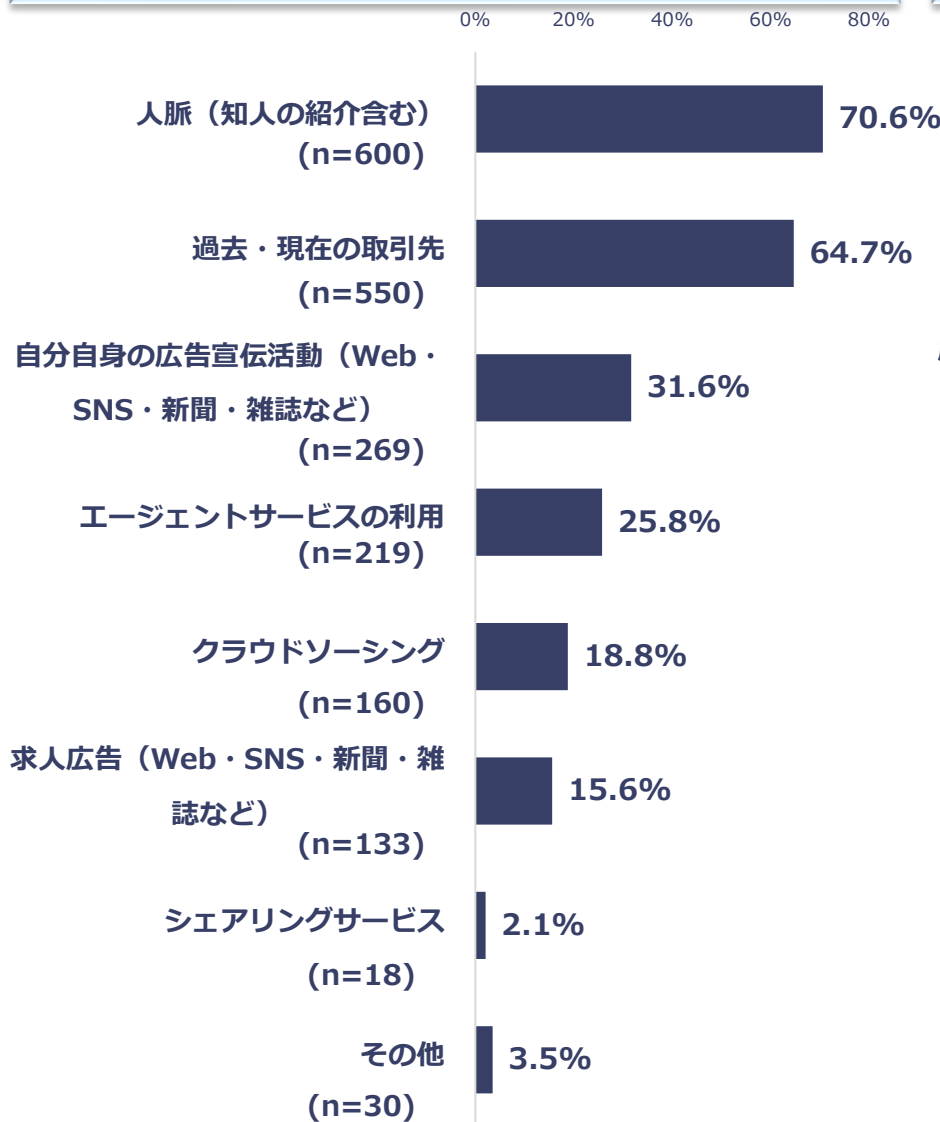


現在の収入の世帯全体に占める割合を男女別に分析したところ、8割以上と回答した割合は男性は約6割であったのに対し、女性は4割弱となった。女性は「2~3割」の回答割合が「10割」に次いで多く、24.1%(n=110)であった。

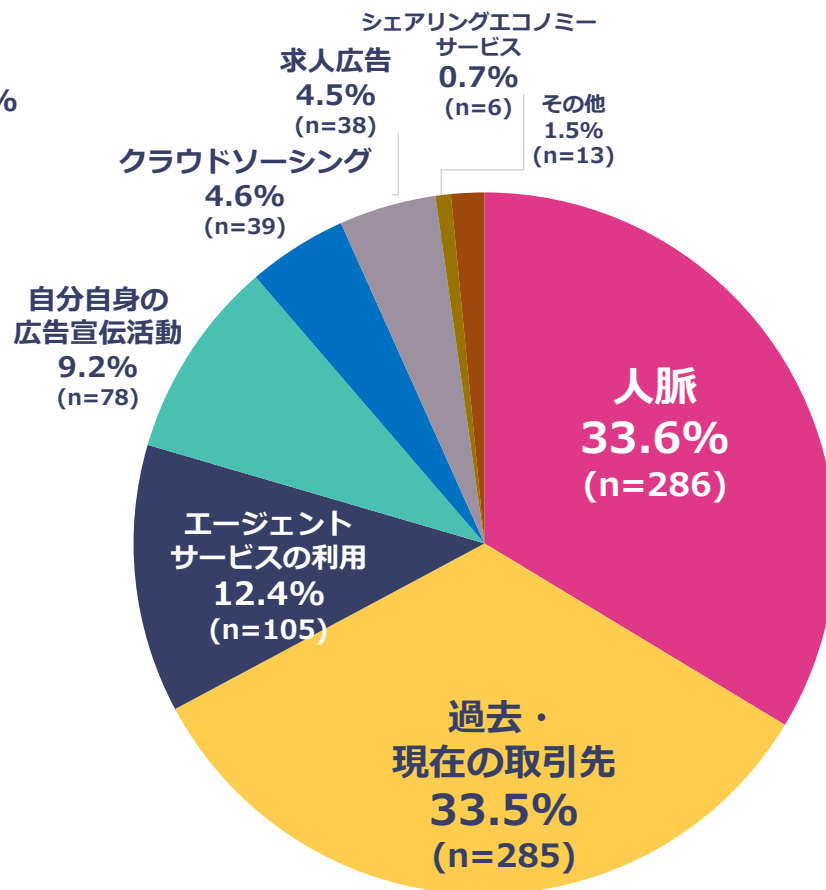
※現在のフリーランスとしての収入で「わからない・答えたくない」と回答したうち、男性もしくは女性を選択した10名を除く

## 2-2. フリーランスの仕事獲得経路 と働き方満足度

直近1年間で仕事獲得に繋がったことのあるもの  
(複数回答) (n=850)



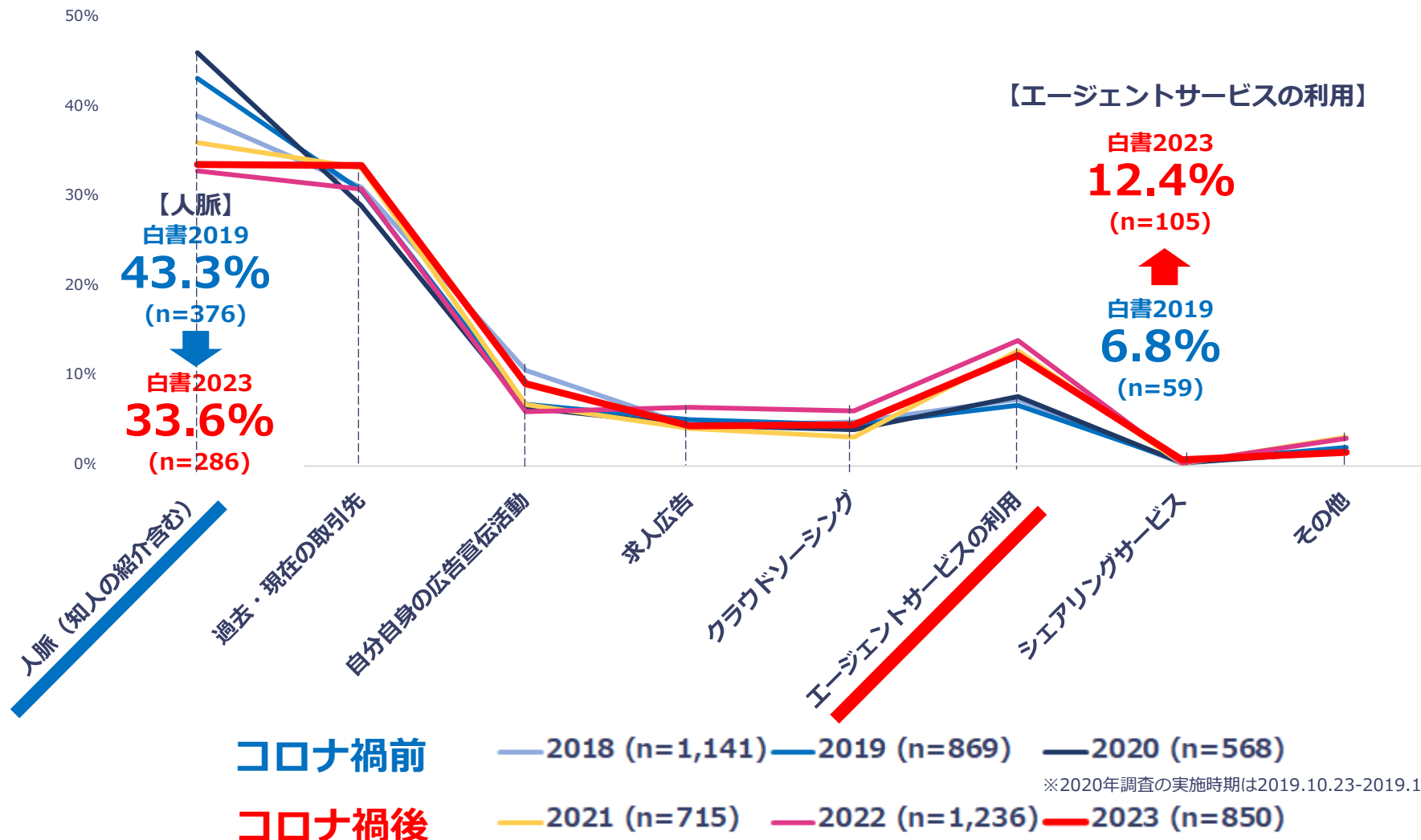
その中で、最も収入が得られる仕事の獲得経路  
(単一回答) (n=850)



※エージェントサービスは、コーディネーターによる仲介支援を伴うマッチングサービスを指す

■ 【年度別】最も収入が得られる仕事獲得経路

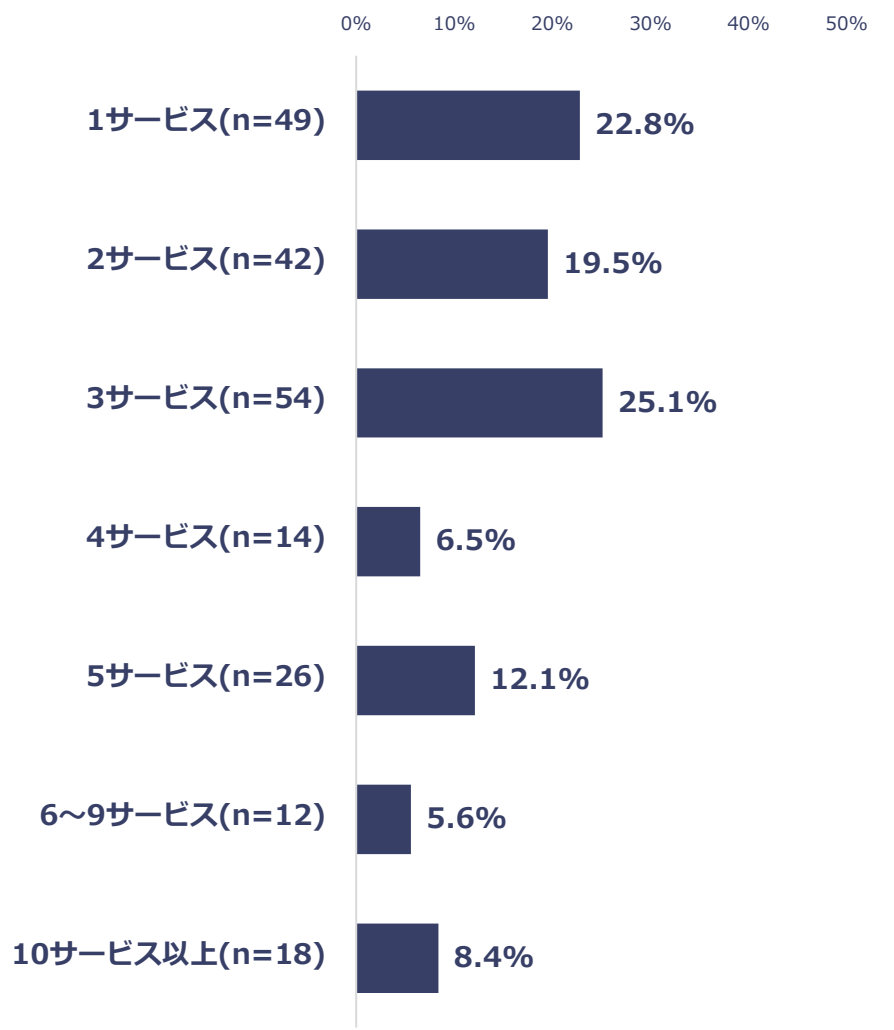
【年度別】最も収入が得られる仕事獲得経路



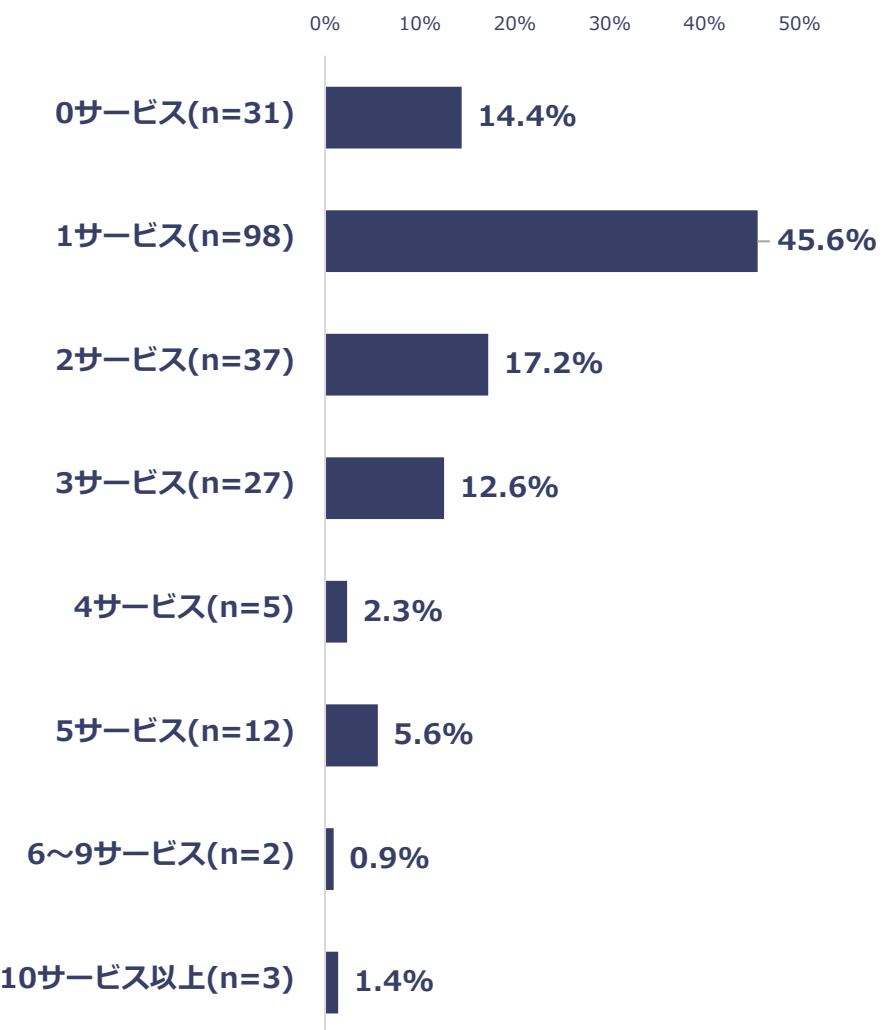
コロナ禍後の白書2021、白書2022同様、コロナ禍前に比べ最も収入が得られる仕事獲得経路として「人脉」の割合が下り、「エージェントサービスの利用」の割合が上がっている。

■ 【エージェントサービス利用者】登録しているサービス数と直近1年で稼働したサービス数

登録しているエージェントサービス数 (n=215)



その中で、直近1年で稼働したサービス数 (n=215)



※仕事獲得経路について【エージェントサービスの利用】を選択した回答者215名

■ フリーランスがエージェントサービスに求めること（複数回答）

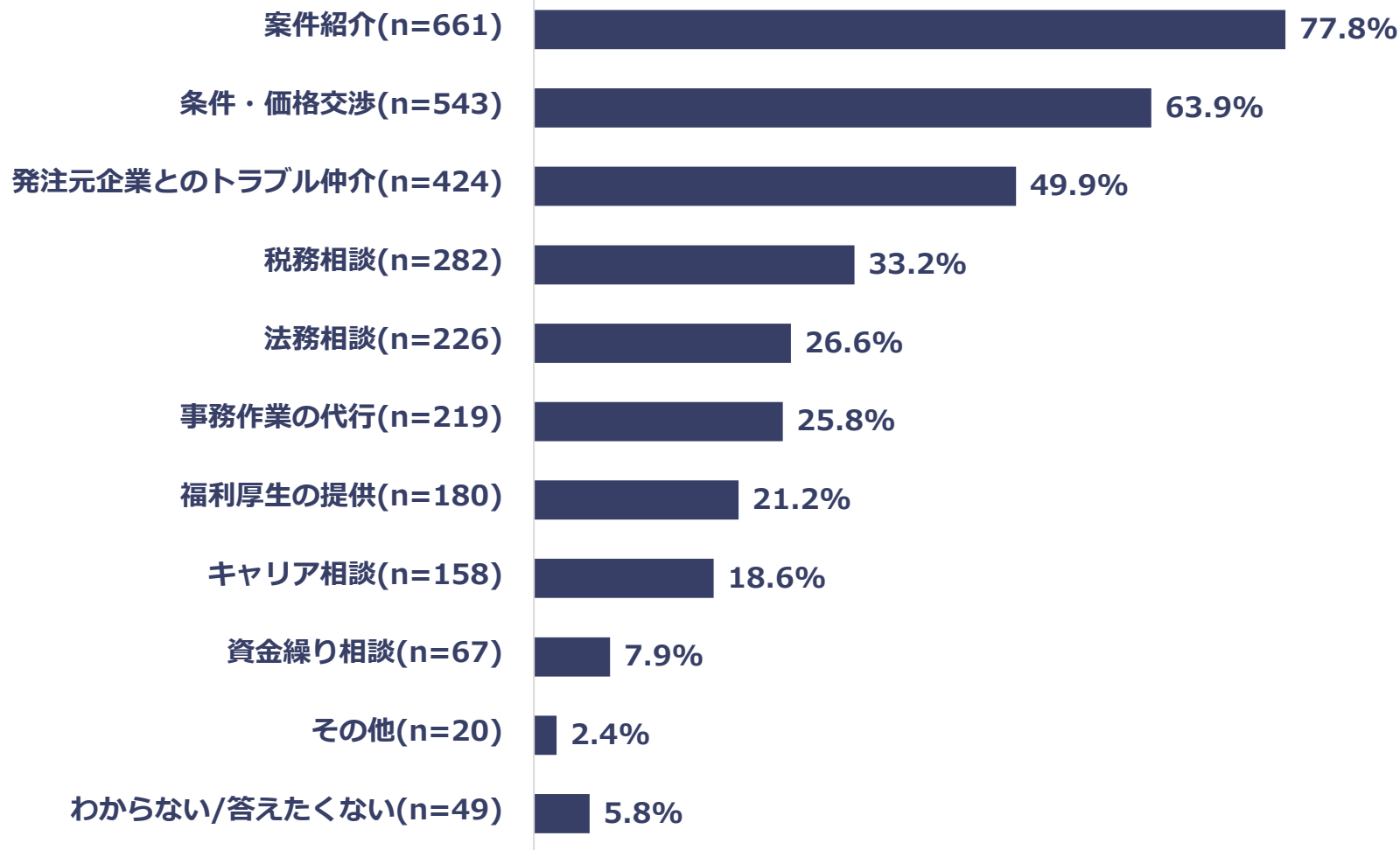
エージェントサービスに求めること（複数回答）

(n=850)

0%

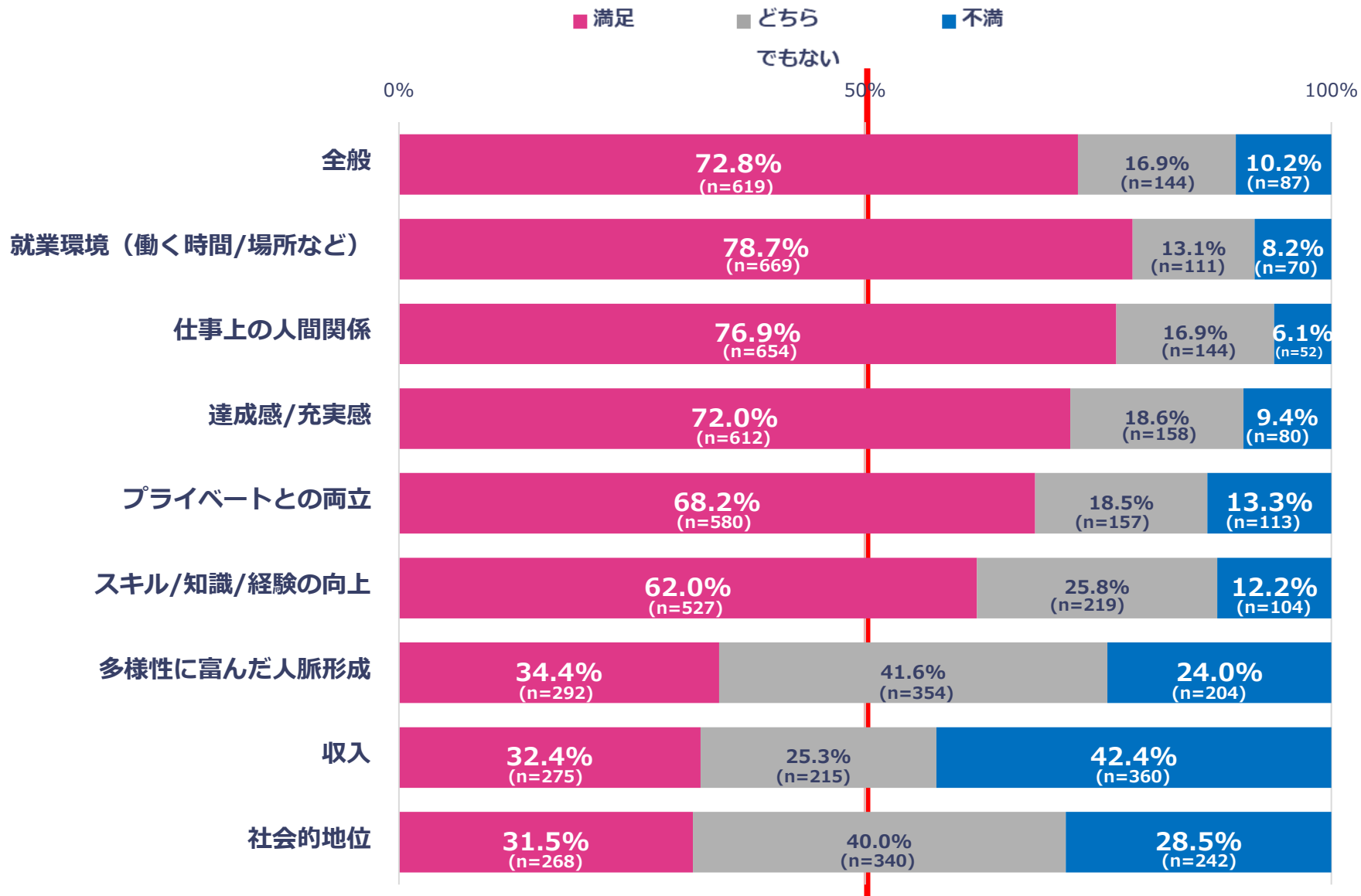
50%

100%



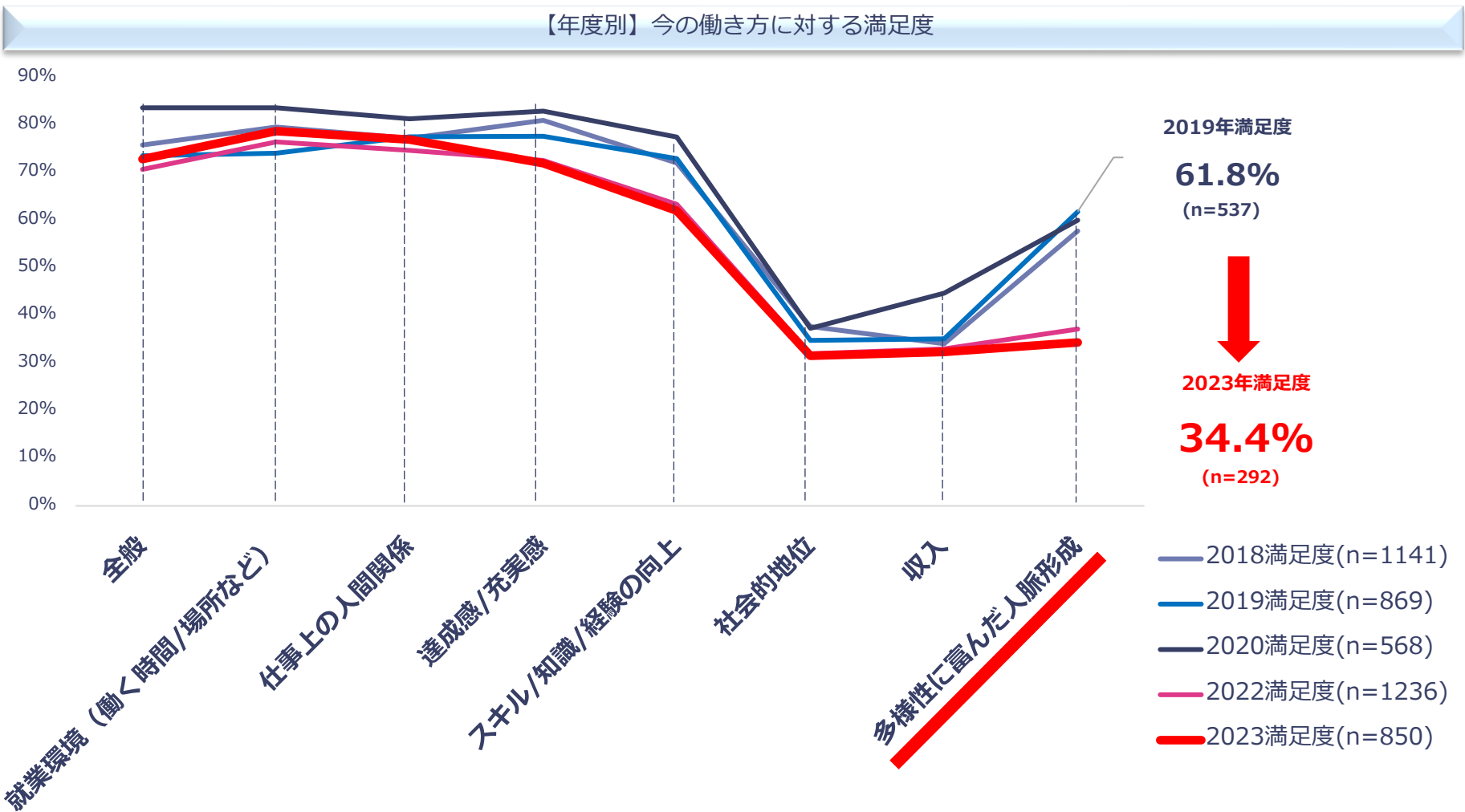
■ 今の働き方に対する満足度

今の働き方に対する満足度 (n=850)





■ 【年度別】今の働き方に対する満足度



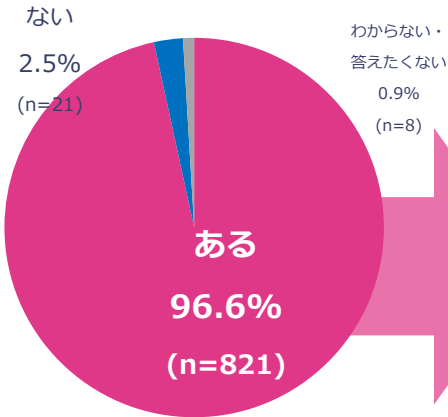
過去5回\*のフリーランス白書調査で聴取した今の働き方に対する満足度8項目を比較したところ、「多様性に富んだ人脈形成」の項目について、コロナ禍後の2022年、2023年調査で満足度が大きく低下していることがわかった。満足と答えた割合が最も高い白書2019の**61.8%**に比べ、白書2023年は**34.4%**となり、**-27.4ポイント**であった。

※白書2021では、今の働き方に対する満足度については未聴取

■ 会社員時代に比べて、増えた（上がった）/減った（下がった）もの

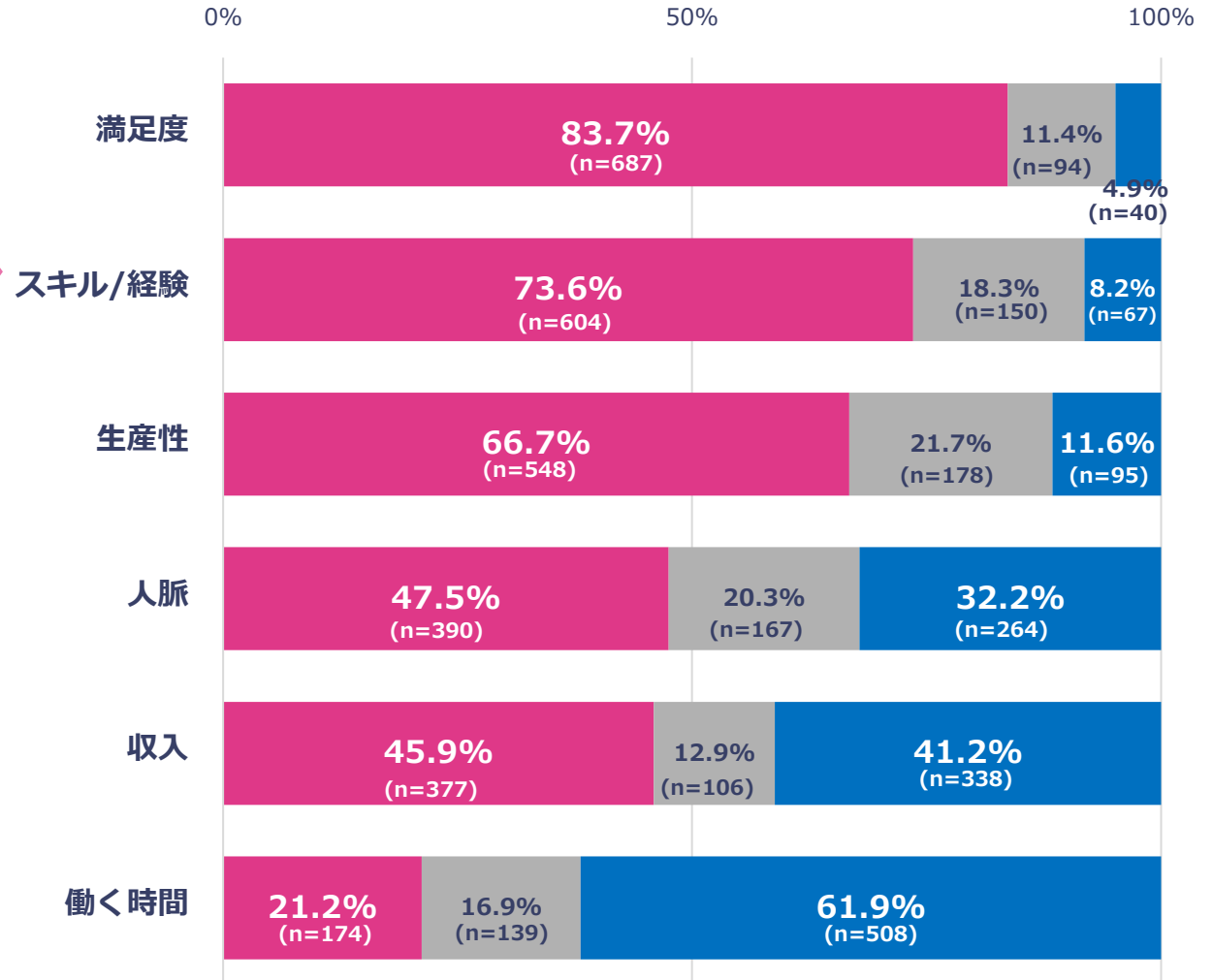
過去に一つの会社に所属していた経験

(n=850)



【会社に所属していた経験がある回答者】会社員時代との比較 (n=821)

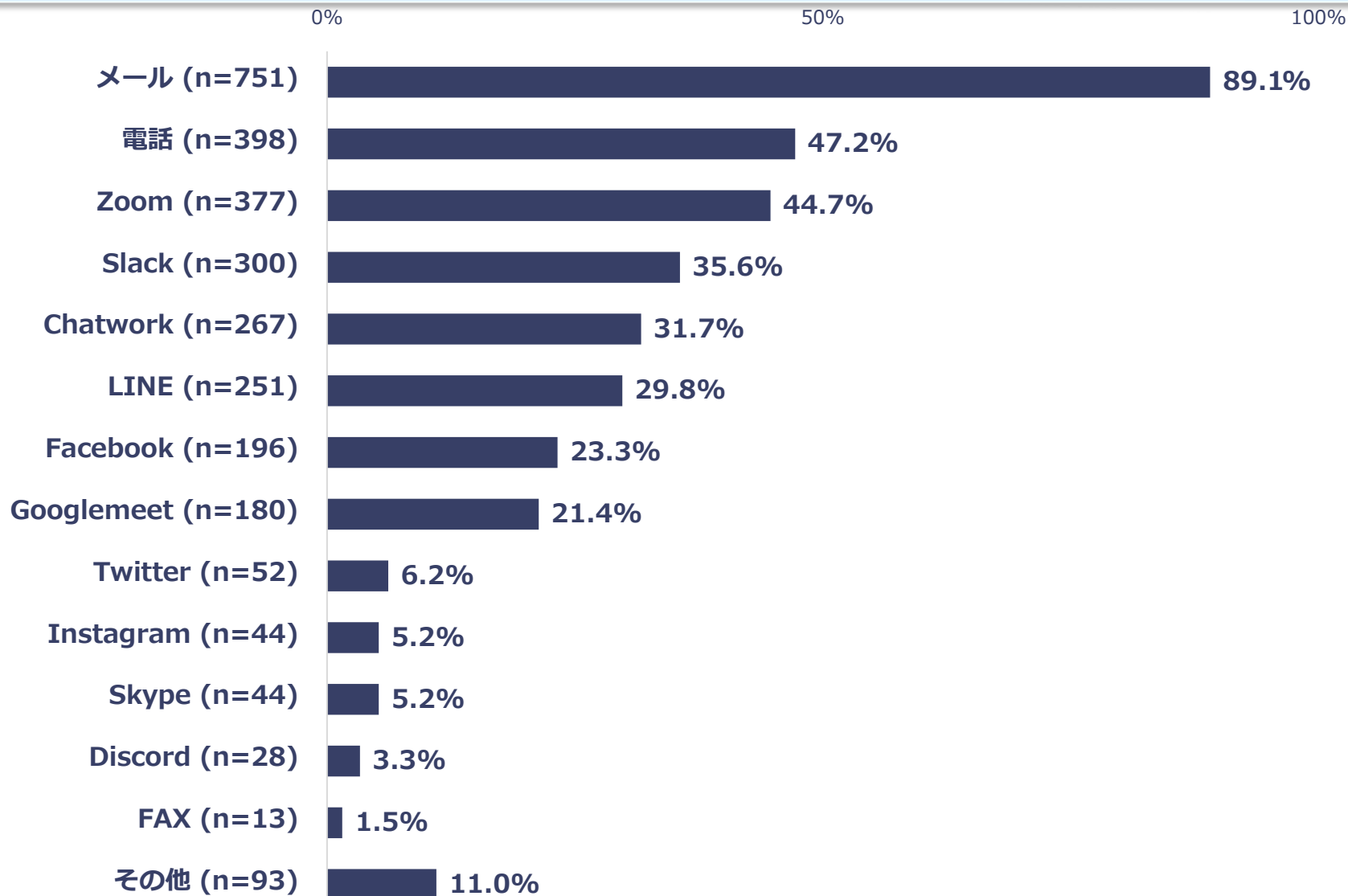
■ 増えた（上がった） ■ 変わらない ■ 減った（下がった）



## 2-3. フリーランスと発注主との関係構築

発注主との連絡に利用するツール（複数回答）

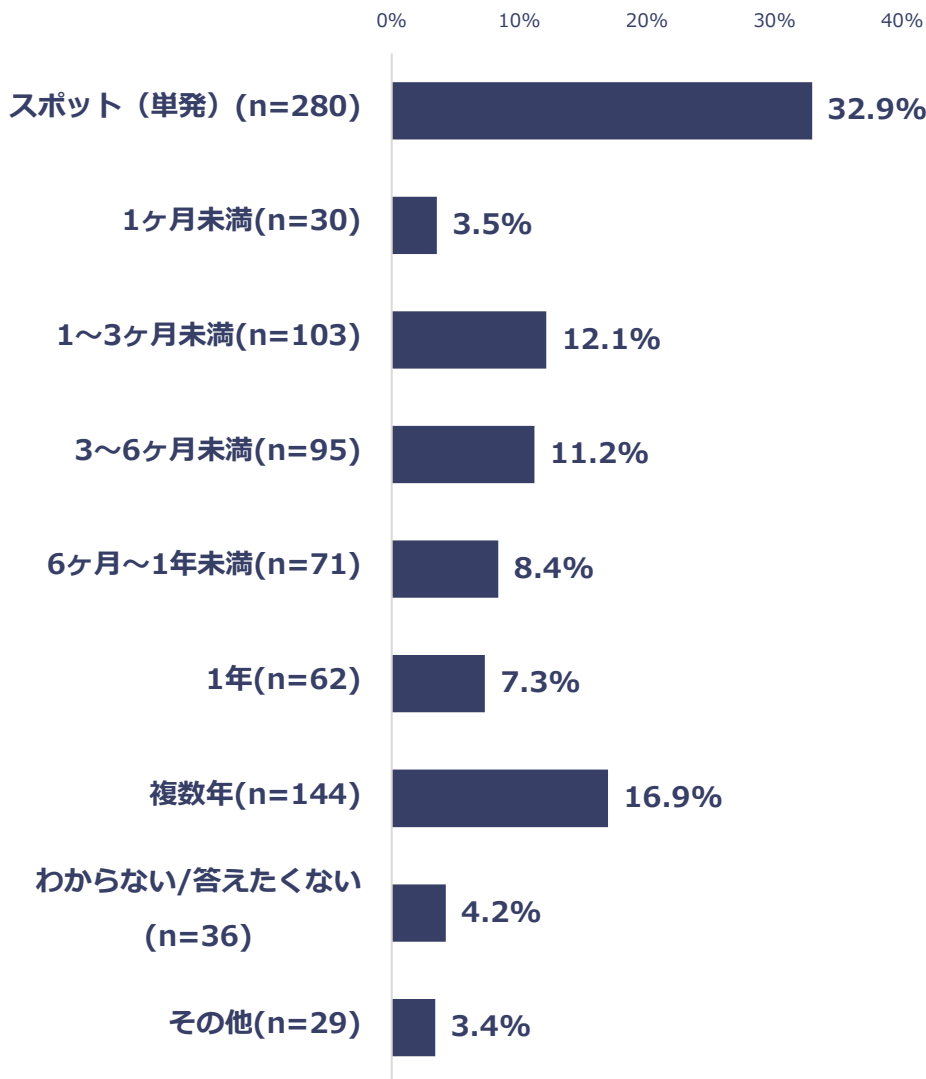
(n=843)



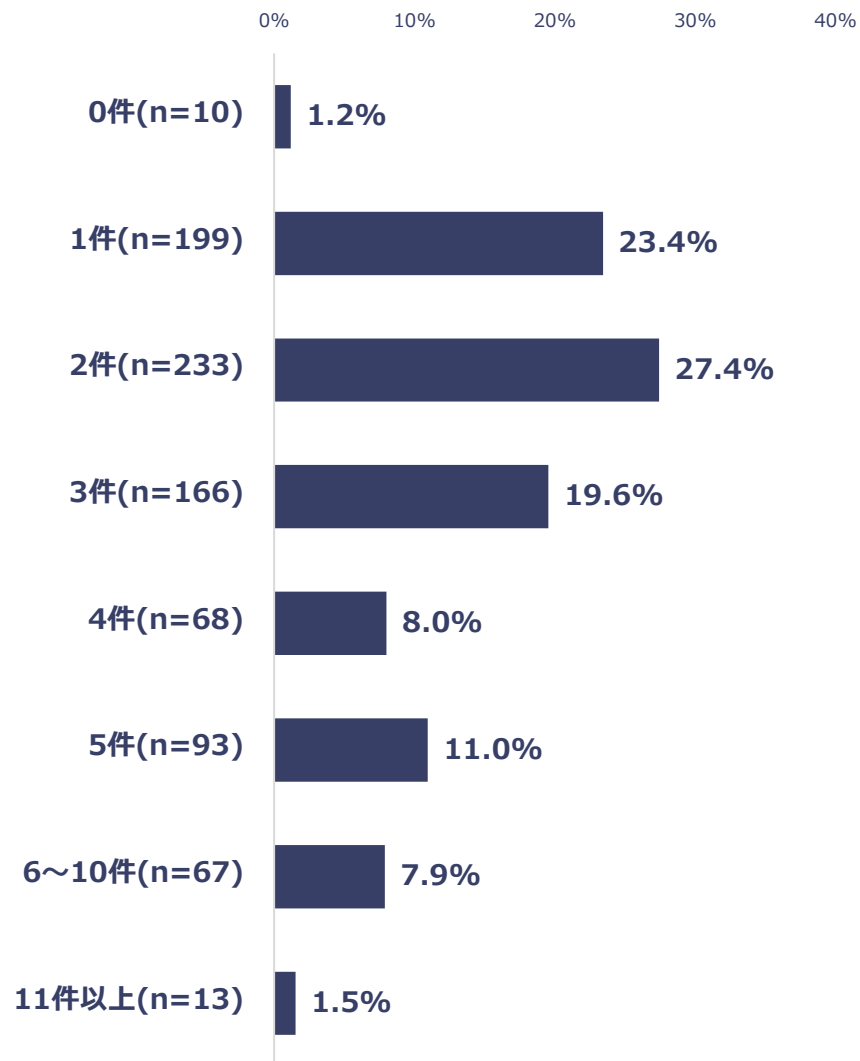
※Discord = アメリカ発のチャットサービス

※その他 = Teams(n=51), LinkedIn(n=4), 受注を受けたサイトなどの専用アプリ(n=10)

受注案件の平均的な契約期間 (n=850)



平均的な同時進行案件数 (n=849)



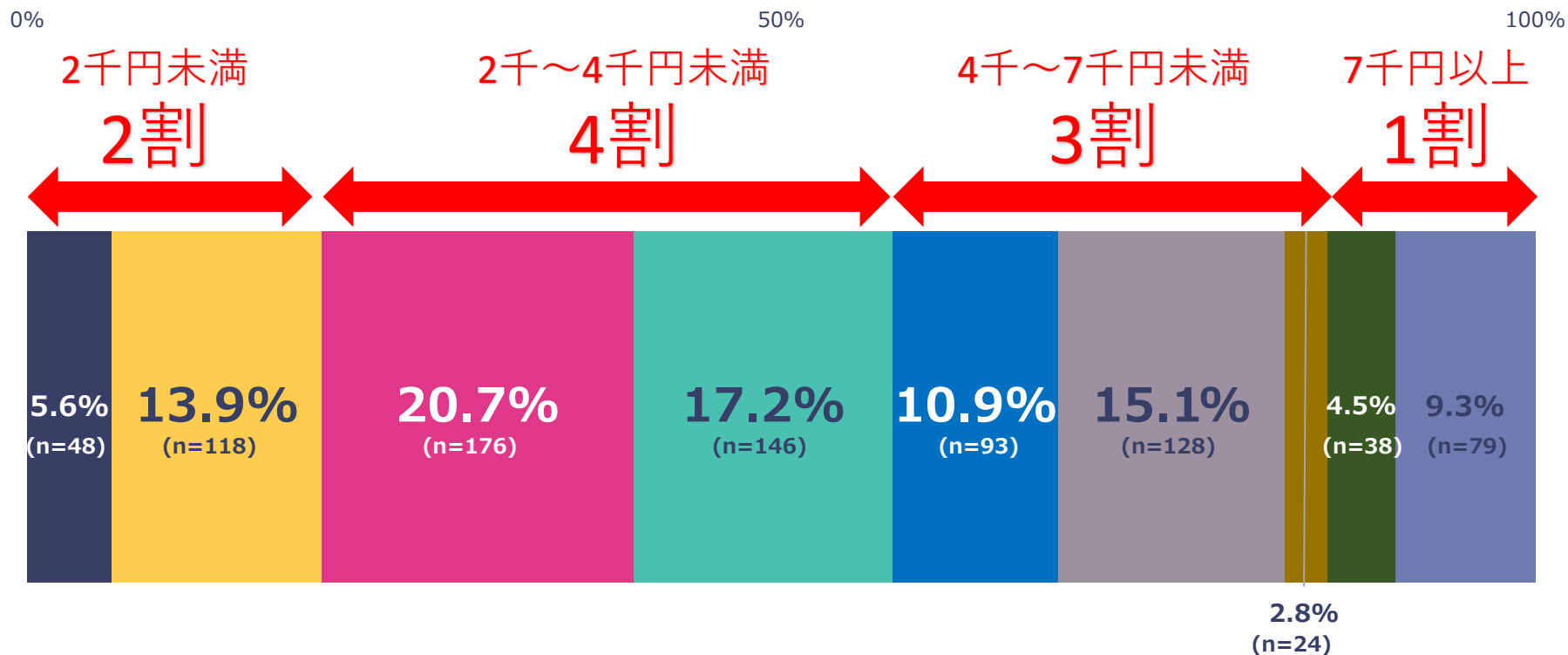
※1件は回答不備のため除外

※小数点以下第二位四捨五入 27

自分が意識している時間単価

(n=850)

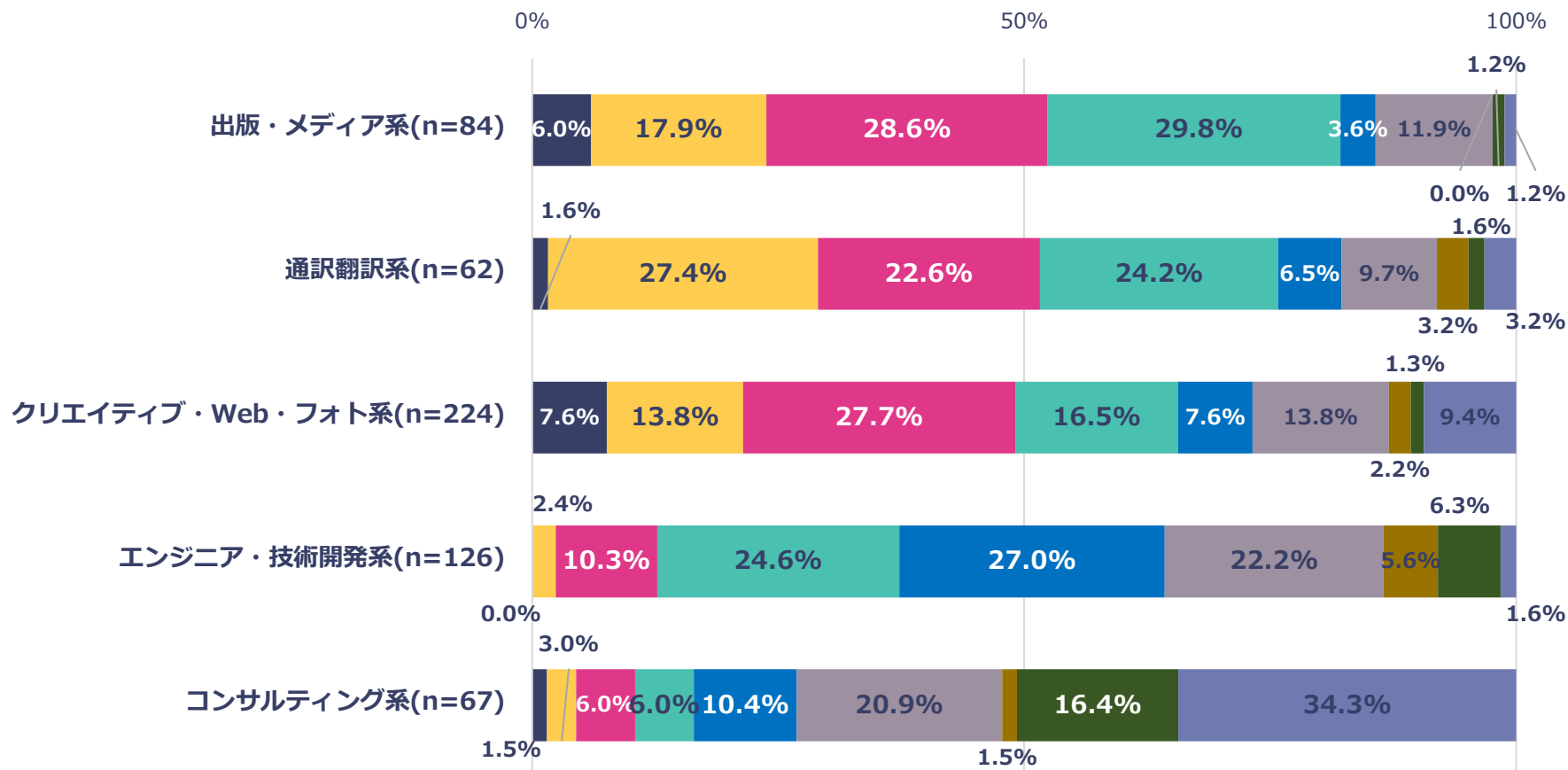
- 1,000円未満(n=48)
- 1,000~2,000円未満(n=118)
- 2,000~3,000円未満(n=176)
- 3,000~4,000円未満(n=146)
- 4,000~5,000円未満(n=93)
- 5,000~6,000円未満(n=128)
- 6,000~7,000円未満(n=24)
- 7,000~10,000円未満(n=38)
- 10,000円以上(n=79)



回答者数が多い5職種別 自分が意識している時間単価

(n=563)

- 1千円未満
- 1千～2千円未満
- 2千～3千円未満
- 3千～4千円未満
- 4千～5千円未満
- 5千～6千円未満
- 6千～7千円未満
- 7千～1万円未満
- 1万円以上



自分が意識している時間単価を回答者数上位5職種別に分析したところ、出版・メディア系、通訳翻訳系、クリエイティブ・Web・フォト系は3千円未満が半数を超え、エンジニア・技術開発系は4千円以上、コンサルティング系は5千円以上が半数を超えた。一方、就業年数別、就業時間別では、あまり顕著な差は見られなかった。



取引先や知人から、何と呼ばれるとしっくりくるか（複数回答）

(n=850)

0%

50%

100%

フリーランス(n=520) 61.2%

個人事業主(n=450) 52.9%

クリエイター(n=144) 16.9%

外部専門家(n=138) 16.2%

プロ人材(n=105) 12.4%

コンサルタント(n=89) 10.5%

小規模事業者(n=56) 6.6%

経営者(n=41) 4.8%

副業兼業人材(n=18) 2.1%

その他(n=53) 6.2%

わからない/答えたくない(n=31) 3.6%

「フリーランス」選択者（他の選択肢を同時に選択した回答者も含む）

□ **業務内容との親和性重視**

- ITエンジニアとしてコンサルから実装までフリーランスとして実施しているため
- 仕事の領域をフリーに考えているので

□ **通じやすさ重視**

- 「フリーランス翻訳者」という呼称が通用しているため
- 0→1を生み出すので、クリエイターに該当すると思いますが、周りにはフリーランスの呼び方のほうが通りやすいので

□ **働き方との親和性**

- ある程度のことは出来るが専門的なことはわからない、人手にはなるが人材にはならない
- 個人事業主、自営業と聞くと店を構えている地域の経営者のイメージがあるため。雇用を産んでおらず、一人で働いているのでフリーランサーと呼ばれるほうがしっくりきます
- いずれは経営者と自分で呼べるようになりたいと思っているが、今はスキルシェアの部分が多くて数年先を見据えて活動出来ていないと思うので、フリーランスが妥当だと思う
- 他社のパートナーさんとは異なり、会社に所属せずフリーで働いているため

□ **印象重視**

- すきまワーカーでもいいですが、フリーランスの方が聞こえがいい気がします
- ライター業ですが、クリエイターよりは職人寄り（クライアントの求めに応じて文章を書く人）で、経営というよりは業務をしているイメージなので「フリーランス」がしっくり来ます。自由で軽やかな言葉のイメージも好きです

「個人事業主」選択者（他の選択肢を同時に選択した回答者も含む）

□ **業務内容との親和性重視**

- 「フリーランス」でも良いが、それだとエンジニア業だけをやっている自分で事業をしていない印象になるので、卸売業など他のこともやったことのある私には「個人事業主」の方がじっくりきます。

□ **働き方との親和性**

- 法人ではない形態で、ひとりで活動しているというイメージに一番合っているように思います

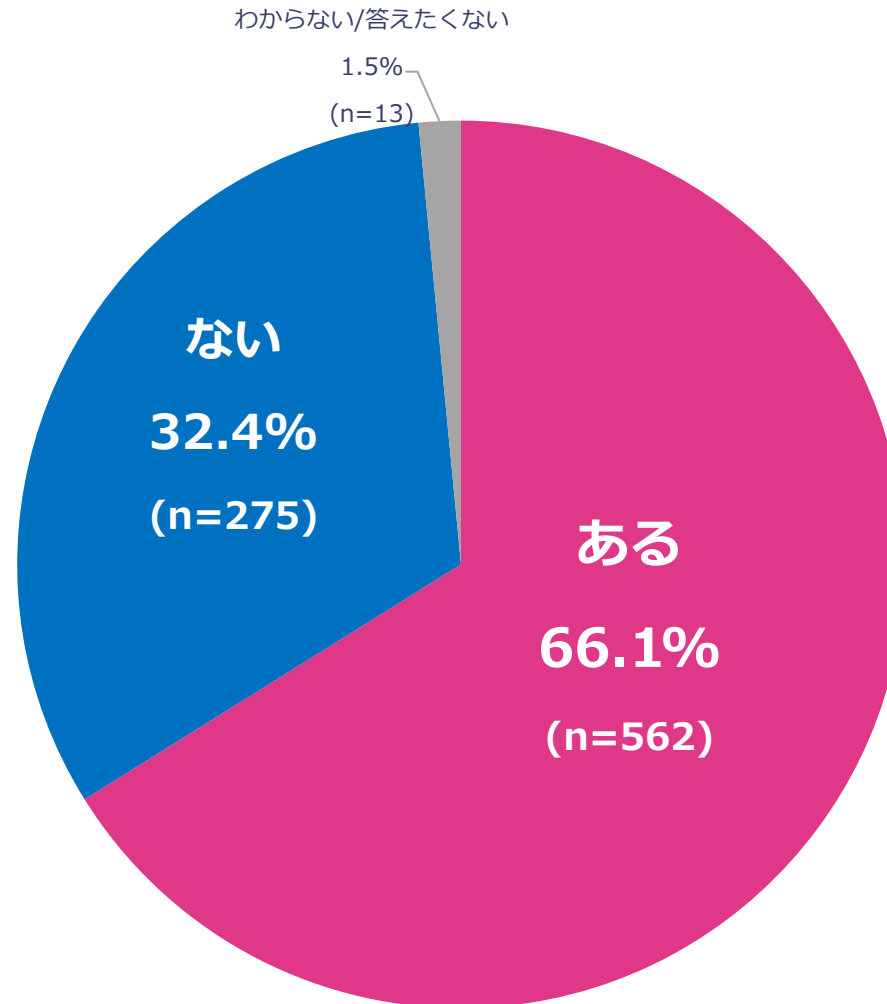
□ **印象重視**

- 他の外注先と同じ様になるべく対等の条件に欲しいのが理由です。（報酬面でも・仕事面でもですが・・・）イラスト関係の仕事をしていると「作家さん」などたまに趣味の延長でやっている雰囲気だと思われ、他の外注会社と同じ仕事をこなしていても報酬額が大きく差がついていた事もあったので、できるだけ個人事業としてやっていることを主張しています
- 会社に属していないことがすぐ伝わると思うから
- 会社員と違って、財務・会計について少なからず知識があることを伝えられるので
- あまり考えたことがなかったですが、横文字で呼ばれると胡散臭いので嫌だなと思いました
- 昔からある言葉で信頼感がある
- 事業をしっかり営んでいる印象のため フリーランスだと少し舐められた印象をうけます
- フリーランスという響きが好きではなく、事業主であると思っている。法人でないので個人事業主。また、自身の事業がコンサルタントなので。人を雇っていないので経営者というにはおこがましい

## 2-4. フリーランスのファイナンス

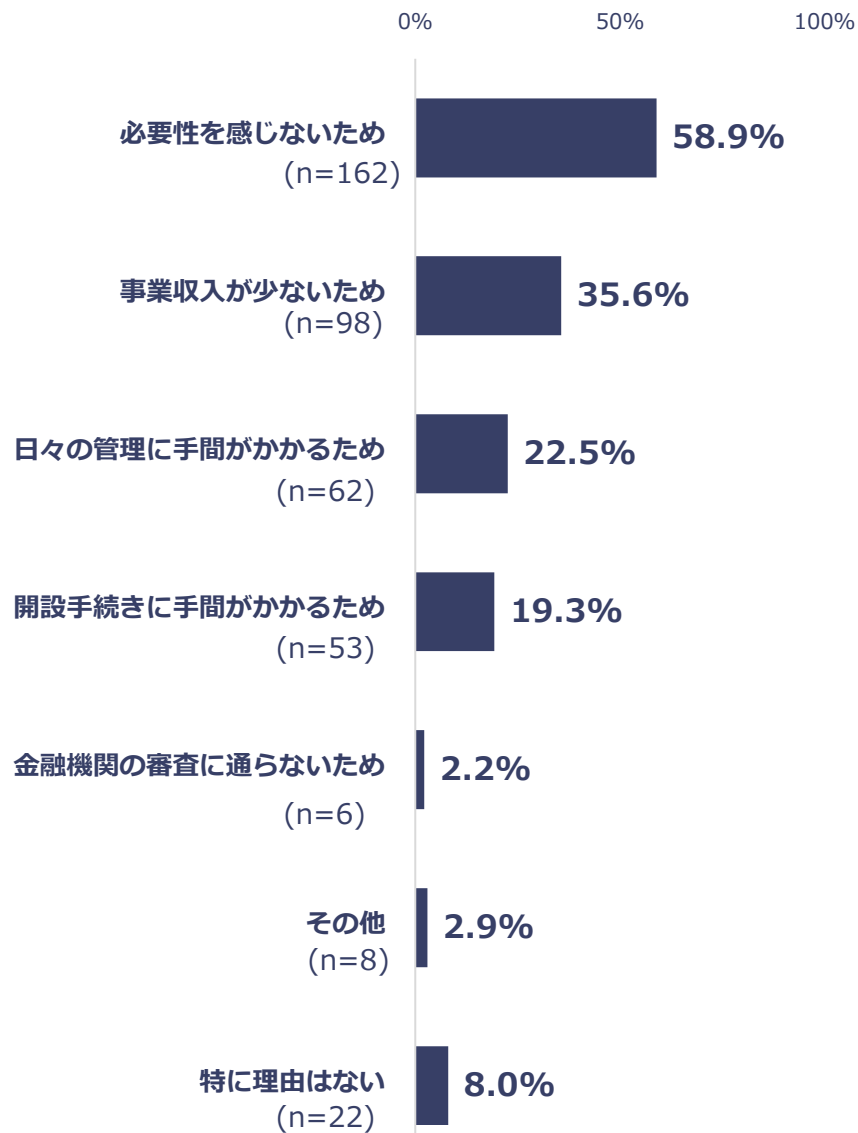
事業用として個人の生活費とは別に開設している口座の有無

(n=850)



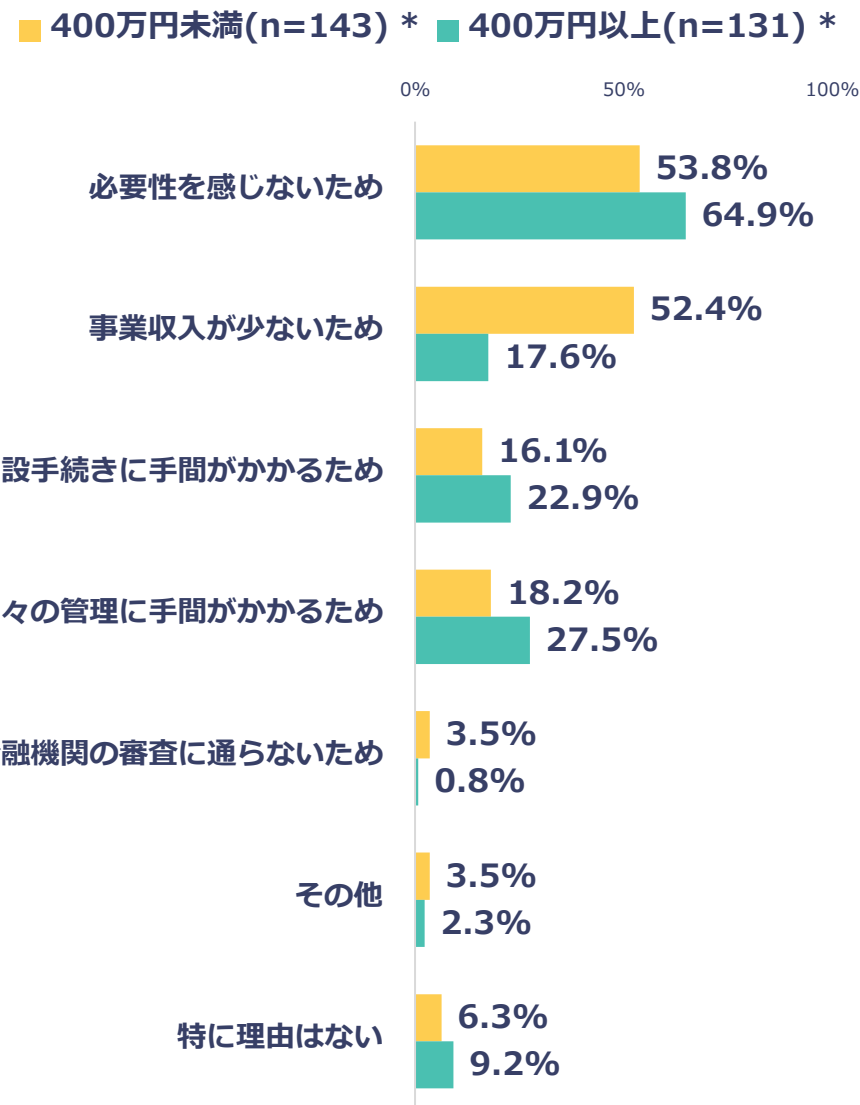
## ■ 事業用口座未開設者が開設しない理由

事業用口座の未開設理由（複数回答） (n=275)



※事業用口座が「ない」を選択した回答者275名

【年収別】事業用口座の未開設理由（複数回答） (n=274)

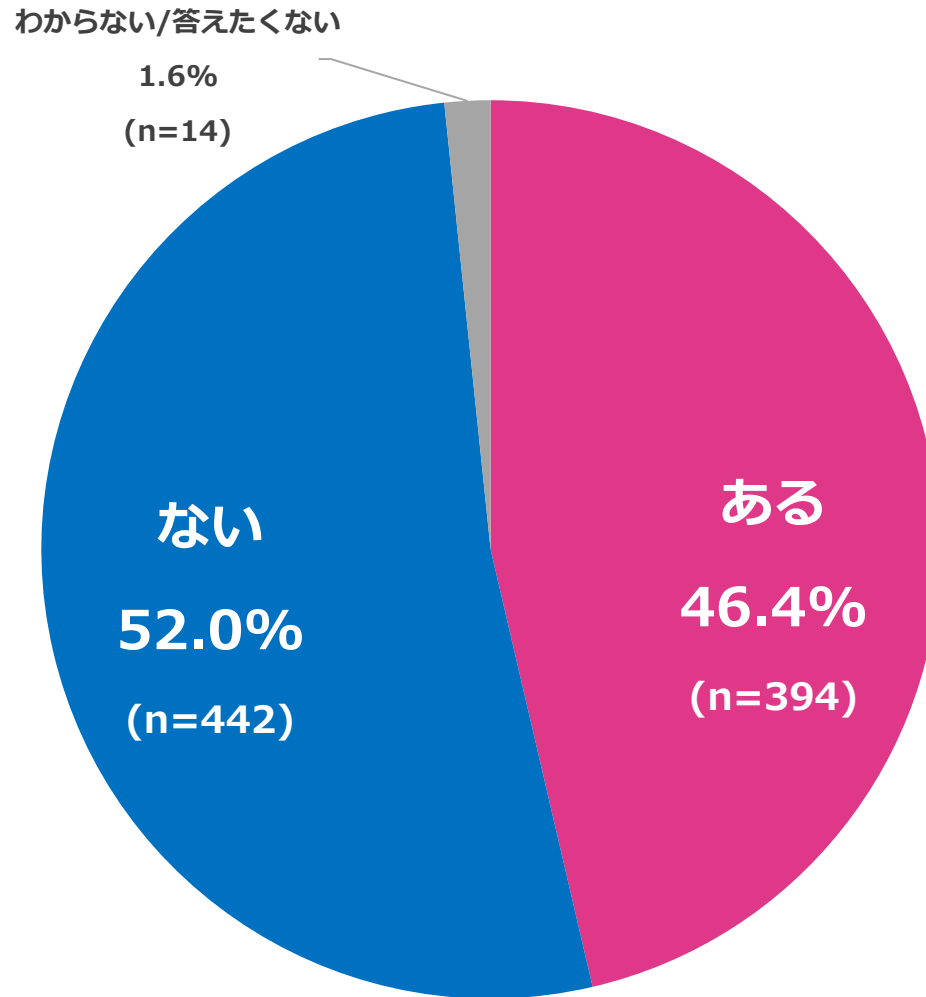


※事業用口座が「ない」を選択した回答者275名のうち、年間の収入に「わからない・答えたくない」と回答した1名を除く274名。

※小数点以下第二位四捨五入

事業用として個人の生活費とは別に利用しているクレジットカードの有無

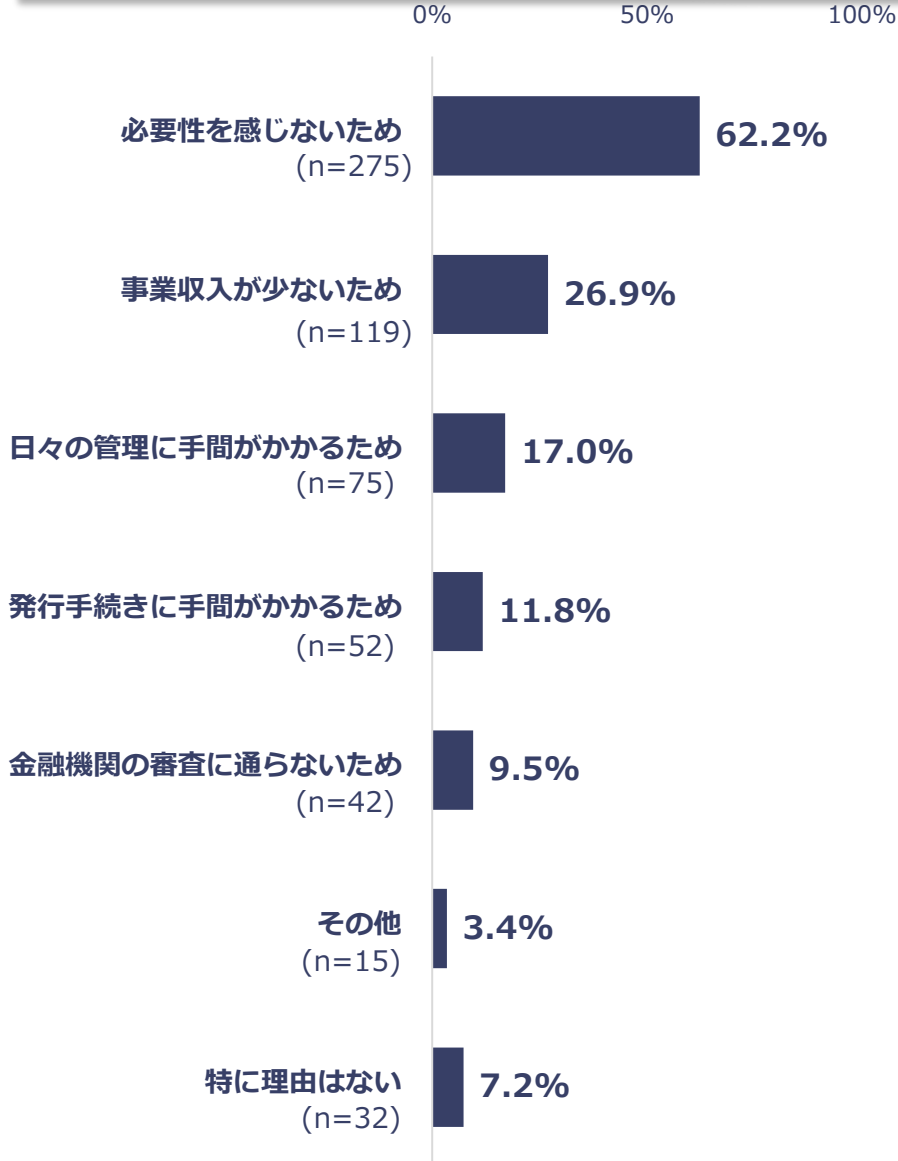
(n=850)





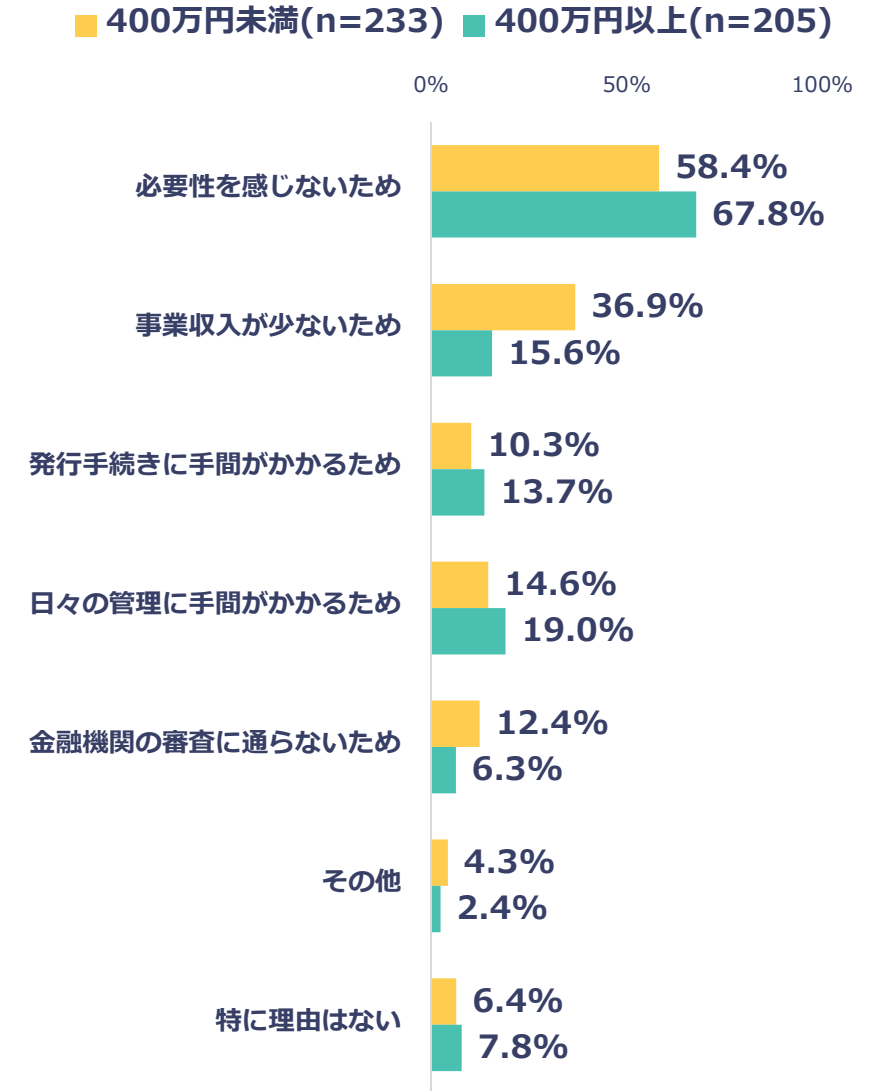
■ 事業用クレジットカード未作成者が作成しない理由

事業用クレカ未作成理由（複数回答） (n=442)



※事業用クレジットカードが「ない」を選択した回答者442名

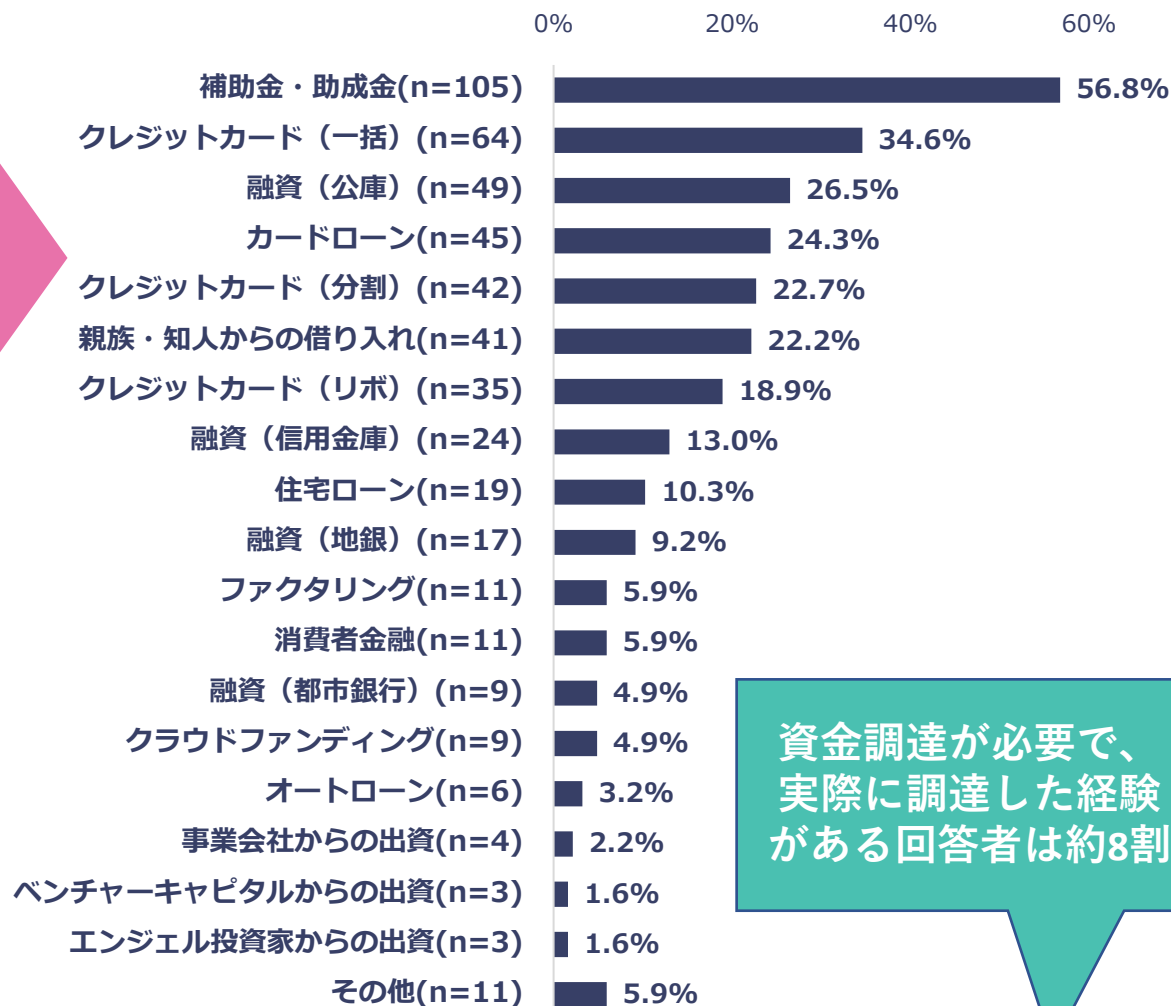
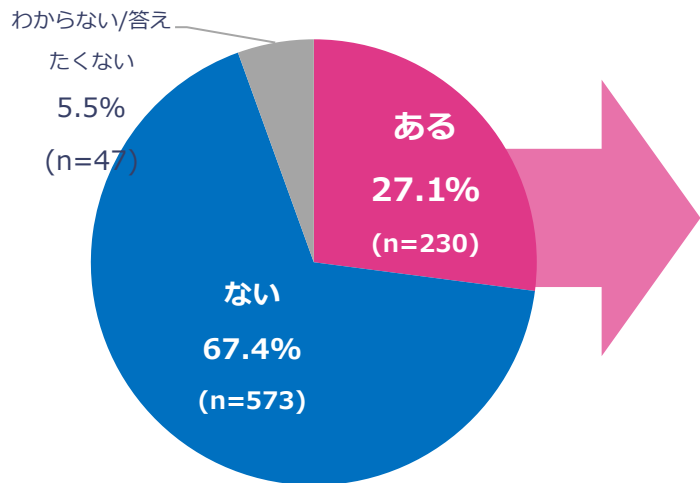
【年収別】事業用クレカ未作成理由（複数回答） (n=438)



※442名のうち、分析対象者は現在の収入で「わからない・答えたくない」と回答した4名を除く438名

フリーランスとしての働き方を始めてから  
資金調達が必要だと感じた経験 (n=850)

資金調達経験者が利用したことのある  
資金調達手段(複数回答) (n=185)

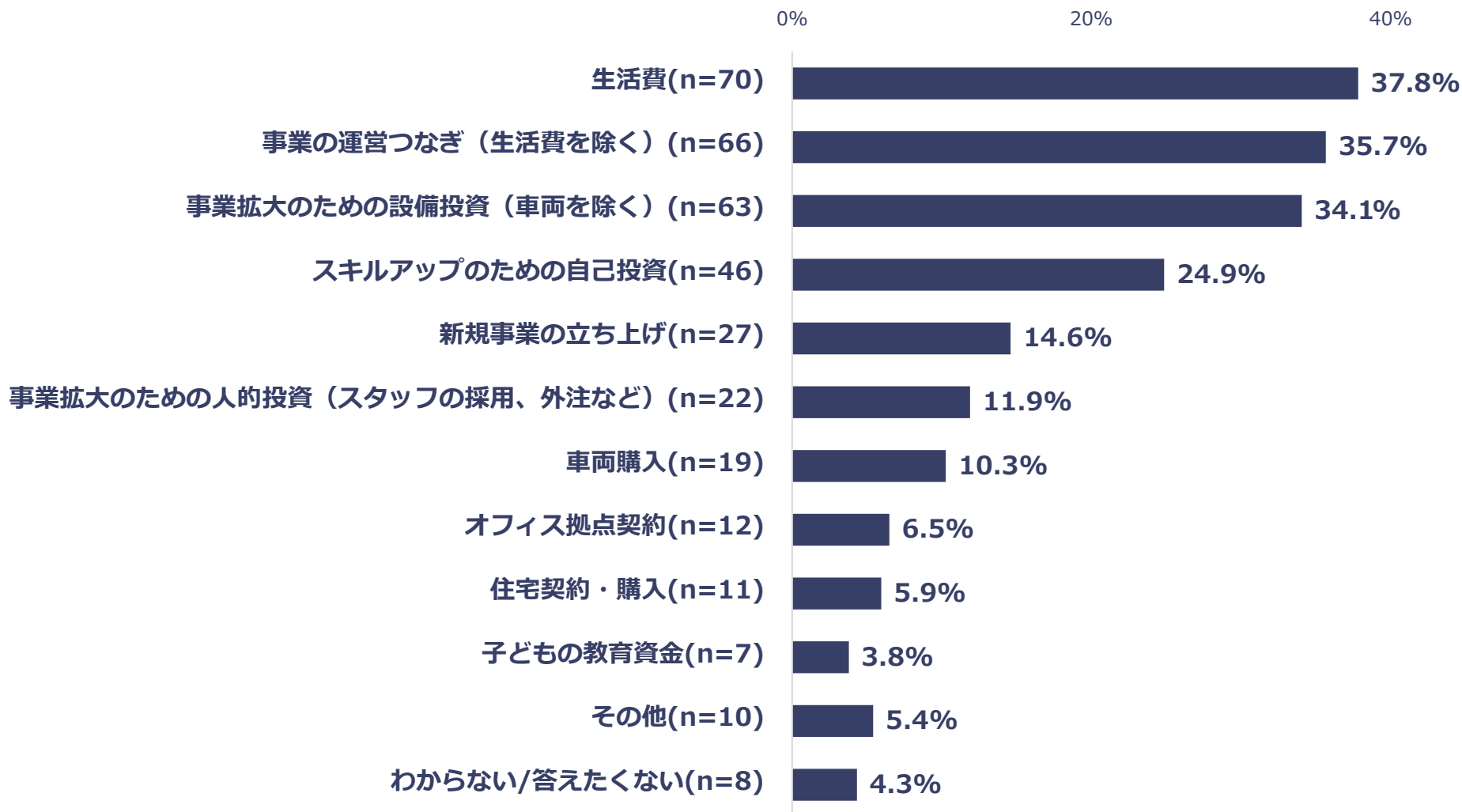


資金調達が必要で、  
実際に調達した経験  
がある回答者は約8割

※前問で資金調達が必要だと感じたことが「ある」と回答した230名のうち、「実際に調達したことはない」と回答した45名を除く185名に聴取

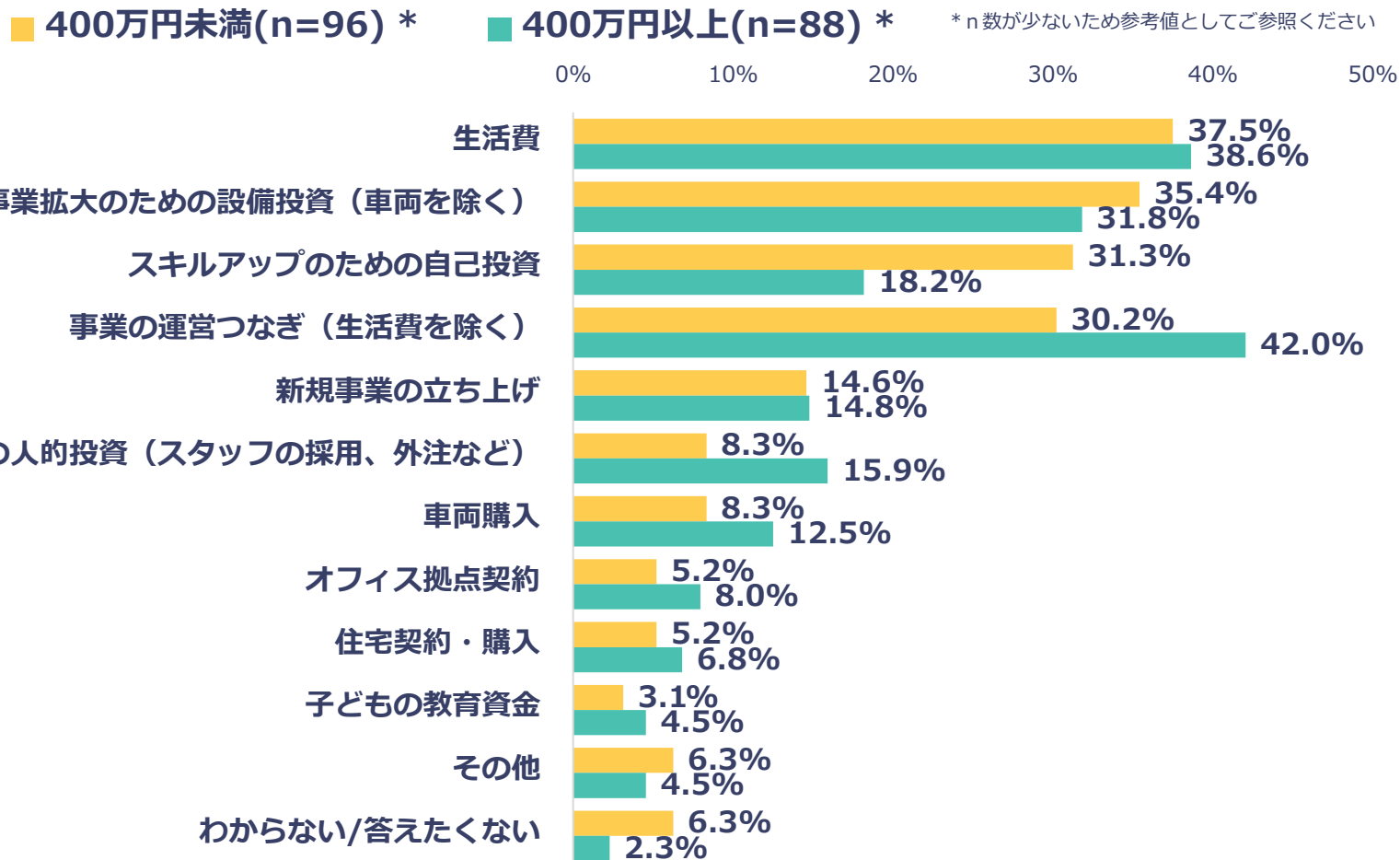
資金調達経験者が調達した資金の用途（複数回答）

(n=185)



※前問で資金調達が必要だと感じたことが「ある」と回答した230名うち、「実際に調達したことはない」と回答した45名を除く185名

【年収別】 資金調達経験者が調達した資金の用途（複数回答）



※前問で資金調達が必要だと感じたことが「ある」と回答した230名のうち、「実際に調達したことはない」と回答した45名を除き、年間の収入に「わからない・答えたくない」と回答した1名を除く184名に聴取。

年収400万円未満の使用用途第1位は「生活費」(37.5% n=36)であるが、年収400万円以上は「事業の運営つなぎ」(42.0% n=37)が第1位であった。生活に必要なお金を外部から調達する必要があることは、フリーランスという働き方において収入を安定させることが難しいことの表れであるといえるのかもしれない。

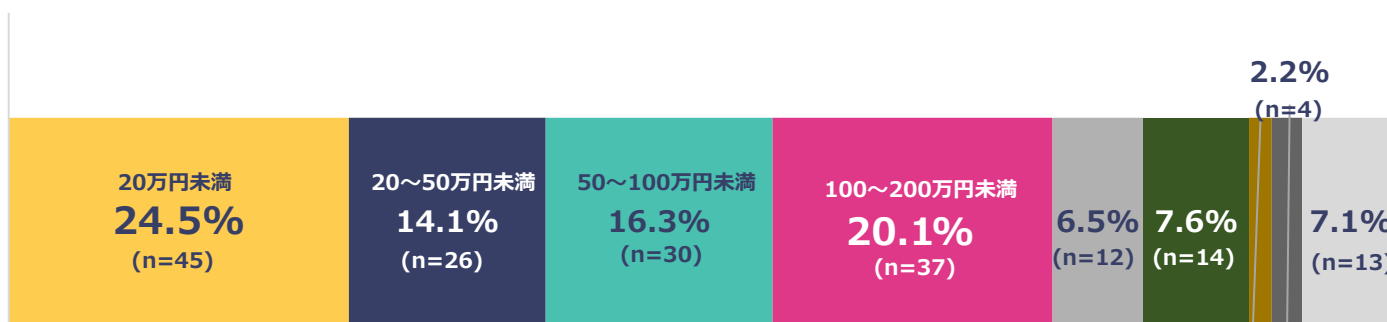
資金調達経験者が実際に資金調達した額

(n=184)

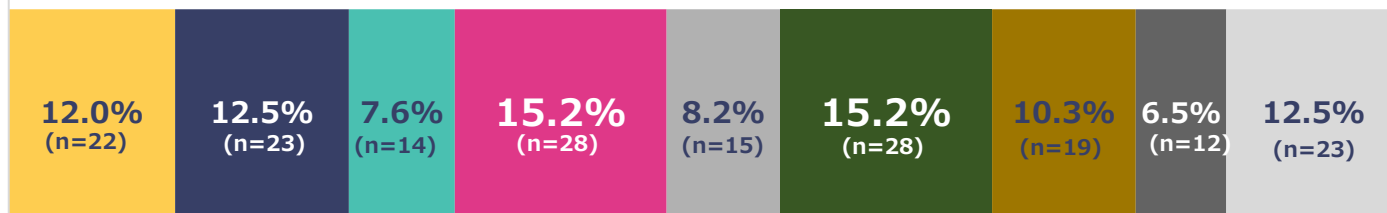
- 20万円未満
- 20万円以上50万円未満
- 50万円以上100万円未満
- 100万円以上200万円未満
- 200万円以上300万円未満
- 300万円以上500万円未満
- 500万円以上1000万円未満
- 1000万円以上
- わからない/答えたくない

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

平均的な1回の調達額  
(n=184)



これまでの総調達額  
(n=184)

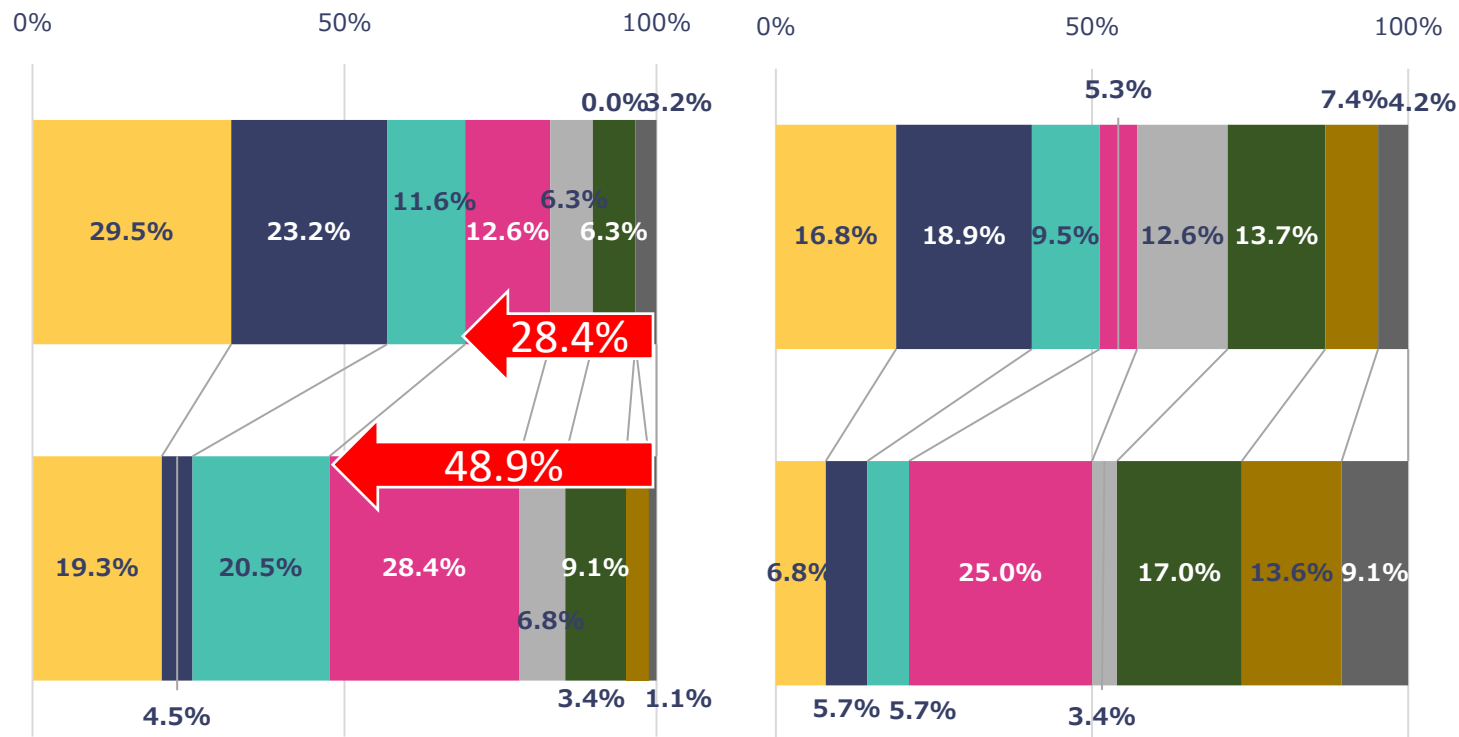


# ■ 【年収別】 調達した資金額

- 20万円未満
- 20万円以上50万円未満
- 50万円以上100万円未満
- 100万円以上200万円未満
- 200万円以上300万円未満
- 300万円以上500万円未満
- 500万円以上1000万円未満
- 1000万円以上
- わからない/答えたくない

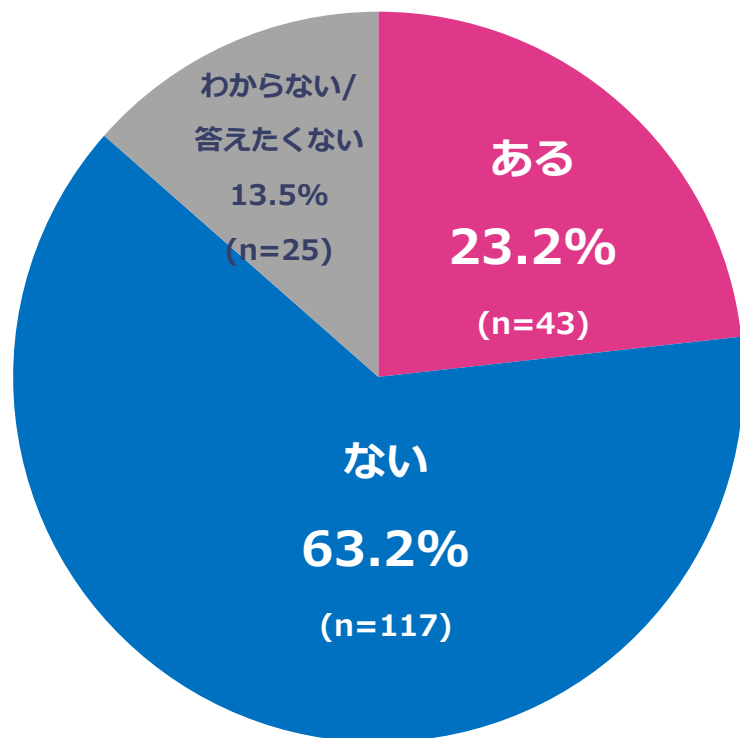
【年収別】 平均的な1回の調達額

【年収別】 これまでの総調達額



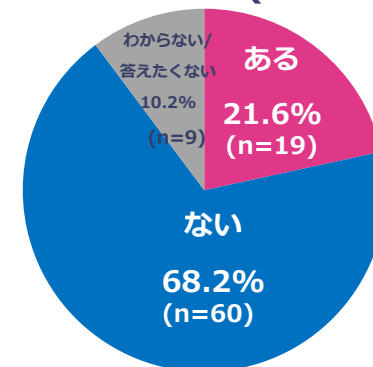
平均的な1回の調達額を年収別に分析したところ、平均的な1回の調達額が100万円以上と回答したのは、年収400万円未満では約3割（28.4% n=27）であったのに対し、年収400万円以上では約半数（48.9% n=43）であった。

資金調達経験者が審査に通らなかった経験 (n=185)

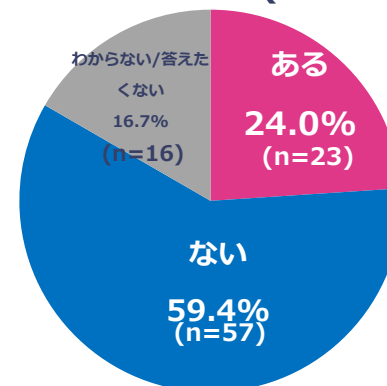


【年収別】 資金調達経験者が審査に通らなかった経験 (n=184)

400万円以上(n=88)



400万円未満(n=96)



資金調達経験のある回答者が調達時の審査に通らなかった経験があるかを、年収400万円未満と400万円以上の2群に分け、分析をしたところ、審査に通らなかった経験が「ある」と回答した割合は年収400万円未満が24.0%(n=23)、年収400万円以上が22.5%(n=20)で大きな差異は見られなかった。**現在の収入に関係なく、働き方によって審査に通らない人が一定数いる可能性があることがわかった。**

※前問で資金調達が必要だと感じたことが「ある」と回答した230名うち、「実際に調達したことはない」と回答した45名を除く185名  
 ※年収別分析は、年間の収入に「わからない・答えたくない」と回答した1名を除く184名に聴取。 ※小数点以下第二位四捨五入  
 Copyright 2023 Freelance Association Japan.

## 2-5. フリーランスと地方創生

(慶應義塾大学SFC清水たくみ研究会との共同研究)

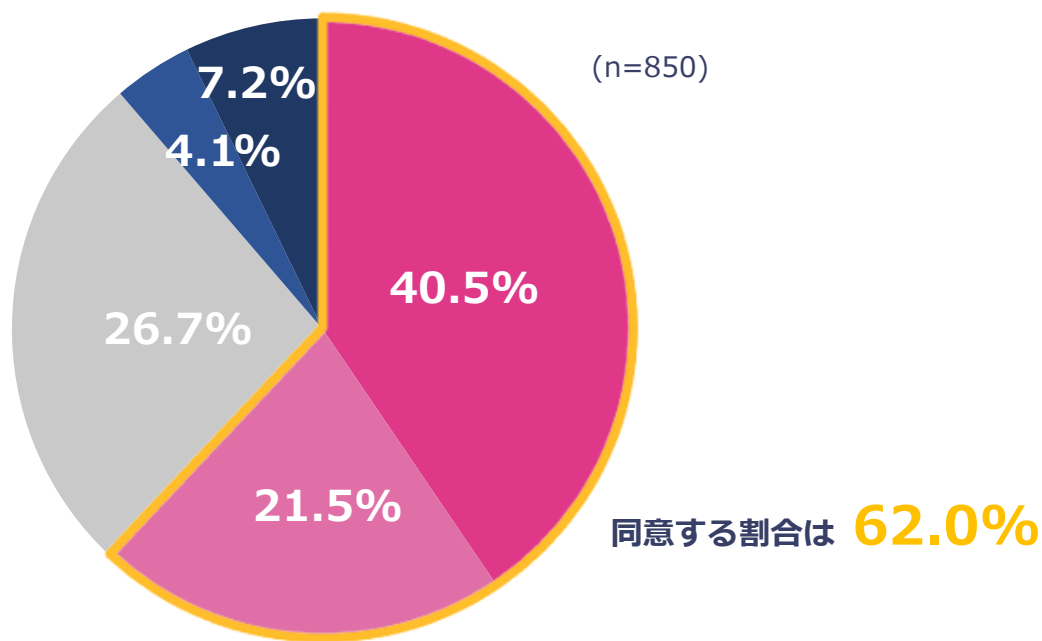


Q.リモートワークの実施およびその影響に関して、それぞれ当てはまる選択肢を一つ選んでください。  
(単一回答)

※リモートワークとは、情報通信技術(ICT)を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方のことを指します。

### コロナ以前 (2020年2月以前) と比べてリモートワークでのフリーランス業務が増えた

■ 強く同意する ■ 同意する ■ どちらとも言えない ■ あまり同意できない ■ 全く同意できない



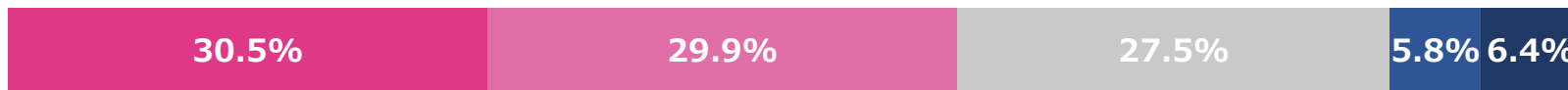
62.0%の回答者が「リモートワーク業務が増えた」ことに同意。一方で、11.3%が同意できないと回答し、「どちらとも言えない」との回答も26.7%存在した。全体としてリモートワークの拡大傾向は見られるものの、就労形態に影響を及ぼさないフリーランスも一定数いることが見てとれる。

Q.リモートワークの実施およびその影響に関して、それぞれ当てはまる選択肢を一つ選んでください。  
(各項目単一回答)

※リモートワークとは、情報通信技術(ICT)を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方のことを指します。

■ 強く同意する ■ 同意する ■ どちらとも言えない ■ あまり同意できない ■ 全く同意できない

リモートワーク普及により発注企業の所在地を気にしなくなった (n=850)



リモートワーク普及によりワークライフバランスをとりやすくなった



リモートワーク普及により、より多くの仕事の受注を受けやすくなった



リモートワーク普及によりスキルアップや学びの機会が増えた



4つの設問を通して、約5割-6割の人がリモートワークの普及が働き方にポジティブな変化をもたらしていると回答している。場所にとらわれずにワークライフバランスをとりつつ仕事を増やしやすくなったことで、時間を有効活用したスキルアップや学び直しの機会へとつながっていることが見てとれる。リモートワークの普及は、フリーランスの働き方の多様性を広げていることが示唆される。

Q.リモートワークの実施およびその影響に関して、それぞれ当てはまる選択肢を一つ選んでください。  
(各項目単一回答)

※リモートワークとは、情報通信技術(ICT)を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方のことを指します。

■ 強く同意する ■ 同意する ■ どちらとも言えない ■ あまり同意できない ■ 全く同意できない

リモートワーク普及により発注企業との関係構築が難しくなった (n=850)



リモートワーク普及により仕事の負荷・ストレスが高まった



リモートワーク普及により仕事上の新しいつながりを築く機会が減った



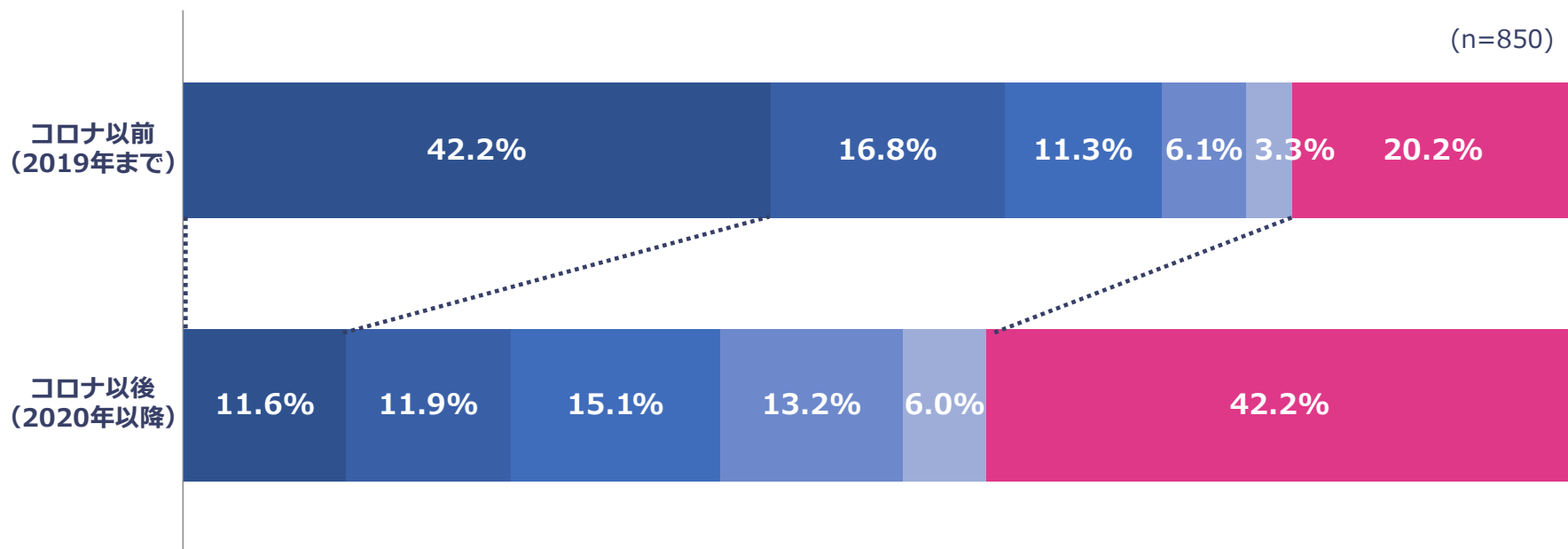
リモートワーク普及の懸念点として、「発注企業との関係構築の困難さ」や「仕事の負荷の増大」に同意する割合はそれぞれ**2割に満たなかった**。一方で、「仕事上の新しいつながりを築く機会が減った」ことに同意した割合は**33.8%**であった。既存クライアントとの関係や仕事の負荷に対するリモートワークの悪影響は限定的だが、新たなつながりの創出においてはより懸念が大きいことが見てとれる

## ■ 新型コロナウイルス感染症拡大前後の出勤頻度

Q.下記期間において、どの程度の頻度で出勤して業務を行なっていましたか？最も当てはまるものをそれぞれお答えください。（各項目単一回答）

※ここで言う出勤とは、勤務先のオフィスへ行って仕事を進めること、発注元のクライアント企業を訪ね打ち合わせ等を行うこと、コワーキングスペースなどで仕事を行うことなど、自宅以外の仕事場に向かうことを指します

■ 毎日出勤 ■ 週3-4回出勤 ■ 週1-2回出勤 ■ 月1-2回出勤 ■ 年1-2回出勤 ■ 完全リモート



2020年以後の出勤頻度を「完全リモート」と回答した割合は**4割超**で、新型コロナウイルス感染症拡大以前の**2倍以上**の割合となっている。その一方で「毎日出勤」の割合は**30.6%減少**している。2020年を境にフリーランスの出勤形態が大幅に変化したことが見てとれる

## ■ 今後希望する出勤頻度

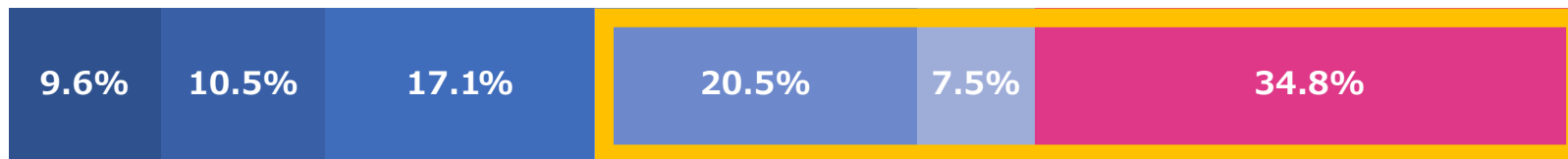
Q. 今後どのような出勤頻度で働きたいとお考えですか？ 最も当てはまるものをそれぞれお答えください。  
(各項目単一回答)

※ここで言う出勤とは、勤務先のオフィスへ行って仕事を進めること、発注元のクライアント企業を訪ね打ち合わせ等を行うこと、コワーキングスペースなどで仕事を行うことなど、自宅以外の仕事場に向かうことを指します

■ 毎日出勤 ■ 週3-4回出勤 ■ 週1-2回出勤 ■ 月1-2回出勤 ■ 年1-2回出勤 ■ 完全リモート

今後、居住地域内／通勤圏の組織と仕事をする際

(n=850)



完全リモート～月1-2回までの出勤を希望 **62.8%**

今後、居住地域外の組織と仕事をする際



自身の居住地域内／通勤圏であっても、毎日出勤を希望する割合は**1割**に満たず、完全リモートを希望する割合が**34.8%**、**完全リモートから月1-2回出勤までを合わせると6割超**にのぼる。居住地域外の組織との仕事であれば、当然より大きな完全リモートワークの需要が生じる。前ページのコロナ以前の出勤実態からは大幅な変化があり、フリーランスの出勤形態に不可逆な変化が生まれたことが示唆される

Q.フリーランスとして地方企業と関わることについて、それぞれ当てはまる選択肢を一つ選んでください。  
(各項目単一回答)

■ 強く同意する ■ 同意する ■ どちらとも言えない ■ あまり同意できない ■ 全く同意できない

コロナ以前（2020年2月以前）と比べて地方企業や地方創生への関心が高まった (n=850)



コロナ以前（2020年2月以前）と比べて自分から地方での仕事を探す・検討することが増えた



コロナ以前（2020年2月以前）と比べて地方企業から問い合わせ件数や依頼件数が増えた



コロナ以前（2020年2月以前）と比べて地方企業から依頼を受ける仕事内容の種類が増えた



地方への関心や能動的な地方での仕事探しの増加に関して、**25%から35%**の人が同意している一方で、地方企業からの依頼の量や種類が増えたことへの同意は**10%強**にとどまっている。地方への関心自体は高まっているが、**地方企業からの実際の依頼・仕事はその状況に追いついておらず、地方企業と関心のあるフリーランスとのマッチング不足が示唆される。**

## ■ 首都圏外組織との業務経験/報酬条件（新型コロナウイルス感染症拡大前後比較）

Q. 2021年4月1日から2022年3月31日までの間のいずれかの時点において、あなたは首都圏外（東京都・埼玉県・神奈川県・千葉県以外の地域）の組織（個人事業主、法人、国や自治体、各種団体等いかなる組織も含む）から、雇用によらない形で、業務ないし活動（ボランティアやプロボノ含む）を実施したことがありますか。実施したことがある方は、経験した報酬条件全てにチェックをしてください。（複数回答）

フリーランス白書2020年調査 (n=1,139)  
(2018年4月から2019年3月までの経験)

フリーランス白書2023調査 (n=850)  
(2021年4月から2022年3月までの経験)

金銭で報酬をもらう(業務委託)

28.7%

35.9%

純粹に、無報酬で行う  
(実費も持ち出し)

14.4%

5.5%

報酬はもらわないが、  
業務移動の交通・宿泊の便宜や  
交通費・宿泊費分の実費はもらう

9.0%

3.9%

金銭の報酬はもらわないが、  
現物・金券・カードポイントなど  
現金類似の報酬をもらう

4.7%

3.2%

実施したことはない

58.5%

59.6%

白書2020と白書2023を比べると、首都圏外企業と無報酬や実費支給・現金類似報酬で仕事をしていた回答者の割合が減少し、業務委託などの「**金銭で報酬をもらう**」という回答が増加する傾向が見られた。専門性やスキルを持つ社外の人材に対して、対価を支払うという習慣が地方企業においても少しずつ定着し始めている可能性がある。首都圏外組織との業務経験割合自体は白書2020と白書2023の間でほとんど差が見られなかった。

## ■ 首都圏外組織への訪問回数（新型コロナウイルス感染症拡大前後比較）

Q. 2021年4月1日から2022年3月31日までの間のいずれかの時点において、あなたは、当該組織の首都圏外(東京都、埼玉県、神奈川県、千葉県のいずれにも該当しない地域)にある本社や本部を、一度でも訪問したことがありますか。  
(単一回答)

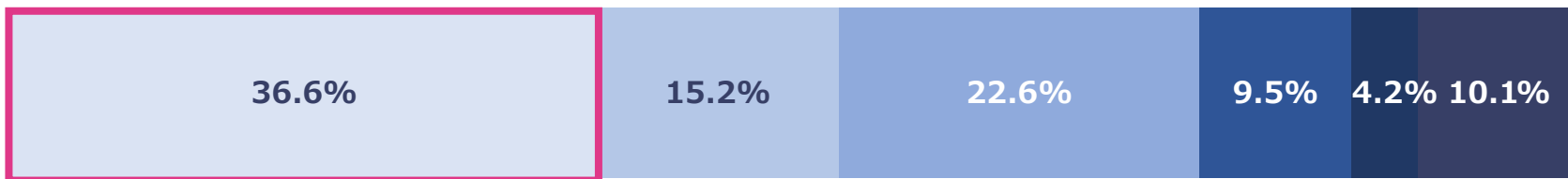
■ 1回も訪問していない ■ 1回だけ訪問した ■ 2~4回訪問した ■ 5~6回訪問した ■ 7~12回訪問した ■ 13回以上訪問した

### フリーランス白書2020年調査

(2018年4月から2019年3月までの経験)

(n=473)

※2018年4月-2019年3月に首都圏外企業と業務実施した人

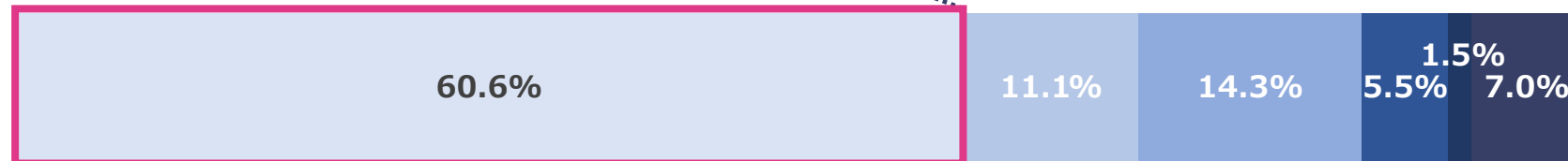


### フリーランス白書2023調査

(2021年4月から2022年3月までの経験)

(n=343)

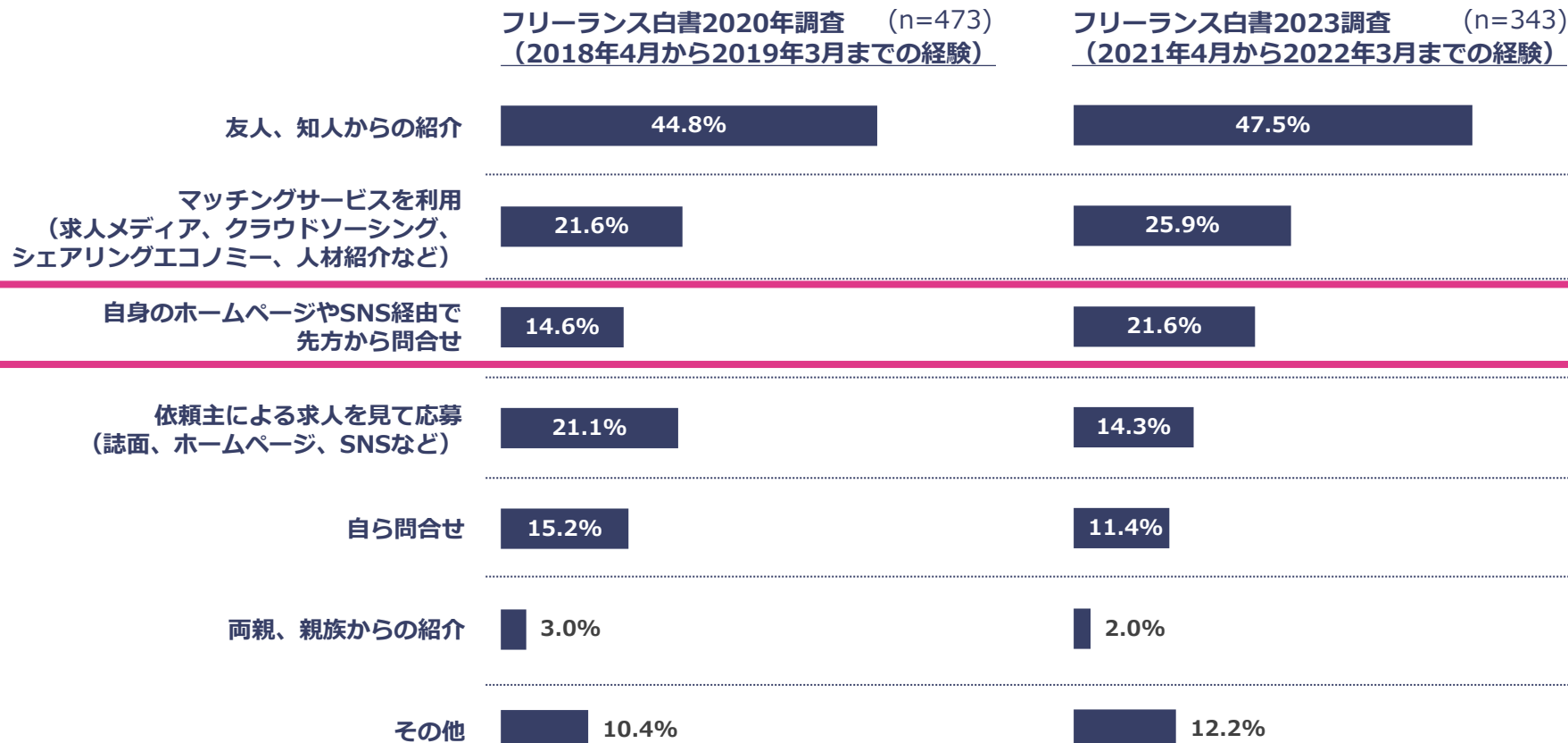
※2021年4月-2022年3月に首都圏外企業と業務実施した人



白書2020で首都圏外にある組織の本社・本部へ「一度も訪問していない」と回答したのは**36.6%**だった一方、白書2023では**60.6%**にまで増加した。リモートワークの普及により現地を訪れずとも業務を行うことが可能となり、現地に行くことができない人であっても業務を遂行できるようになったことや、コロナ禍で物理的な移動に制約があったことなどが背景として考えられる。



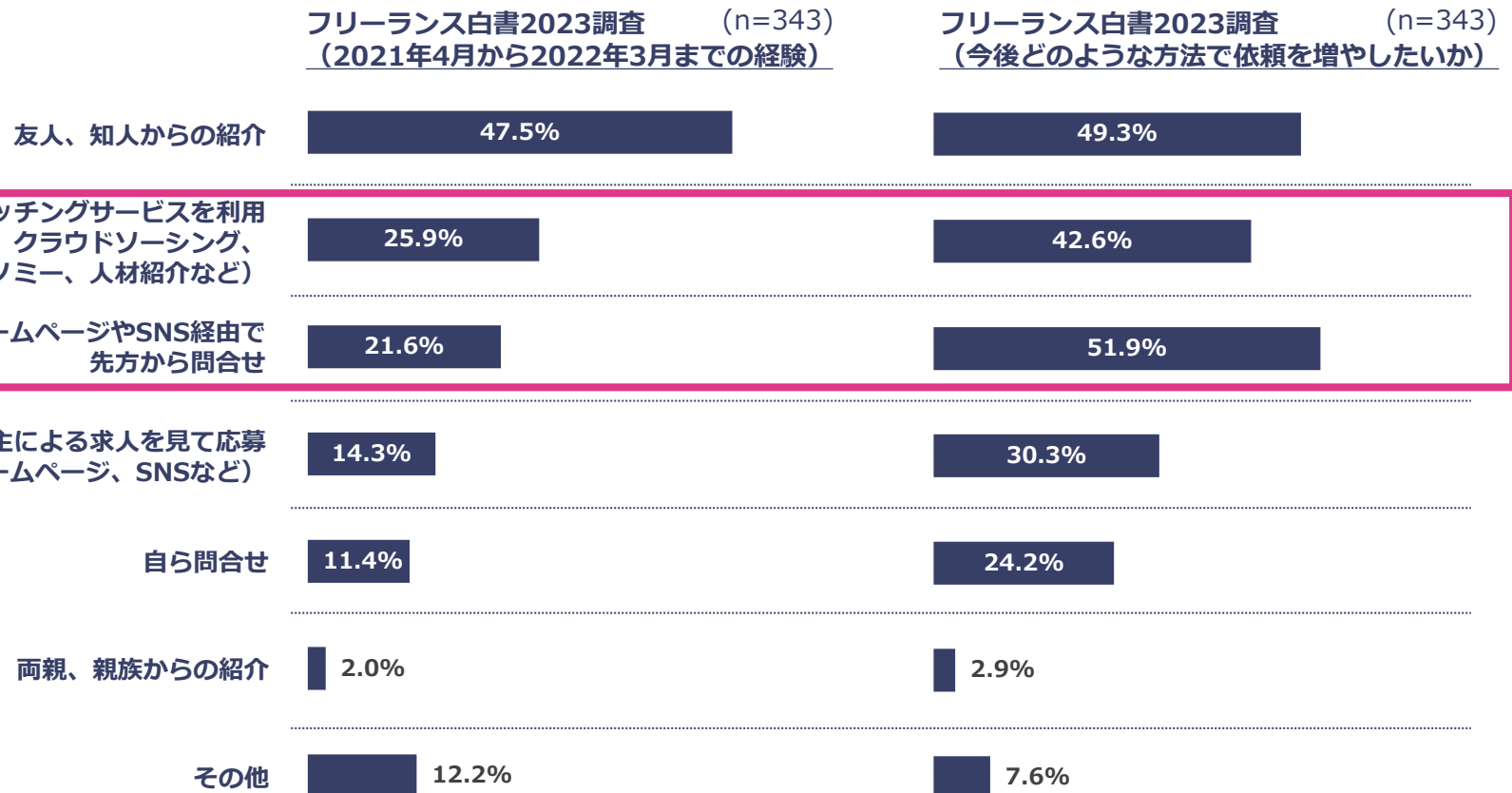
Q.あなたは、首都圏以外の組織・法人・自治体等からどのような方法で依頼を受けましたか。あてはまるものを全てお答えください。（複数回答）



白書2020と白書2023を比べると、「友人、知人からの紹介」と回答した割合が最も多かったことは変わらず、Web上での先方からの問い合わせから依頼を受けたという回答が増加した。それら経路が増加した一方で、求人への応募や主体的な問い合わせに関しては減少した。Web上でフリーランス自身が露出を増やし、仕事獲得につながるケースが増加してきたことが示唆される。

## ■ 首都圏外組織との仕事獲得経路（2021年度経験と今後の希望比較）

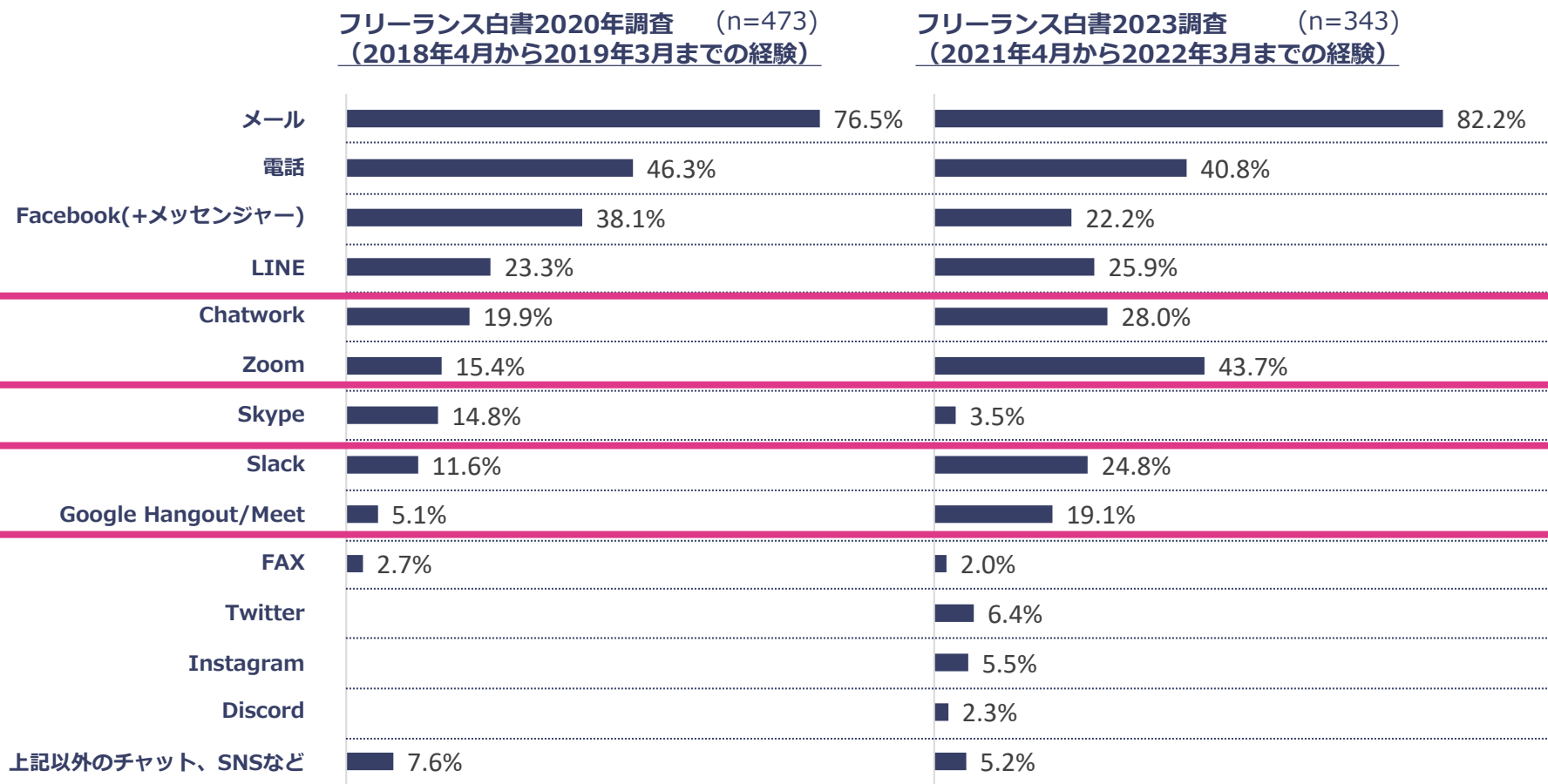
Q.あなたは、首都圏以外の組織・法人・自治体等からどのような方法で依頼を受けましたか。また、今後どのような方法で首都圏外組織から仕事の依頼を増やしたいですか。あてはまるものを全てお答えください。（複数回答）



今後首都圏外からの仕事を増やすにあたって、「自身のホームページやSNS経由」を希望する回答が**51.9%**と最も多く、これまでの経験の**2倍以上**の回答。加えて「マッチングサービス」の利用希望も**42.6%**(これまでの**1.6倍以上**)と大幅増の回答となった。これまでは紹介ベースでの仕事獲得が中心であったが、今後は自身がコントロールできるHPやSNS、マッチングサービスをより有効活用して首都圏外企業との仕事につなげたいと模索するフリーランスの多さが見てとれる。

■ 首都圏外組織とのコミュニケーション手段（新型コロナウイルス感染症拡大前後比較）

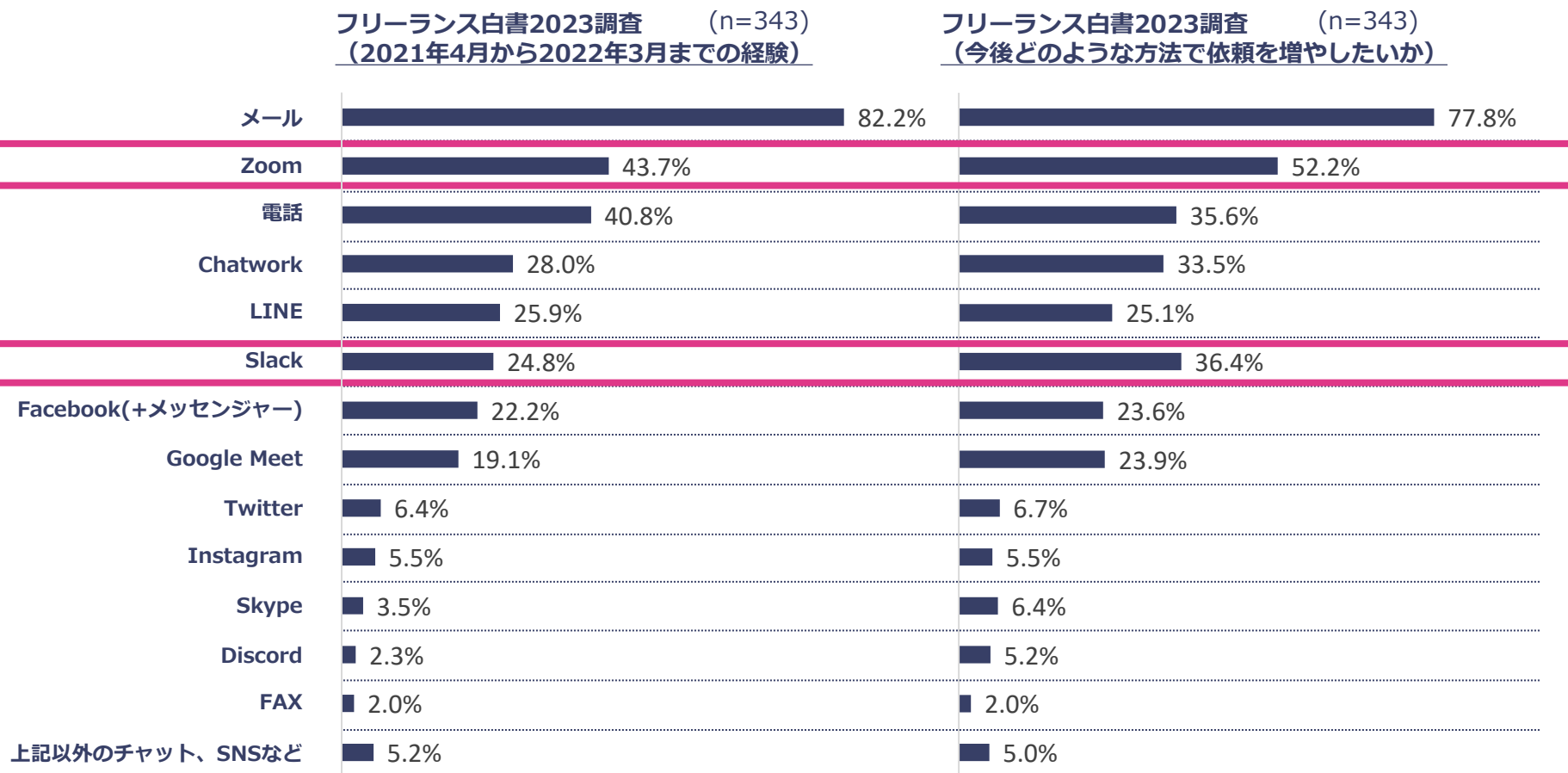
Q.あなたは、首都圏外の組織・法人・自治体等と、どのような形態で連絡をとっていますか。あてはまるものを全てお答えください。（複数回答）



白書2020と白書2023を比べると、Chatwork/SlackなどのチャットツールおよびZoomやGoogle Meetなどのビデオ会議ツールが、フリーランスと首都圏外組織とのコミュニケーション手段として相対的な重要度を増していることが見てとれる。

## ■ 首都圏外組織とのコミュニケーション手段（2021年度経験と今後の希望比較）

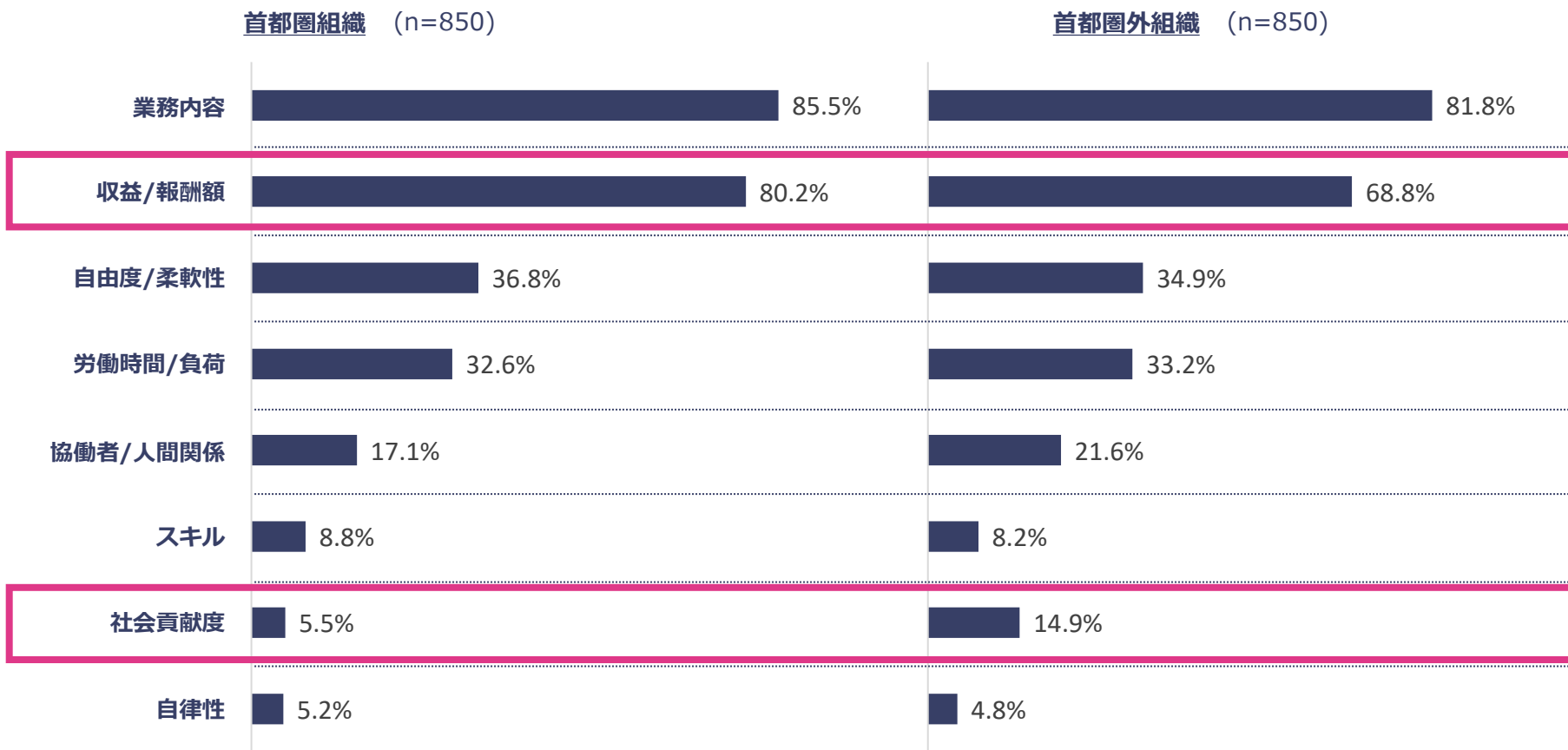
Q.あなたは、首都圏外の組織・法人・自治体等と、どのような形態で連絡をとっていますか。また、今後どのような方法で首都圏外組織と連絡をとりたいですか。あてはまるものを全てお答えください。（複数回答）



2021年度の経験と今後の希望を比べると、全体的な傾向に大きな変化はないものの、個別のアプリケーションとしてZoomおよびSlackの活用増加を希望する回答が多い傾向にある。

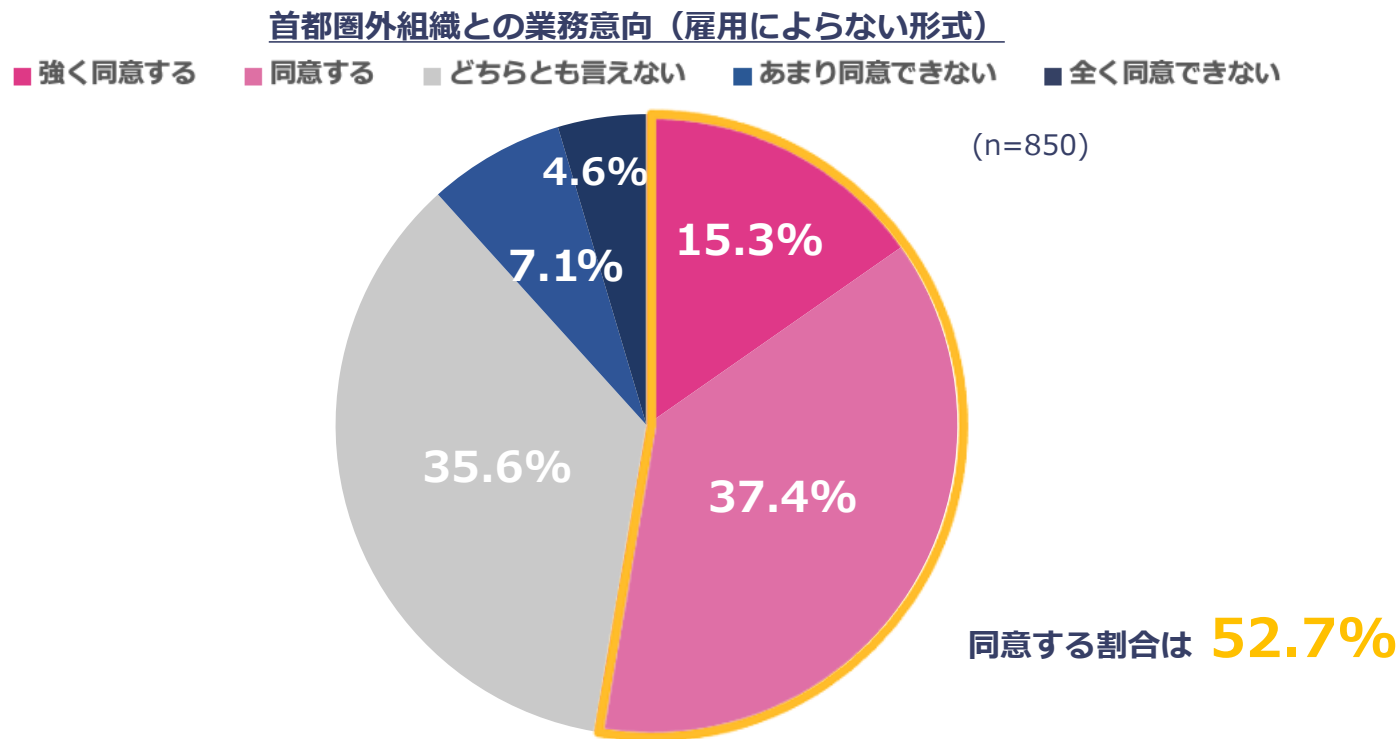
## ■ 仕事を選ぶ際の基準（首都圏内および首都圏外組織を対象にした際の比較）

Q.あなたがフリーランスとして仕事を選ぶ際の基準に関して、首都圏組織および首都圏外組織それぞれに対して重要視する点を3つ選んでください。（複数回答）



仕事を選ぶ際に重要視している点は、首都圏組織と首都圏外組織どちらも「業務内容」の割合が**最も多く**、次に「収益/報酬」「自由度/柔軟性」の順に多かった。大きな傾向には差がない一方で、首都圏外組織との仕事においては相対的に「収益/報酬額」の重要度は低下し、「社会貢献度」を重要視する回答が**9.4%多くなっている**。

Q.今後、雇用によらない形で、本社や本部が首都圏外(東京都、埼玉県、神奈川県、千葉県以外の地域)にある組織(個人事業主、法人、国や自治体、各種団体等いかなる組織も含む)のために、業務ないし活動(ボランティアやプロボノ含む)を実施したいという考えに、同意しますか？(単一回答)



「今後首都圏外組織と雇用によらない業務を実施したい」に同意する割合は**52.7%**と半数を超えており、首都圏外組織との仕事に関するニーズは今後も確実になおかつ大きな割合で存在する。前段で概観したりリモートワークの進展や地方企業への関心増加が追い風となり、地方企業や組織とフリーランスの協業ポテンシャルがさらに拡大することが示唆される。

Q.今後、雇用によらない形で、本社や本部が首都圏外(東京都、埼玉県、神奈川県、千葉県以外の地域)にある組織（個人事業主、法人、国や自治体、各種団体等いかなる組織も含む）のために、業務ないし活動(ボランティアやプロボノ含む)を実施したいという考えに、同意しますか？（単一回答）

職種別：首都圏外組織との業務意向（雇用によらない形式）

■ 強く同意する ■ 同意する ■ どちらとも言えない ■ あまり同意できない ■ 全く同意できない

クリエイティブ・Web・フォト系 (n=226)



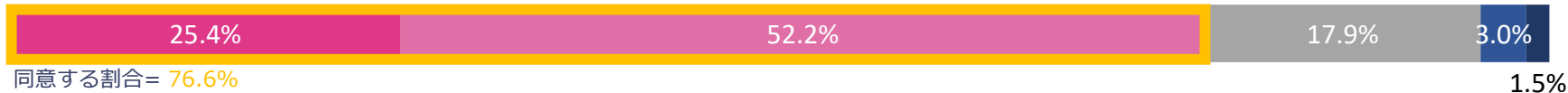
エンジニア・技術開発系 (n=126)



出版・メディア (n=84)



コンサルティング (n=67)

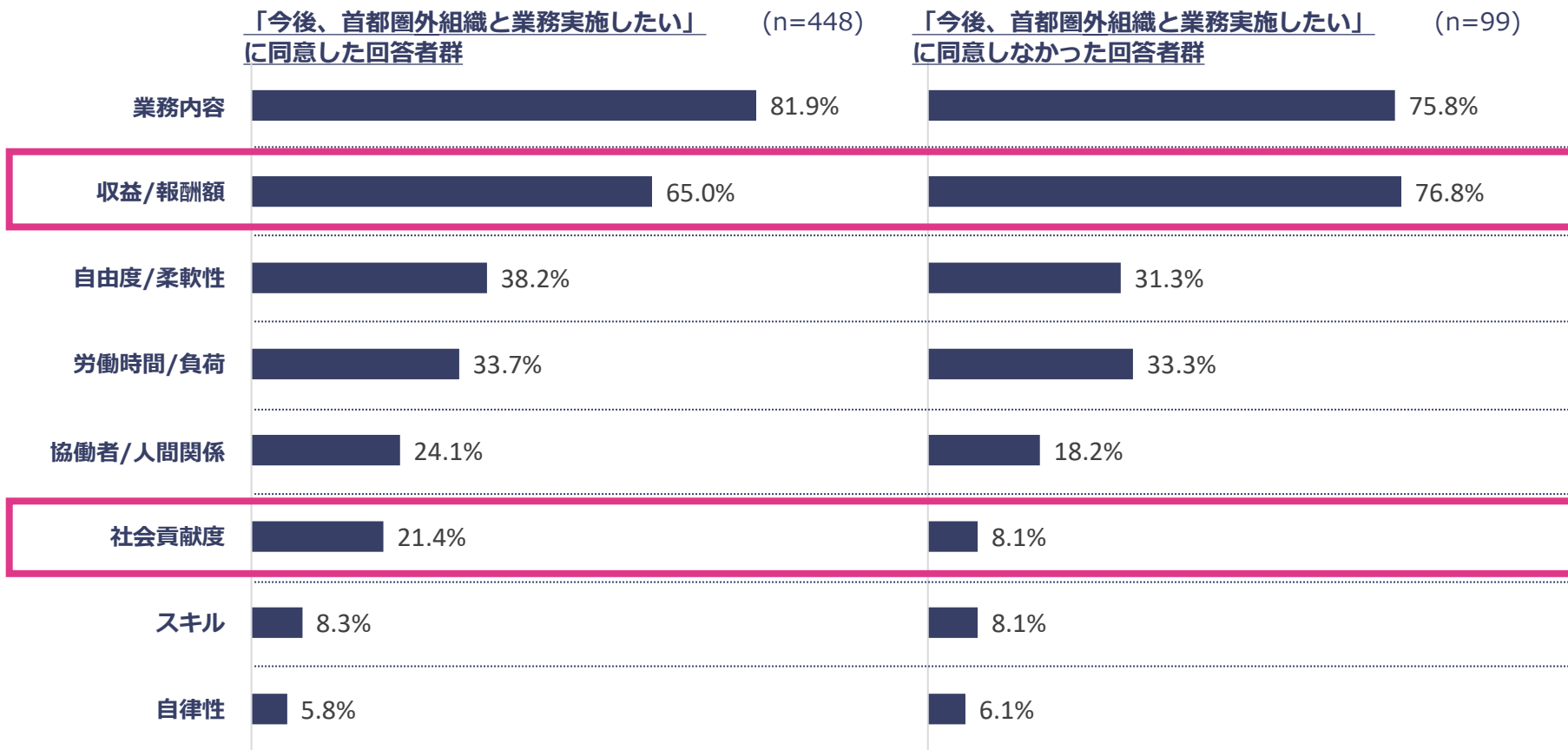


通訳・翻訳 (n=62)



フリーランス職種（回答者上位5種）の中で、特に**コンサルティング**および**メディア関係**の職務に従事している人たちは、首都圏外組織と今後雇用によらず業務を実施したいと考える割合が高い（前ページの全体平均を大きく上回る水準）。

Q.あなたがフリーランスとして仕事を選ぶ際の基準に関して、首都圏外組織に対して重要視する点を3つ選んでください。  
(複数回答)



「今後、首都圏外組織と業務実施したい」に同意した人たちは、同意しなかった人たちと比べて相対的に「社会貢献度」をより重視する傾向にある一方で、「収益/報酬額」に関しては相対的に重要度を下げる傾向にある。首都圏外組織の観点に立つと、より社会貢献度を明確にアピールし、それらを重視するフリーランスとのマッチングを模索する必要性があることが示唆される。



Q.首都圏外の組織から受注したり、首都圏外の組織と業務を進める上で、不安や障害を感じることがあるという考えに、同意しますか？（単一回答）

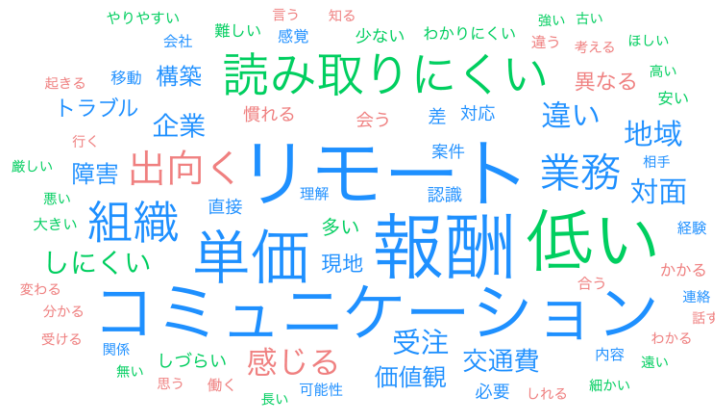
■ 強く同意する ■ 同意する ■ どちらとも言えない ■ あまり同意できない ■ 全く同意できない (n=850)



同意する割合 = **44.2%**

Q.首都圏外の組織と仕事をする際に、どのような不安/障害/課題を感じますか？（自由回答）

回答者のワードクラウド (n=478)



回答者の自由回答抜粋

- リモートワークで仕事をするると仮定した場合に、対面だと伝えやすい内容がリモートだと伝わりにくい可能性がある。
- 対面の方がコミュニケーションはやりやすいので、そういう機会が一度もないままに仕事をやることでトラブルが起きないかな？という心配はあります。
- 報酬が首都圏の組織との仕事より低くなりそうで不安を感じている。

ユーザーローカル テキストマイニングツール(<https://textmining.userlocal.jp/>)で分析

首都圏外組織と業務を進めることに「不安や障害」を感じていると回答したのは**44.2%**であり、半数近くを占めている。具体的には、「リモートワークによるコミュニケーション」や「オンラインツール上でのトラブル」など、リモートワークの普及によって変化したコミュニケーション方法の課題が挙げられていた。また、首都圏組織との「報酬格差」についても課題を感じている傾向にある。



# 第3章 仲介事業者実態調査

フリーランス・副業人材  
仲介事業者 実態調査

▶ 仲介事業者実態調査

調査期間：2022年10月31日～2023年1月17日

調査方法：オンラインのアンケート調査フォームによる回答収集

調査対象：フリーランス協会法人会員のうちフリーランス・副業人材の仲介事業を営む企業

回答完了社数：**25社**

HUBキャリア株式会社

JOINS株式会社

Modis株式会社

UP DOORS株式会社

WooGWay株式会社

エッセンス株式会社

パーソルキャリア株式会社

レバテック株式会社

株式会社LTSリンク

株式会社MEDIKLECT

株式会社Piece to Peace

株式会社Waris

株式会社アイデンティティー

株式会社エンファクトリー

株式会社クオリティ・オブ・ライフ

株式会社コーナー

株式会社サーキュレーション

株式会社パソナJOBHUB

株式会社ビーブレイクシステムズ

株式会社ヒューマン・コネクト

株式会社ママントレ

株式会社みらいワークス

株式会社メタップス

東京反訳株式会社

特定非営利活動法人G-net

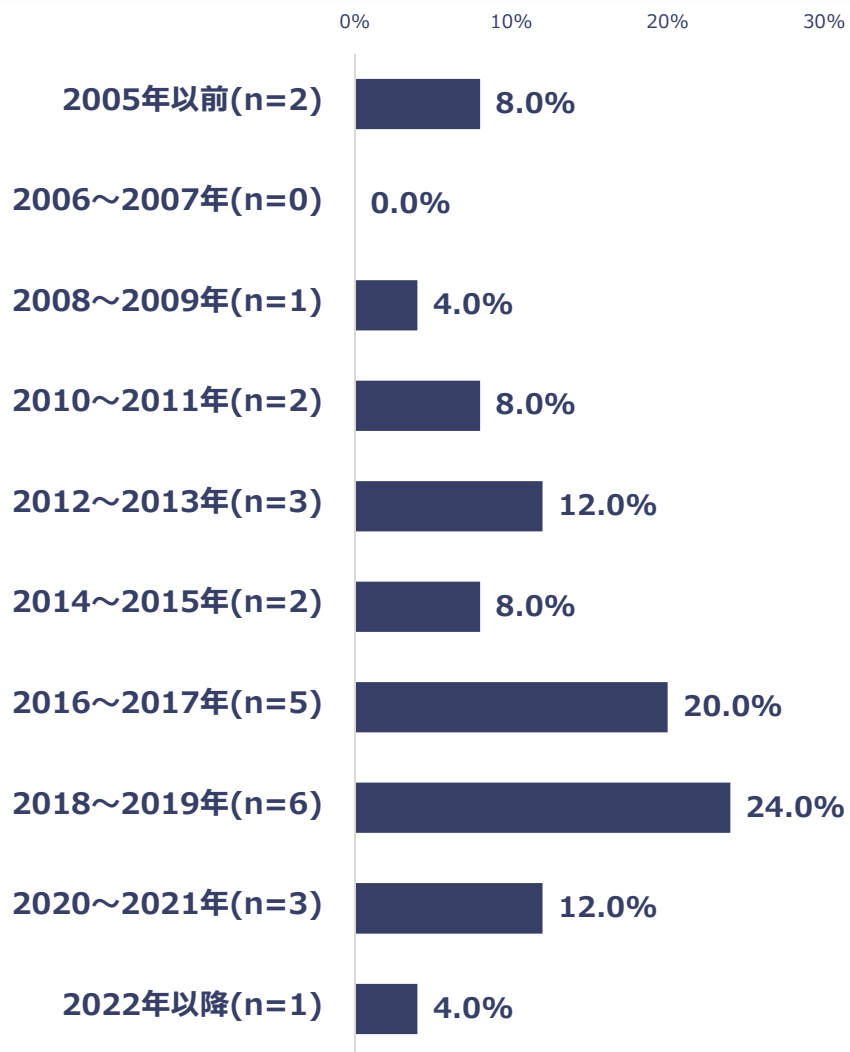
(五十音順)

フリーランス・副業人材  
仲介事業者 実態調査

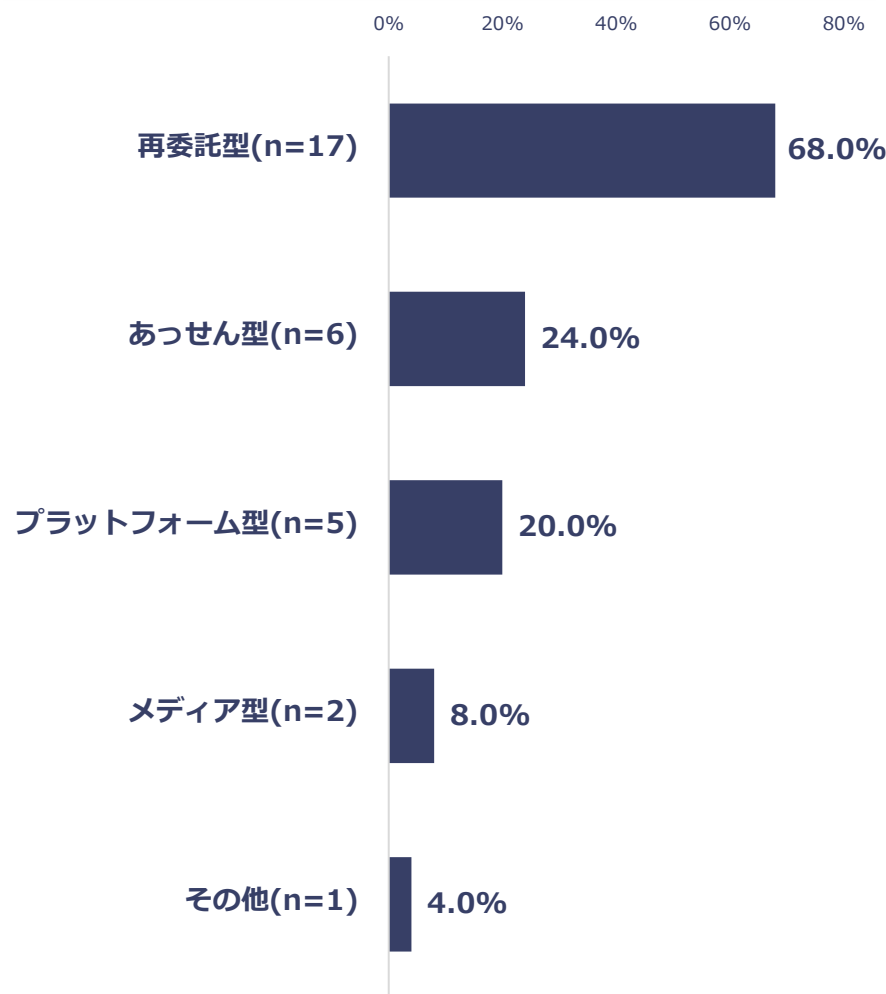
- 回答した事業者のうち、**約4割が2016～2019年にサービスを開始している**。(44.0% n=11)
- 回答した事業者のビジネスモデル類型で**最も多いのは「再委託型」**で、**約7割**であった。(68.0% n=17)
- **フリーランス・副業人材の登録者数**は、「1,000名未満」が16.7% (n=3)、「1,000～10,000名未満」が44.4%(n=8)で最も多く、「10,000名以上」は38.9% (n=7) であった。
- **登録人材全体に対するフリーランス専門者の割合は「8～9割」**が最も多く、**62.6%(n=10)**であった。2020年3月以降（新型コロナウイルス感染症の拡大以降）、「**特に副業者が増えたと感じる**」事業者が**約6割(62.5% n=15)**であり、副業者の増加を実感している仲介事業者が多いことがわかった。
- フリーランスと発注者をマッチングする際の課題を複数回答で聞いたところ、最も多かったのは「**発注者の業務の切り出しができていない**」で**約半数**であった。(56.0% n=14) 課題を複数回答で聞いたのち、そのうち最も課題となるものを単一回答で聞いたところ、約3割が「発注者の業務の切り出しができていない」(28.0% n=7)と回答し、次いで「発注者のコンプライアンスが厳しく、個人との取引ができない」、「フリーランスに対する社会的認知の低さ」であった。(同率12.0% n=3) **受け入れ企業側の環境整備と社会認識について課題が多いと感じていることがわかった。**

フリーランス・副業人材  
仲介事業者 実態調査

回答したサービスの開始時期 (n=25)



ビジネスモデル類型 (複数回答) (n=25)

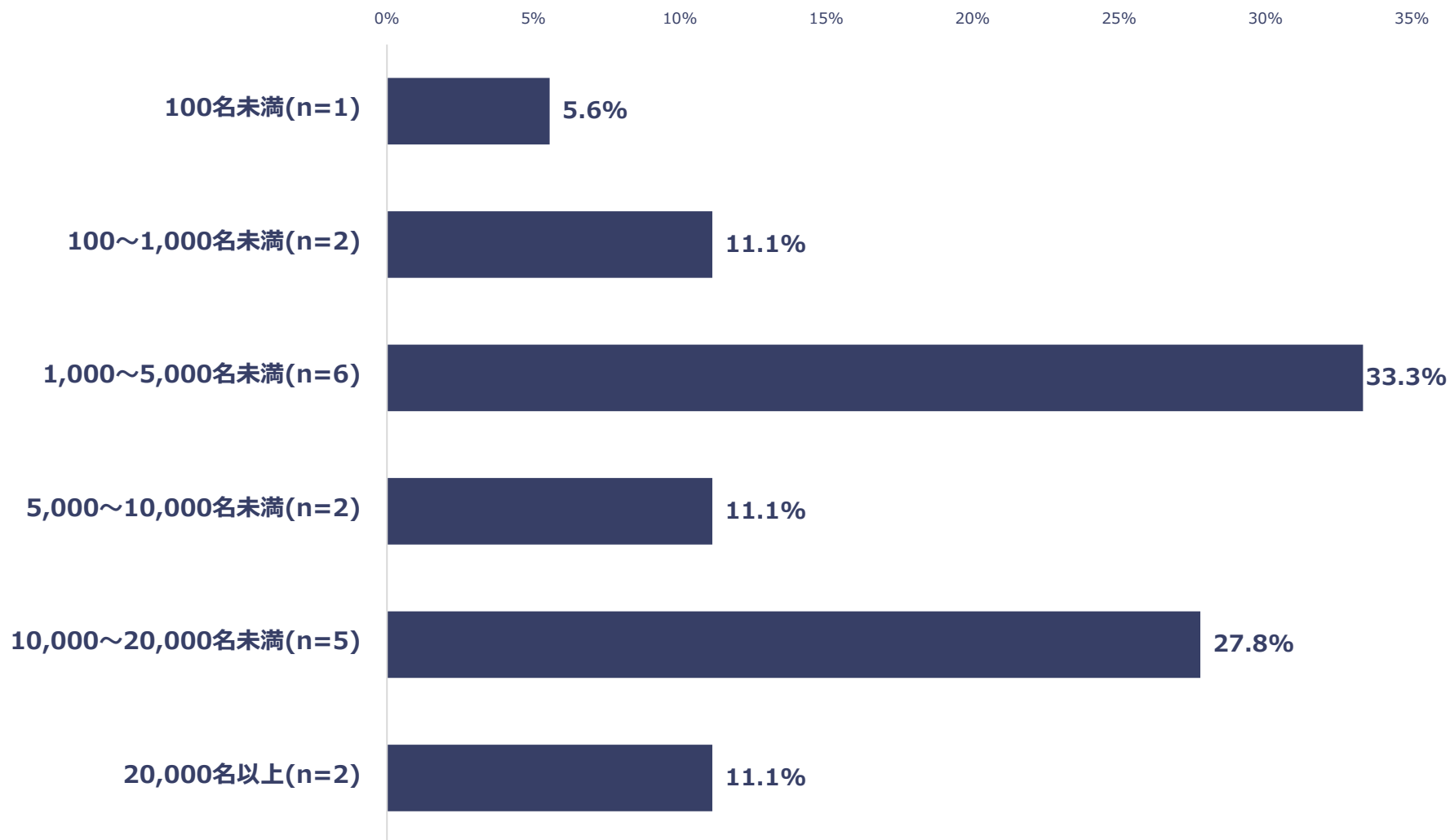


※類型の説明は「[フリーランス・副業人材の仲介事業者のための手引き](#)」参照

フリーランス・副業人材  
仲介事業者 実態調査

フリーランス・副業人材の登録者数

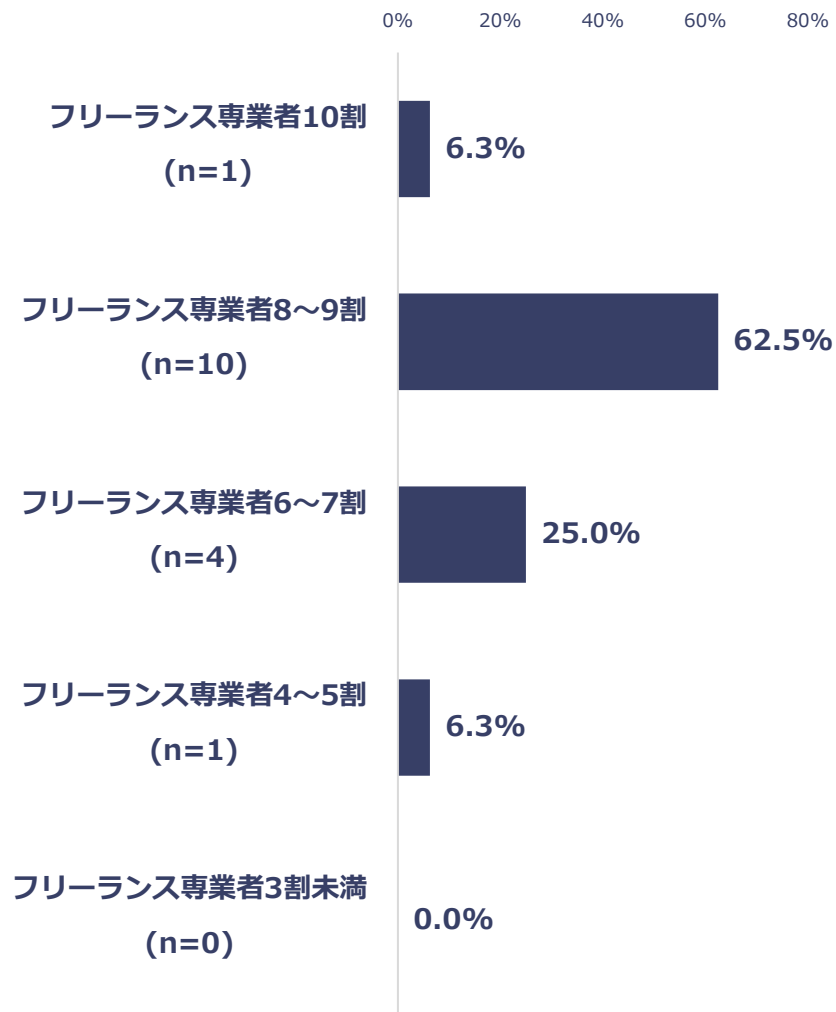
(n=18)



フリーランス・副業人材  
仲介事業者 実態調査

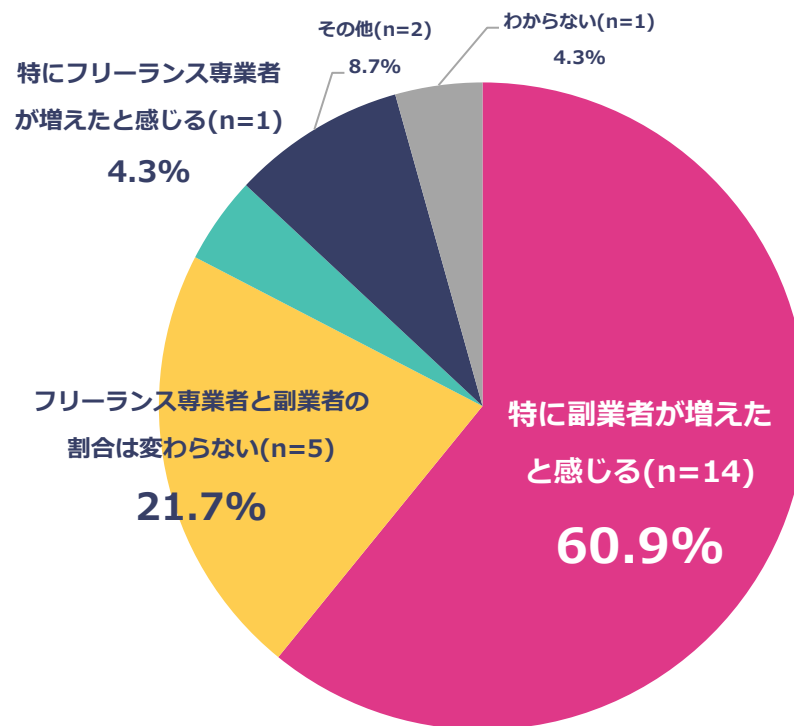
登録者のうちフリーランス専業者の割合

(n=16)



2020年3月以降（新型コロナウイルス感染症拡大以降）の登録者におけるフリーランス専業者と副業者の割合変化

(n=23)

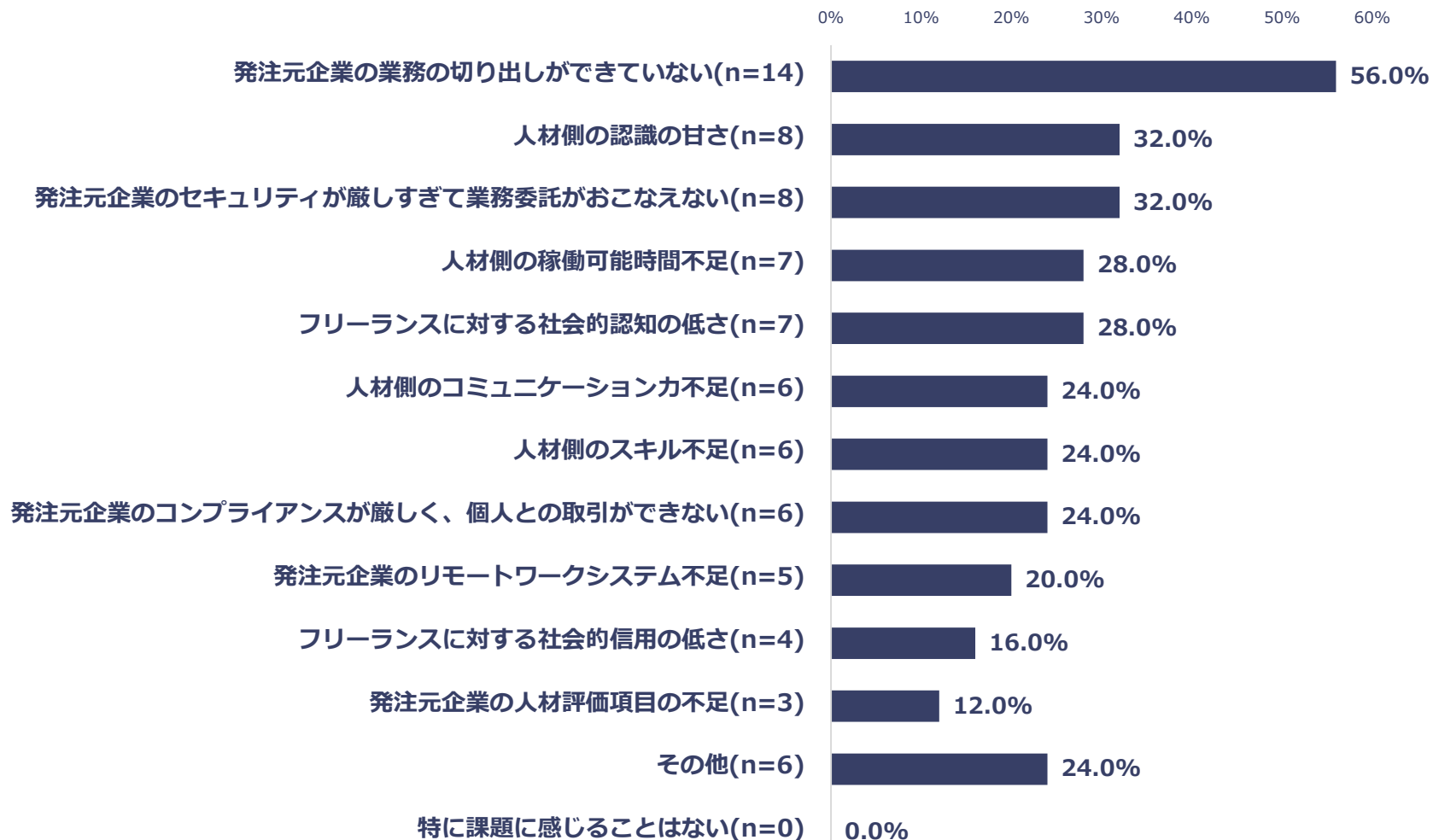




フリーランス・副業人材  
仲介事業者 実態調査

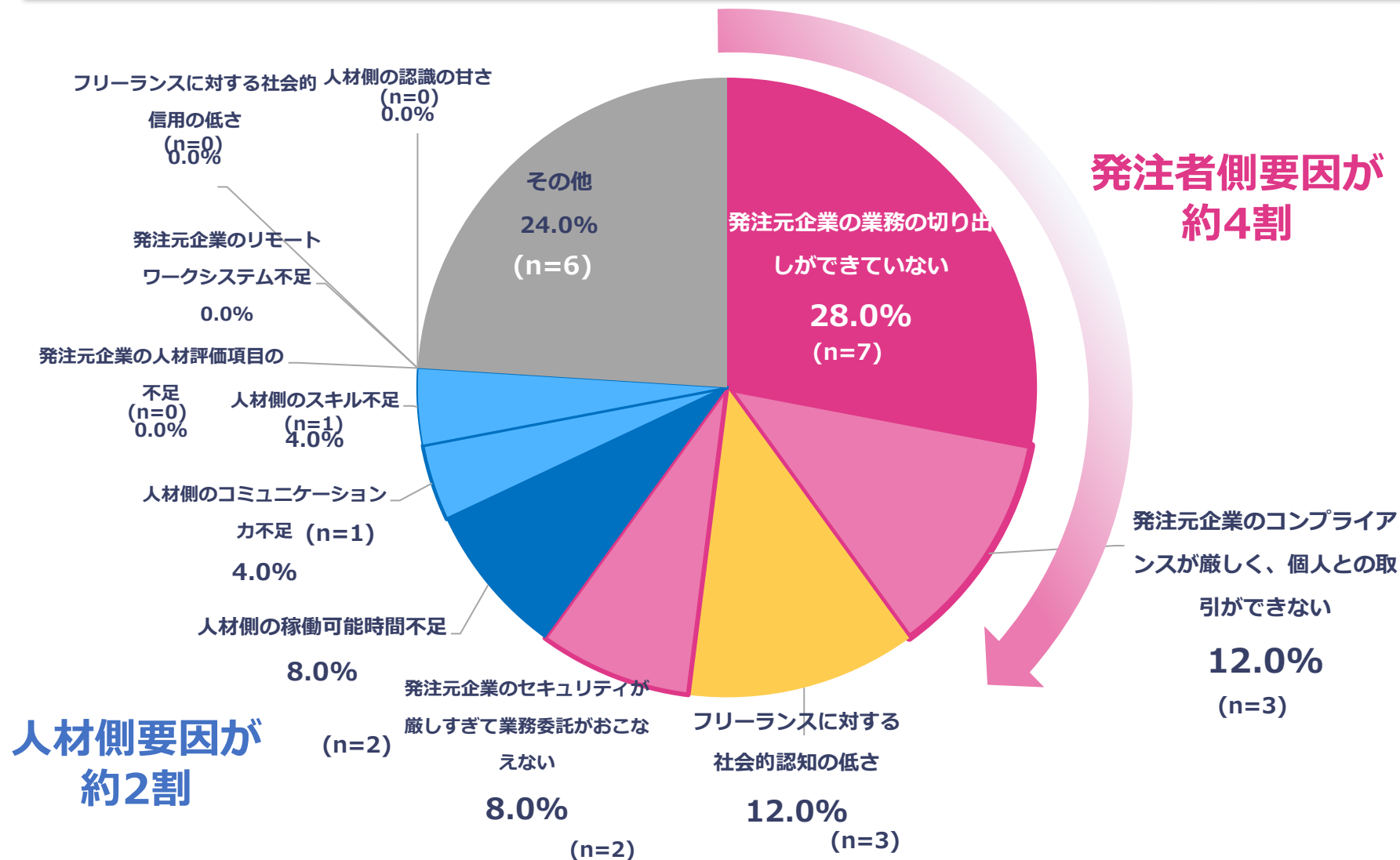
フリーランスと発注者のマッチングにおける課題 (複数回答)

(n=25)



フリーランスと発注者のマッチングでもっとも課題となること (単一回答)

(n=25)



発注元企業に望むこと

(n=17)

□ **フリーランスとしての働き方に対する理解**

- 社員とは違うため、100%稼働や常駐でなくても、チームメンバーとして働いてもらえるという事を理解して、稼働率という感覚を身に付けていただきたい。
- フリーランスを使い捨てだと思わないでパートナーとして接して欲しい
- 自社の課題解決においてフリーランスの活用が有用な選択肢になりえることを理解して欲しい
- 業務委託契約と雇用契約の違いを理解し、働き方を尊重してもらうこと
- フリーランスを認知してもらう
- フリーランスに対するバイアス解消及び発注促進
- フリーランスの稼働を受け入れられる企業が増えること
- フリーランスでも就業可能な案件を増やしていただきたい
- 外部人材の利用についての理解が進むこと

□ **業務の切り分けや社内の意識改革**

- 業務が属人化しないような仕組みづくり。業務内容、職務内容の明確化、言語化。
- 個人事業主を当たり前の選択肢とする社内文化、制度の醸成
- 自社内で切り出すべき業務の要件定義を行うことか、難しい場合は業者と共に要件定義を進めること
- フルリモートでも働けるような環境作りと意識改革
- 外部専門人材への期待すること・成果の明確化
- 社員とフリーランスの業務上の切り分けを理解し、フルコミット以外の人材の採用を積極的に検討いただきたい。
- まずは要件定義の部分からプロフェッショナルにお願いすると行動と認知変容。
- 業績を上げていく上で、組織の開放性（フリーランス人材活用など選択肢を広げること）の重要度の理解

フリーランス・副業人材に望むこと

(n=12)

□ スキルアップ

- スキルアップ、稼働している会社の社員またはプロジェクトメンバーとの協調性をもって働くこと
- 専門性の確立、自律性
- 市場価値を正しく理解し、適正価格で取引が出来る為の知識や情報のアップデートをしていただきたい

□ フリーランスとしてのビジネスマナー

- 情報検索力をもっと持って欲しい
- 派遣との違いをしっかりと認識してもらう
- ・事業者としての自覚や責任を持ち活動すること  
    <例> ・社会人としてのビジネスマナーを守る（挨拶、報連相、身だしなみ等）  
    ・事業者としての各種手続きを適切に行う（届け出、確定申告、納税、保険料納付）  
    ・プロフェッショナルとして仕事をする（タイムマネジメント、セルフコントロール、セキュリティ対策、コンプライアンス遵守、スキルアップ等）
- いち事業主としての責任感、立ち振る舞いを身に着けること
- 期待される役割やコミットメントを理解し提供すること
- 具体的な実施内容と見込める成果の明確化

□ 条件・その他

- コロナも落ち着き、常駐案件が増えているため、せめて週数回の出社等の譲歩が必要
- 案件が決まりそうな際に、スキルを積むことを前提とした単価設定を受け入れてほしい
- 支援の実績を積極的に発信して欲しい 仲介事業者の活用についても周囲に呼び掛けて欲しい

# 第4章 フリーランス協会の活動に ついて

私たちは「誰もが自律的なキャリアを築ける世の中へ」をビジョンに掲げる  
非営利のフリーランス当事者団体です。  
「自分の名前で仕事をしたい人のためのインフラ&コミュニティ」を目指しています。



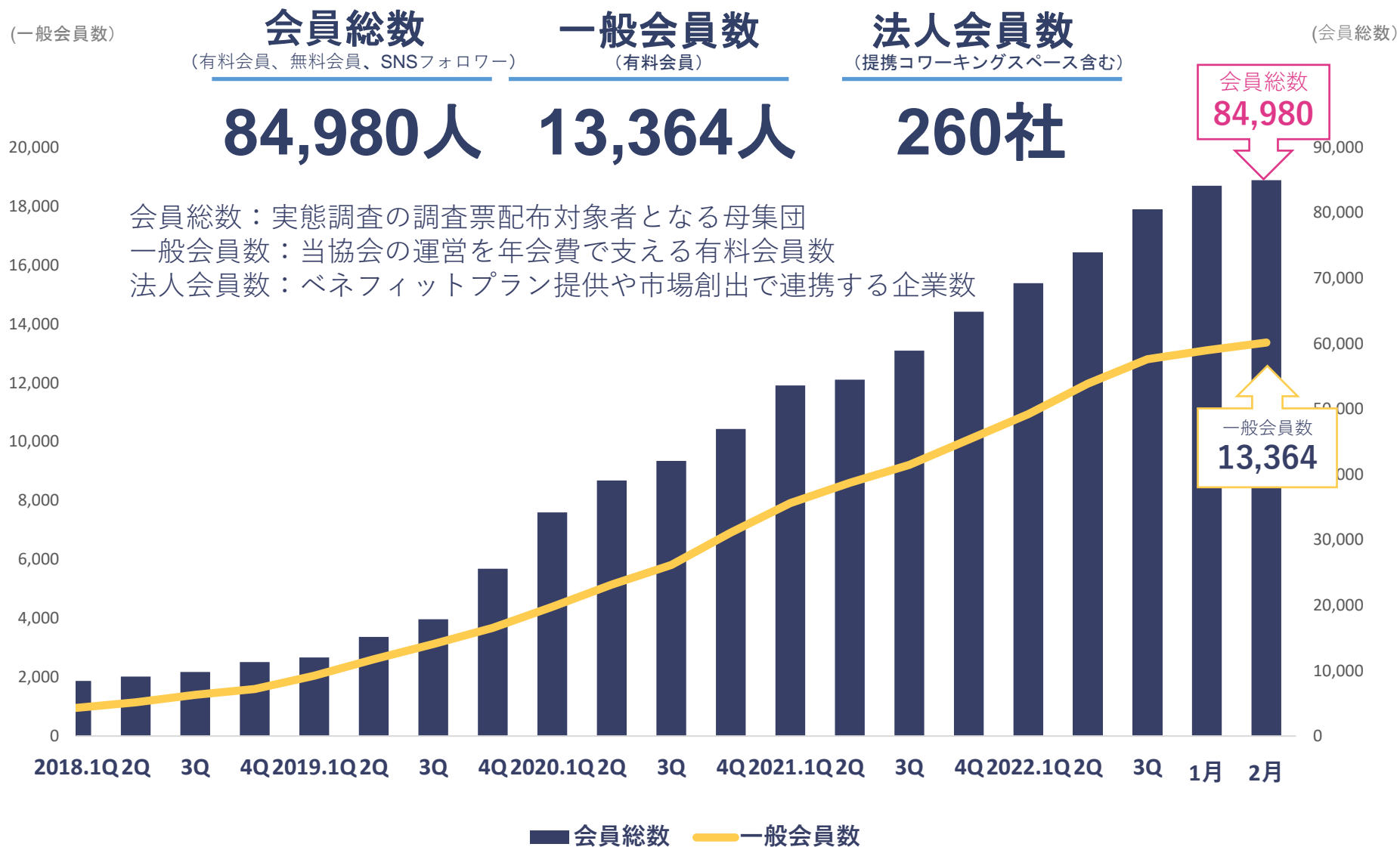
公正・中立な外部への働きかけ



<4つのミッション>

公助への働きかけ × 共助の仕組みづくり × 互助の場づくり × 自助のサポート

より多くの、より多様なフリーランスの声を集めるため、引き続き会員総数の拡大に尽力してまいります



※2023年2月28日現在

## 会員の皆さまにご協力頂いた実態調査データは、様々な政策検討の場で参考にされています

例) 「特定受託事業者に係る取引の適正化等に関する法律案」 法案提出までのプロセスにおいては、  
当協会からも、問題提起を始め、実態調査データに基づく提言や実態把握協力を行って参りました

### < 問題提起～各省庁で個別に検討 >

- 2017年1月 フリーランス協会設立
- 2017年3月 経済産業省「雇用関係によらない働き方に関する研究会」報告書を公開
- 2017年8月 フリーランス協会、政府関係者とプレス向けに最初の問題提起
- 2018年2月 公正取引委員会、独禁法の保護対象にフリーランスを含める（実態調査で協力）
- 2018年3月 厚生労働省、「雇用類似の働き方に関する検討会」報告書を公開（実態把握で協力）
- 2019年6月 厚生労働省、「雇用類似の働き方に係る論点整理等に関する検討会」の中間整理にて保護の検討対象と課題の優先順位を整理
- 2019年7月 内閣府、「日本のフリーランスについてーその規模や特徴、競争避止義務の状況や影響の分析ー」を発表（調査設計で協力）
- 2019年8月 フリーランス協会、報酬トラブル弁護士費用保険「フリーガル」をリリース
- 2019年10月 フリーランス協会、契約トラブル実態調査を実施し、調査結果を政府に提出

### < 内閣官房等の四省庁連携での検討開始～フリーランス・トラブル110番とガイドライン策定 >

- 2020年2月 未来投資会議で、内閣官房、公正取引委員会、厚生労働省、中小企業庁の四省庁連携で、フリーランスの環境整備を行っていくと発表
- 2020年3月 フリーランス協会ほか、自民党政務調査会の経済成長戦略本部で提言
- 2020年3月 フリーランス協会ほか、自民党の競争政策調査会で提言
- 2020年5月 日本経済再生総合事務局、契約トラブル実態に関するフリーランス実態調査を発表
- 2020年6月 フリーランス協会、「フリーランス白書2020」で前年秋に実施した契約トラブル実態調査を公表
- 2020年7月 未来投資会議の「成長戦略実行計画」で、フリーランス取引のガイドライン策定と下請法改正を含む立法的対応の検討を閣議決定
- 2020年11月 第二東京弁護士会、「フリーランス・トラブル110番」の委託運営開始
- 2021年3月 内閣官房、公正取引委員会、厚生労働省、中小企業庁、「フリーランスとして安心して働ける環境を整備するためのガイドライン」公開

### < 契約ルールの法整備検討開始 >

- 2021年6月 成長戦略会議の「成長戦略実行計画」で、書面での契約のルール化など法制面の措置検討を閣議決定
- 2021年7～8月 公正取引委員会、フリーランスの取引実態に関するWebアンケート実施
- 2021年9月 フリーランス協会、報酬トラブル弁護士費用保険「フリーガル」を年会費据え置きで自動付帯に
- 2021年11月 新しい資本主義実現会議の「緊急提言」で、フリーランス保護新法の早期国会提出に言及
- 2021年12月～ 新しい資本主義実現会議、フリーランス当事者や関連団体へのヒアリング・意見交換を実施
- 2022年6月 新しい資本主義実現会議の「成長戦略実行計画」で、フリーランス取引適正化のための法制度の検討と早期国会提出を閣議決定
- 2022年9月 内閣官房（新しい資本主義実現会議）、フリーランス新法の方向性公開、パブコメ募集
- 2023年2月 「特定受託事業者に係る取引の適正化等に関する法律案」を閣議決定、法案提出
- 2023年3月 フリーランス協会ほか、立憲民主党の内閣部門会・フリーランスワーキングチーム合同会議に出席
- 2023年3月 第211回通常国会における国会審議開始



## 会員の皆さまの要望に基づき、フリーランスのキャリアと安心を応援するベネフィットプランを 法人会員の協力を得て開発・提供しています

### 無料会員でも使えるスタンダードベネフィット一覧

- ・オンライン学習（IBM SkillsBuild / Udemy for IBM SkillsBuild）
- ・コミュニティ（Teamlancer）
- ・コワーキングスペース優待（全国123拠点）※2023年2月28日現在
- ・税務関連サービス優待（確定申告支援、クラウド会計など）
- ・ライフ関連サービス優待（住宅、PC購入、wi-fi、家事代行など）
- ・マネー関連サービス優待（銀行・クレジットカード、報酬先払いなど）
- ・キャリア・デザイン関連サービス優待（キャリア相談、Web制作など）
- ・法務・契約関連サービス優待（登記支援、バーチャルオフィスなど）

**IBM SkillsBuild**  
リスニング (IBM SkillsBuild)  
ビギナーからプロフェッショナルまで、6000以上のコースが受講し放題！

**Teamlancer**  
コミュニティ (Teamlancer)  
同業種・同エリアなど、フリーランス仲間と出会う、つながる

**コワーキングスペース**  
全国の提携コワーキングスペースを特別価格でお得に利用できます

**税務**  
確定申告支援  
クラウド会計  
税理士サポート

**ライフ**  
住宅  
wi-fi・携帯電話  
家事代行・シッター

**マネー**  
銀行・クレカ  
フィナンシャルグループ  
先払い

**キャリア・デザイン**  
キャリア相談  
webサイト制作  
仕事紹介

**法務・契約**  
法務相談  
登記支援  
バーチャルオフィス

### 一般会員だけが使えるプレミアムベネフィット一覧

- ・賠償責任保険 ※自動付帯
- ・弁護士費用保険（フリーガル）※自動付帯
- ・収入・ケガ・介護の保険 ※団体割引
- ・WELBOX
- ・税務法務相談（ココリエ）
- ・キャリアドック（キャリアカウンセリング）

※一般会員になるには、年間1万円の会費がかかります。

**賠償責任保険**  
傷めればクライアントも安心！業務上ありがちな賠償リスクを幅広く補償！

**弁護士費用保険フリーガル**  
万が一の契約トラブル時の弁護士費用を自己負担0円で最大70万円補償

**税務・法務相談 (ココリエ)**  
気になる疑問はいつでもオンラインで士業専門家と相談を！PCヘルプデスクも

**収入・ケガ・介護の保険**  
病気やケガで働けなくなっても安心な所得保障制度がお得な団体割引で

**キャリアドック**  
年1回の定期チェックはいかが？キャリアコンサルタントがお手伝いします

**WELBOX**  
健康診断から映画、旅行、グルメ等のレジャーまで多彩な割引が勢揃い！

ベネフィットプランは順次拡大中です。  
最新情報はフリーランス協会ホームページよりご確認ください。  
<https://www.freelance-jp.org/benefits>

フリーランスのニーズや興味関心に合わせ、毎月1~3本のセミナーや交流イベントを開催しています

過去に実施したセミナー・イベント例

2021.5.13.木 19:00-20:00  
無料オンラインセミナー

フリーランスとして  
安心して働ける環境  
を整備するための  
ガイドライン

解説：  
内閣官房/公正取引委員会/厚生労働省

フリーランス協会

個人事業主からの弁護士相談内容ダントツ1位!

フリーランスなら  
必ず知っておきたい  
シリーズ

「報酬トラブル」  
徹底深掘り! 避ける・戦う・取り返すノウハウ

3/24 木 12:00-13:00  
参加無料

主催：フリーランス協会

フリーランスから  
必ず知っておきたいシリーズ

実際にあった怖い話から学ぶ  
契約トラブル回避の基礎知識

フリーランス・トラブル110番に寄せられた相談事例を基に、  
自己防衛のポイントを徹底解説

10/19 火 12:00-13:00  
オンライン(YouTube)ライブ開催 参加無料

山田康成 堀田陽平

フリーランスなら必ず知っておきたいシリーズ

インボイスが不安すぎるので  
何をどうしたらいいのかわからない  
教えてください

2022/10/24 日 12:00-13:30 オンライン開催 参加無料

フリーランス協会

フリーランスなら必ず知っておきたいシリーズ

インボイスとやらが話題ですが  
何をどうしたらいいのかわからない  
教えてください

10/28 木 12:00-13:00  
オンライン(YouTube)ライブ開催 参加無料

フリーランス協会

最新の法人設立サービスを政府担当者が紹介します!

法人設立  
オンライン勉強会

3/17 木 12:00-13:00  
参加無料

フリーランス協会

知ればおトク! やればおトク!

確定申告&電子申告  
基本のキ講座

2.22 水 12:00-13:30 @オンライン

フリーランス協会

来年はもっと楽に!

確定申告ストレスに  
さよならセミナー

6/3 金 12:00-13:00  
オンライン開催 参加無料

フリーランス協会

怖くなくなる!?  
確定申告が  
行列のできる  
税理士相談所

2019 12.26 木 19:00-21:30

ベテランフリーランスと税理士のリアルな知見大集合!!

主催：フリーランス協会 共催：free BlueWorks goago

フリーランスライター  
ステップアップ勉強会

開催日 4/22(水) 15:00-16:00  
オンライン開催  
参加費 一般会員(有料会員)：1,000円  
その他：1,500円

2021 3.19 日 18:00-19:00 ZOOM

フリーランス協会

フリーランス協会コミュニティ vol.2  
フリーランス県人会  
地方でつながるMeetup

2021 3.19 日 18:00-19:00 ZOOM

フリーランス協会

みんなのお昼休み  
近い職種で  
つながろう!

7.7 水 12:00-13:00 @ZOOM

フリーランスコミュニティ vol.3

フリーランス協会



フリーランスのキャリアアップやリテラシー向上に役立つ情報を、オウンドメディア「フリパラ」やメールマガジン（週1～2回）、SNSで発信しています



「フリパラ」の記事コンテンツの例

「フリーランスとして安心して働ける環境を整備するためのガイドライン」(概要)をインフォグラフィックで読んでみる

フリーランスとして安心して働ける環境を整備するためのガイドライン（概要）をインフォグラフィックで読んでみる

怖くなくなる!? 確定申告が  
行列のできる 税理士相談所  
素朴な疑問、丸わかり!!

一人カフェ作業、クライアントの忘年会は経費になる？ 飲食にまつわる経費の疑問を、税理士法人3社に聞いてみた！

フリーランス 値段交渉 難しすぎ問題

フリーランス値段交渉難しすぎ問題【フリラン教室所】

フリーランスの単価 上がるの問題

ずっと同じ金額で仕事するの…？フリーランスの単価、どうすれば上がるの問題【フリラン教室所】

法人設立がオンライン化

24時間で法人設立！？ 2月に更新された「法人設立ワンストップサービス」は、今までと何が違うのか？

「キャリア自律」の第一人者 慶應義塾大学大学院教授・メディア研究科教授 高橋俊介氏に聞く  
自分ならではのバリューを出し続ける！  
フリーランスの仕事術

自分ならではのバリューを出し続ける！フリーランスの仕事術

COST

冷蔵庫の買い替えて、電気代がマイナス40%！？頑張らない「固定費削減」のススメ

フリーランスなら必ず知っておきたいシリーズ！  
ケーススタディで学ぶ！  
インボイス制度の  
メリット・デメリット

ケーススタディで学ぶ！インボイス制度のメリット・デメリット

ワンランク上のフリーランスになる!

クライアントの無茶ぶりは、この6パターンで、華麗にかわそう～ワンランク上のフリーランスになる！～

エンジニア占い師オガティのフリーランス占い6月

エンジニア占い師オガティのフリーランス占い6月

フリーランス的 “読書ジム”

「学習」=「知識やスキルのインプット」ではない！？未来が見えない今こそ必要な「アンラーニング論」

会社を辞める前に知っておきたい！  
労務・総務の  
素朴なギモン

Q.会社を辞めると、もう社会保険には入れないんですか？

公助への働きかけ（政策提言）や共助の仕組みづくり（ベネフィットプラン）を通じて、引き続きフリーランスでも安心して活躍できる社会を目指して活動してまいります

	各種セーフティネット	フリーランス協会設立前				フリーランス協会設立後
		正社員	非正規社員	法人経営者	個人事業主	フリーランス向け対策 赤字：政府（下線は検討中）、黒字：協会
健康	健康診断・人間ドック	○	△	△	△	WELBOX優待
	傷病手当金（健康保険）	○	△	○	×	収入・かゝ・介護の保険
	労災保険	○	△	×	×	特別加入制度拡大、収入・かゝ・介護の保険
出産・育児	休業の配慮	○	△	×	×	<u>フリーランス新法</u>
	出産手当金（健康保険）	○	△	○	×	
	育児休業給付金（雇用保険）	○	△	×	×	経済的支援制度の新設
	社会保険料免除	○	△	×	×	国民年金保険料の免除、健康保険料の免除
介護	保育園へのアクセス	○	△	△	△	保活の不利是正、WELBOX優待
	介護休業給付金	○	△	×	×	収入・かゝ・介護の保険
資産形成	国民年金	○	○	○	○	
	厚生年金	○	△	○	×	国民年金基金（加入促進）
	資産形成（iDeCo、NISA）	○	○	○	○	
安定収入	失業保険	○	△	×	×	創業者の受給期間延長
	職業訓練給付、リスクリング投資	○	△	×	×	IBM SkillsBuild（Udemy for IBM SkillsBuild）ほか
	仕事獲得支援	○	○	×	×	フリーランスDB
	キャリアドック	○	△	×	×	フリーランスキャリアドック
契約トラブル	契約条件明示・履行確保等（労働法制）	○	○	×	×	<u>フリーランス新法</u>
	相談窓口（労働基準監督署）	○	○	×	×	フリーランス・トラブル110番
	賠償責任保険	—	—	—	—	フリーランス向け賠償責任保険
	弁護士費用保険	—	—	—	—	フリーガル（弁護士費用保険）
ハラスメント	ハラスメント防止措置	○	○	×	×	パワハラ防止措置、 <u>フリーランス新法</u>
コロナ対策	収入減の救済措置	—	—	—	—	持続化給付金、緊急小口資金、総合支援基金
	休校に伴う子育て支援	—	—	—	—	ベビーシッター助成、小学校休業等対応支援金

## フリーランス白書2023

2023年3月発行

(発行)

一般社団法人プロフェッショナル&パラレルキャリアフリーランス協会  
調査・白書プロジェクト

(データ分析)

第2章2-1～4、第3章 後藤潤子、平田麻莉  
第2章2-5 慶應義塾大学SFC清水たくみ研究会

(カバーデザイン)

野村理美

(事務局)

中山綾子、鈴木正美、たくまのりこ、蓮池春世、伊藤佳穂、後藤大雅

(お問合せ先)

一般社団法人プロフェッショナル&パラレルキャリアフリーランス協会  
[pr@freelance-jp.org](mailto:pr@freelance-jp.org)

### ※引用・転載にあたってのお願い

本調査結果は、下記条件に基づき、ご自由に引用・転載いただくことができます。

- 1) 必ず下記のクレジット表記をお願いします。  
一般社団法人プロフェッショナル&パラレルキャリア・フリーランス協会  
「フリーランス白書 2023」
- 2) お手数ですが当協会事務局へ掲載報告をお願いします。
  - ・ウェブサイトの場合：メールにて掲載URLをお知らせください
  - ・印刷物の場合：掲載された書籍や記事を郵送でお送りください
  - ・テレビ放映の場合：予め放映日をお知らせください